

青 藍

藍野大学年報 2024



藍野大学

私が藍野大学学長に就任して 3 年が経ちました。この場を借りて、この 3 年の大学運営の取り組みと成果、そして次年度以降の計画について紹介いたします。

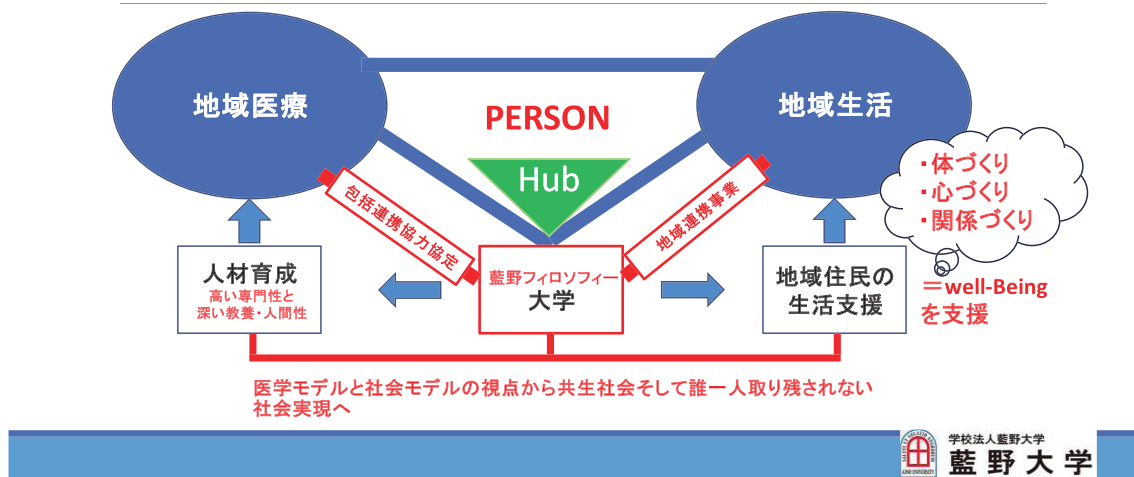
1. 藍野モデルに基づく取り組み

医学モデルと社会モデルの視点から共生社会を目指し、誰一人取り残されない社会を実現するため藍野モデル（図 1 参照）を提唱しています。この藍野モデルを進化させる取り組みとして、中長期を視野に入れた学部・学科の再編を実施しました（図 2 参照）。

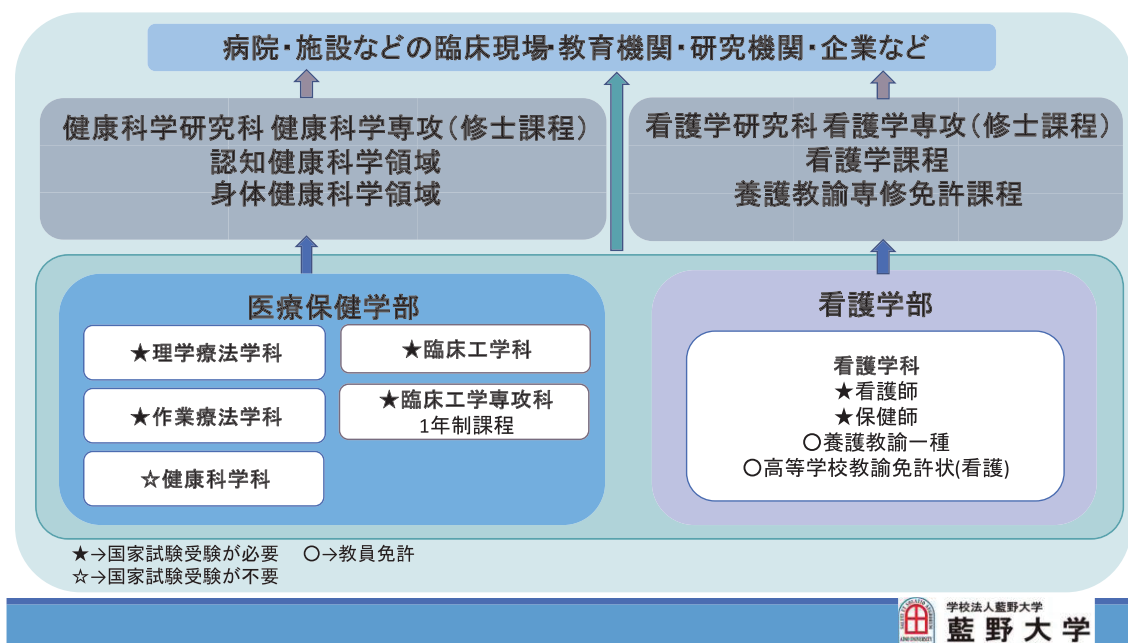
具体的には①地域医療を支え、地域医療に貢献するため、より高度な人材育成を目指し、2024 年健康科学研究科、2025 年看護学部、看護学研究科に養護教諭専修免許課程、臨床工学専攻科をそれぞれ設置します。②地域生活の支援、さらに地域の健康増進・ウェルビーイングに貢献するため 2025 年健康科学学科を設置します。これにより藍野大学は 2025 年 4 月より 1 学部 4 学科 2 研究科から 2 学部 5 学科 1 専攻科 2 研究科へと生まれ変わります。

<図 1 3 つの Life「生命・生活・人生」の統合を目指す藍野モデル>

3つのLife「生命・生活・人生」の統合を目指す藍野モデル



<図2 藍野大学パスウェイ>



2. 藍野大学開学 20 周年、藍野大学大学院看護学研究科開学 10 周年記念式典の開催

2024 年 11 月 30 日、藍野ホールにて記念式典を挙行了しました。式典には招待者および本法人教職員約 250 名が出席しました。式典の第一部では理事長、副理事長および学長からの挨拶のほか、科学研究費補助金女性採択者の表彰等を行いました。第二部では、記念講演として梅花女子大学学長の河村圭子先生を講師に迎え、「ある小規模私立女子大学の挑戦」をテーマに講演いただきました。その後の模擬手術室見学会、フーコバーナでの情報交換会にも多数の招待者にご参加いただき、盛況のうちに終了することができました。式典準備にご尽力いただいた教職員の皆様に深く感謝申し上げます。この式典を通して、改めて「つながること」の大切さを強く感じました。

3. 大学に求められる 4 つの力（教育力・研究力・連携力・募集力）からみた取り組みと成果

まず教育力について述べます。2023 年度国家試験は看護師 94.4%、理学療法士 98.9%、作業療法士 97.7%、臨床工学技士 88.9%とそれぞれ全国平均を大きく上回ることができました。また 2023 年度私立大学等改革総合支援事業（タイプ 1）に二年連続で選ばれました。令和 5 年度申請 365 校中 78 校選定（選定率 21%）という非常に狭き門をクリアできたことは本学の教育力の高さを示すものとして非常に価値のあることだと考えております。

次に研究力については、科研費配分額ランキングにおいて私立大学 590 校中 256 位でした。また特筆すべき事項として令和 6 年度科研費における女性採択比率が全国 1 位になりました。昨年の 2 位に続く快挙達成です。我が国において女性教員、女性研究者の増員が喫緊の課題となっている中、本学の快挙は教育・研究分野のダイバーシティを象徴する事例として各方面から大きな注目を集めています。学会関係では研究科長西上あゆみ先生が大会長の元、日本災害看護学会第 26 回年次大会が開催されました。

連携力については、本年は社会貢献委員会の活動を中心に述べたいと思います。

- ① 2024 年 8 月 19 日第 2 回市民公開講座では中学生を対象として職業体験会を実施しました。茨木市内の中学生全員にチラシを配布し、募集人数を上回る申し込みがあり、大好評のうち終了しました。

本学と地域、特に中学生という若年者とのつながりを具体的に形にできたことは大きな成果だと考えています。来年も継続実施を予定しています。

② 本年度の地域連携プロジェクト補助金は5件のプロジェクトが採択されました。

1. 「地域の方・学生・教職員が自由に活用できる持続可能なパブリックスペースを目指して」
2. 「レビー小体型認知症に対する当事者および家族への支援プロジェクト」
3. 「Aino de まちトレ・Health and smile with exercise」からだをきたえて健幸生活」
4. 「発達障害・精神障害を有する不発退学児に対する作業療法支援（地域の支援機関との連携プロジェクト）」
5. 「地域子育て世代への健康教育プロジェクト ～認定こども園や地域住民との協働～」

以上の活動は地域社会の重要な課題に取り組み、大学として社会貢献活動が進展していることを示していると考えます。

最後に募集力についてですが、2024年度新入学生は定員の0.95倍と非常に厳しい結果となりました。2024年度入試は特に医療系にとって厳しい入試であったとはいえ、私たちは危機感を持ってこの状況に対応せねばなりません。高校訪問、オープンキャンパス、SNS発信等、地道に粘り強く、戦略的に募集広報活動を実施することはいうまでもありませんが、新しいアプローチも必要だと考えます。

4. 藍野モデルに基づく新しい取り組み

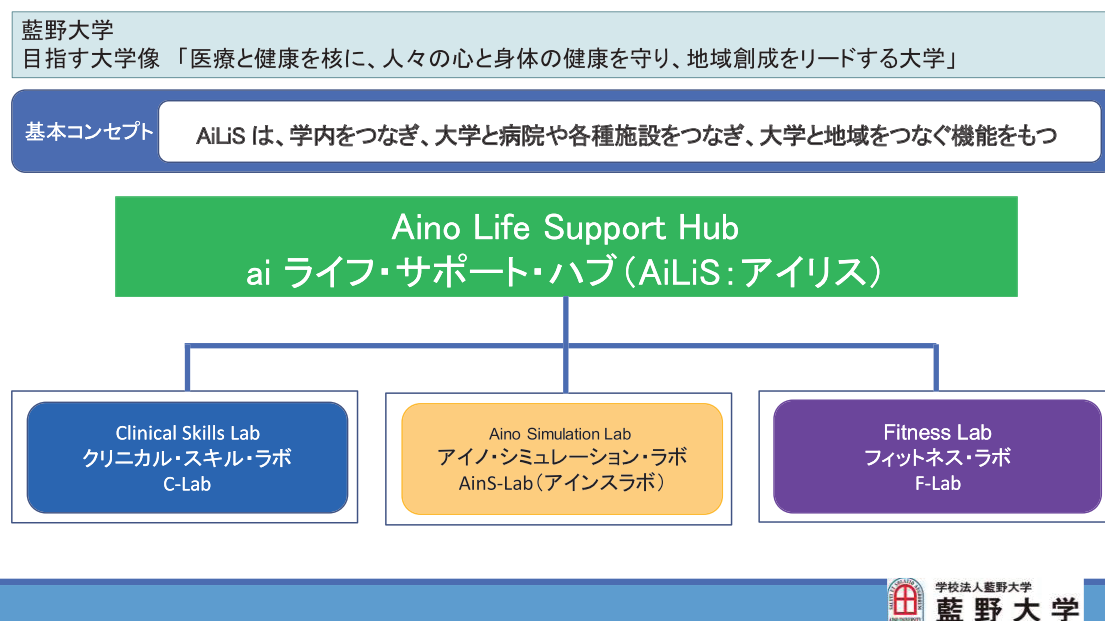
まず最初に藍野モデルには2つの視点があることを明示したいと思います。

- ① 大学からの視点：地域医療、地域生活の充実に大学が深く関与することにより、地域と大学が協働して **person** を支援・サポートする。
- ② **person** からの視点：藍野モデルとは本来 **person** が中心となるシステムであり、**person** が主体的に「生きる」ことを支援するシステムである。「生きる」ことには生命、生活、人生の3つのLifeがある。「生きる」ことを充実させるためには、3つのLifeである生命・生活・人生それぞれの意義を深く理解したうえで実践することが必要である。また「生きる」ことの土台づくりとして、自分自身が健康を創ることも重要である。

以上この2つの視点から、藍野大学が目指すべき大学像は **person** が「生きる」こと、また「健康である」ことを地域と協働して支援・サポートしていく大学だと考えます。

これらの実現のために **person**、大学、地域をつなぐ機能が求められる中、新たな機能を持った施設が大学には必要だと考えます。2025年から3つの施設を開設する予定です。3つの施設の基本コンセプトは、藍野モデルに基づく、地域に開かれ、地域に貢献する施設です。それぞれの施設の概略を示します（図3参照）。

<図3 藍野大学3つの施設>



- ① Clinical Skills Lab (C-Lab) : 2023 年度に開設した模擬手術室はすでに人工心肺装置を用いた心臓手術のシミュレーション実習や緊急帝王切開に対する実習が実施されている施設ですが、2025 年リニューアルし、今後積極的に地域での活用を進めていきます。
- ② Fitness Lab (F-Lab) : 2025 年 4 月に開設予定で、最新のトレーニング機器や計測装置をはじめ、ダンスやピラティスに使えるスタジオも備えている総合トレーニングセンターです。健康科学科や理学療法学科・作業療法学科を中心に地域の健康増進・ウェルビーイングに貢献できる人材育成に活用するとともに、地域に開放し、地域住民の健康増進・ウェルビーイングに直接貢献できることを目指します。
- ③ Aino Simulation Lab (AinS-Lab) : 2025 年 6 月に開設予定で、臨場感あふれるプロジェクションマッピングによる映像投影シミュレーションや在宅看護シミュレーションを活用した実習室であり、地域看護を実践的に学べます。将来的には近隣の医療職・福祉職・介護職の総合研修や一般市民対象の災害時対応・介護教室等の実施を予定しています。

この3つの施設を Aino Life Support Hub (AiLiS: アイリス) と名付け、2025 年度の募集・入試広報活動にも積極的に活用していきたいと考えております。

10 年後の開学 30 周年に向けて、藍野大学は変革の歩みを止めることなく、教職員一丸となって邁進してまいります。

2024 年 年報 発刊にあたって

副学長・中央研究施設長 栗原秀剛

2024 年を振り返ってみると、あまりにも多くのことがあり、あっという間に終わってしまったという感覚があります。1 月 1 日の能登半島地震では多くの犠牲者がただけでなく、インフラの損害が著しく、夏の能登半島豪雨も加わって 1 年たった今でも場所によって復旧の目処が立っていないことは、受け入れがたい現実です。一刻も早い復興を願っています。私は阪神淡路大震災を大阪で、東日本大震災を東京で経験しましたが、不意にやってくる自然災害に対してどのように備えておくかが極めて重要だと痛感しています。

学内に目を向けると、大学院に健康科学研究科が新たに加わりました。大学院では私の専門である腎臓学の講義を担当しており、すべてオンライン講義でしたが、スムーズにできたのではないかと自負しています。第 1 期となる大学院生も熱心に取り組んでおり、今後の活躍が楽しみです。

研究面では、文部科学省が行った今年度の科学研究費の助成事業において、採択された研究のうち女性研究者が占める割合が高い大学が発表され、本学が昨年の 2 位から遂に全国 1 位となりました。大変誇らしいことですし、科研費を獲得された先生方のご尽力に感謝申し上げます。このランキングが科研費申請数 50 件以上の大学を対象として発表されることは意外と知られていません。本学が同規模の大学の中でも高い申請数（本学では資格を有する教員のほぼ全員が申請）を誇っているからこそその快挙であることは強調しておくべきでしょう。それ故、この全国 1 位は全員で勝ち取ったといっても過言ではありません。昨年もここに記載しましたが、本学における働き方改革の一環として女性研究者が活躍できるよう、なお一層研究しやすい環境づくりや支援体制の強化を具体化していくことが重要です。

2025 年は藍野大学にとって新たなページを開く大切な年となります。看護学科が看護学部として独立し、医療保健学部健康科学科が加わり、さらに新たな施設の開設も予定されています。また、新入生を対象として電子教科書が導入されることになっており、大きく環境が変わることになります。こうした新しい風が順風となって本学を大きく前進させていくことを願っていますが、おそらく予想しないことが次々と起こることは覚悟しておく必要があります。そうしたことに適切に対応していくことで、藍野大学が新たなステージに上がることができると確信しています。教職員の方々にはなお一層のご協力をお願いいたします。

目 次

I	大学および学科便り	
	2024 年度の藍野大学医療保健学部の歩みと Ain Univ. Fitness-Lab の紹介	1
	2024 年度 看護学科の取り組み	
	2024 年度の理学療法学科の取り組み	
	2024 年度の作業療法学科の取り組み	
	2024 年度の臨床工学科の取り組み	
	2024 年度 看護学研究科の取り組み	
	2024 年度 健康科学研究科の取り組み	
	藍野大学 中央研究施設	
	藍野大学 キャリア開発・研究センターの取り組み	
	藍野大学・藍野大学短期大学部事務センターから藍野大学事務センターへ	
	4 年間の図書館の歩みを振り返る	
	開学 20 周年について	
II	2024 年度の出来事	29
	特集 1 2024 年の FD・SD 推進活動	
	特集 2 大学教育改革のトレンドと本学の教学 IR(教学 IR 室)	
	特集 3 一般社団法人日本災害看護学会第 26 回年次大会を開催して	
	特集 4 〈研究紹介〉科学研究費補助金採択課題について	
	1. 日本における病院看護部の備えと看護師の防災リテラシーの進展	
	2. 医療と看護と介護の連携に活かされるホームヘルパーの観察項目の研究	
	3. 住還するネパール人：家族の生存戦略と教育課題	
	4. 「いつ、どこでも、ひとりで」骨盤介助型歩行練習車の基盤技術構築	
	5. ひきこもり当事者の自宅内活動と主観的価値の解明	
	6. 内耳における血管新生と低酸素応答についての検討	
	特集 5 高齢者の呼吸筋力に対する水中歩行の持続効果	
	特集 6 送・脱血流量が静脈リザーバ内薬液濃度変化に与える影響	
	特集 7 うつ病群と無気力群における脳波を用いた脳機能ネットワーク解析による媒介中心性の比較	
	特集 8 第 8 回世界災害看護学会への参加	
	特集 9 新 1 年生に対する学習基盤確立を目指した新しい学習支援の取り組み —看護学科 1 年生担任の実践報告—	
	特集 10 Aino de まちトレ-Health and smile exercise からだの調子はどうですか?からだをきたえて健幸生活	
	特集 11 2024 年度 作業療法学科教員による地域貢献活動	

Ⅲ 学年暦・学生の状況	87
Ⅳ 研究業績と社会貢献	93
科学研究費助成事業について	
教員研究業績・発表等	
編集後記	

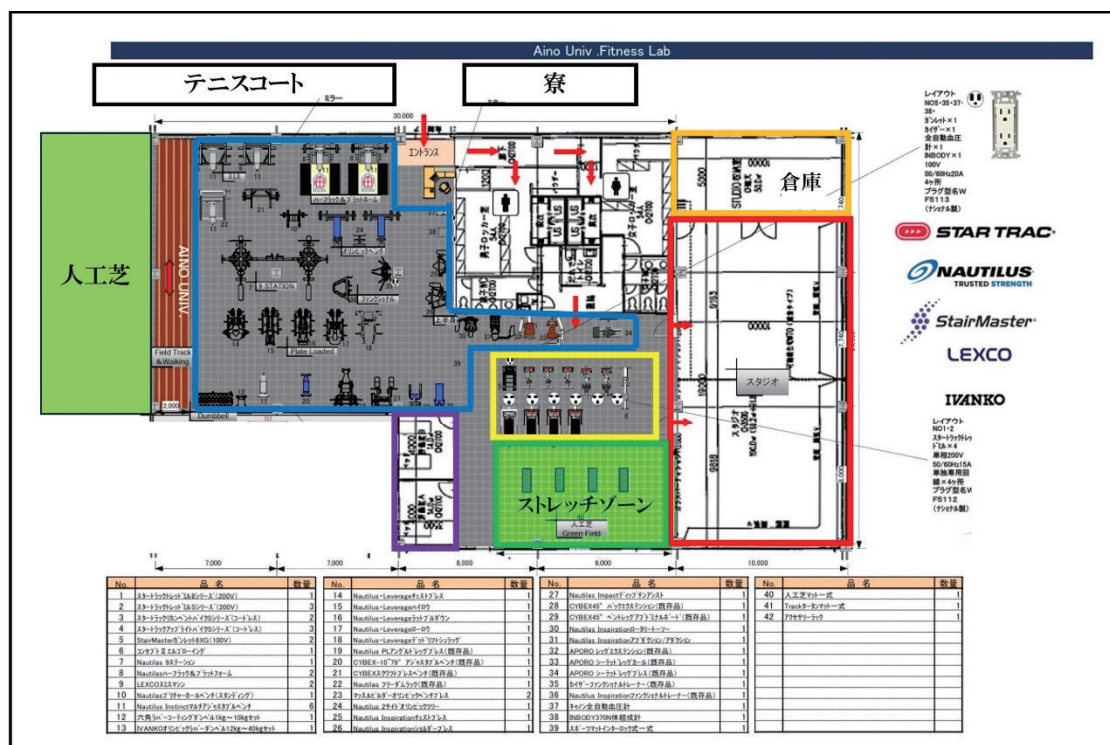
大学および学科便り

2024 年度 藍野大学医療保健学部 of 歩みと Aino Univ. Fitness-Lab. の紹介

医療保健学部長 後藤昌弘

2025 年度入学生に向けた藍野大学のパンフレットの表題「Transforming Aino Blue 変革する藍野大学」に表される通り、2024 年度の藍野大学はまさに変化の年であった。4 月には大学院健康科学研究科の 1 期生がスタートし、2025 年 4 月に開講予定の医療保健学部健康科学科が 7 月に、1 年間で臨床工学技士資格を取得できる臨床工学技士専攻科が 8 月に、養護教員免許の上位ライセンスを取得できる看護学研究科養護教諭専修課程が 12 月に、それぞれ文部科学省から認可された。また、藍野大学開学 20 周年、大学院看護学研究科開学 10 周年を記念して、現在の E 棟に Simulation-Lab. を、旧藍野高校跡地に Fitness-Lab. (通称 F-ラボ) を設置するとともに、ABC 棟の校舎リニューアル工事も実施した。

次に、学部および大学院生の授業や研究活動、学生・教職員の健康づくり、さらに子どもから大人までの健康増進を目的とした社会貢献活動等に利用される F-ラボについて紹介する。



Aino Univ. Fitness-Lab. (2025年3月末完成予定)

F-ラボは、横 40m、縦 24m、床から天井までの高さが 4m のバリアフリーの 1 階建てトレーニング・ジムであり、パーソナル・トレーナーやアスレチック・トレーナー資格を提供する NSCA や日本スポーツ協会などの施設基準を十分に満たしている。施設の構成は以下の通りである：

- 青枠で囲まれた「マシン&フリーウエイト・トレーニング・ゾーン」
- 黄色枠で囲まれた「有酸素マシン・ゾーン」
- 緑枠で囲まれた「ストレッチ・ゾーン」
- 赤枠で囲まれた「スタジオレッスン・ゾーン」
- 紫枠で囲まれた「多目的室」
- 左端の「15mトラック・フィールド」

マシン・フリーウエイト・ゾーン には、オリンピックのウエイトリフティング競技が行える本格的なフリーウエイト機器から、一般の人が安全に各部位を運動できるトレーニング機器約 20 台が設置されている。

有酸素マシン・ゾーン には、歩行やランニングを行うトレッドミル 4 台、固定自転車 5 台、階段状のベルトを歩くステアマスター 1 台、ボートを漕ぐローイングマシン 1 台が設置されている。4 台のうち 1 台は、踏みつけるベルトが非常にソフトで、歩行時に膝や足関節にかかる負担が軽減されるタイプである。

ストレッチ・ゾーン には、横 10m×縦 6m の人工芝が設置されており、成人 15 人が同時にストレッチや自重運動を行うことができる広さが確保されている。また、このゾーンの天井部には体重を支えられる頑丈なバーが 2 本配置されており、体幹ハーネス型のゴムサスペンションを用いた免荷運動や、サンドバッグを吊して行うボクササイズも実施可能である。

スタジオレッスン・ゾーン は、横 10m、縦 21m のスタジオであり、エアロビクス、ピラティス、ダンスなどを行う際に、保育の授業で子どもが遊戯を行う時に足を痛めないよう、床材には比較的柔らかい素材が使用されている。しかし、柔らかいためボール競技などには適していない。スタジオの一侧（21m）は鏡張りとなっており、身体の動きをフィードバックできる。スタジオからストレッチ・ゾーン側を見渡せる透明な硬化ガラスが設置されており、F-ラボ全体が見渡せるようになっている。

多目的室 は、認知機能評価や各種評価測定、学生個別指導などに利用される予定である。

15mトラック・フィールド には、10cm および 1m ごとに白ラインが引かれており、10m 歩行や最大 1 歩幅・2 歩幅、スプリント競技の評価が可能である。15mトラック・フィールドの横にはフルオープンのスライド式ガラスドアがあり、その外には人工芝が広がっている。気候が良い時には窓をフルオープンにし、開放的な空間で運動を行うことができる。

2024 年度(令和 6 年度)看護学科の取り組み

看護学科長 本多容子

2024 年度(令和 6 年度)は、看護学部設置・大学院に養護教諭専修免許取得コースの設置のための申請を行い、無事に認可された。次年度以降のさらなる飛躍を目指した活発な動きがある 1 年であった。

1) 1 年生

今年度は 129 名の新入生を迎えた。新入生歓迎オリエンテーションでは、学科紹介、学習方法、上級生からのアドバイス等の後「玉入れ大会」を開催し学生間の親睦をはかった。



入学式後の学科説明会の様子 保護者も同席してる



新入生歓迎オリエンテーションの様子 左：玉入れ大会 右：表彰式後の集合写真

2) 2 年生

基礎看護学Ⅱを 2024 年 12 月に 1 クール 2 週間で実施した。

3) 3 年生

領域実習を 8 月下旬～3 月上旬で実施した。領域は、成人看護学実習Ⅰ(3 週間)、成人看護学実習Ⅱ(3 週間)、老年看護学実習Ⅰ(1 週間)、老年看護学実習Ⅱ(3 週間)、母性看護学実習(2 週間)、小児看護学

実習(2週間)、精神看護学実習(2週間)、在宅看護学実習(2週間)であった。

4) 4年生

◎統合看護学実習

6～7月に、2週間の臨地実習を実施した。

◎公衆衛生看護学実習Ⅰ、Ⅱを実施した。

◎教育実習を各実習受け入れ校で順次実施した。

◎2025年3月13日に「祝卒業フォローアップ研修」を今年度も開催予定である。



2023年度の「祝卒業フォローアップ研修」の様子

摂南大学看護学部と合同開催した。両大学の学生・教員での集合写真

5) 国家試験対策

2023年度は全員が合格することが出来なかったため、今年度は国家試験合格率 100%を奪還するため、合格発表当日から支援方法を練り直し、対策に取り組んだ。

- ・通年：適宜模試を実施し、結果を踏まえて個別面談を実施した。
- ・前期：「ゼミ別ラウンド学習」を初めて実施した。ゼミ単位で各ゼミの教員が開催する対策講座を順番に受けていった。しかし参加人数の差が大きく、成績が心配な学生ほど欠席が目立つなど課題もあった。次年度は方法を検討し、より効果的な支援方法を検討していく。
- ・後期：特に学習成果の思わしくない学生を対象とした支援に力を入れ、少人数（5名前後）での対面指導を実施した。心配な学生は教員が1対1または1対2～3で国家試験前日まで終日個別指導を行った。また必要時保護者にも連絡し、学習支援を要請した。

2月14日に保健師国家試験を19名が、同16日に看護師国家試験を115名が受験した。

1. 研究活動

本年度も多く多くの教員が科学研究費助成をうけ研究に取り組んでいる。その他、学内外の研究助成金の獲得など研究活動に意欲的に取り組んでいる。さらなる研究活動の活性化を目指し、若手教員の研究支援に力を入れていきたい。

2. 実習協力病院への臨床研究支援

①医療法人恒昭会 藍野病院

- ・研究方法の講義
- ・グループ別の研究指導（研究計画立案～まとめ、学会発表まで）
- ・学会発表

②社会福祉法人恩賜財団 京都済生会病院

- ・グループ研究指導（研究計画立案～まとめ、学会発表まで）

③医療法人徳洲会 徳洲会吹田病院

- ・研究指導（研究計画立案～まとめ、学会発表まで）

④社会福祉法人 京都社会事業財団 京都桂病院

- ・研究方法の講義
- ・グループ研究指導（研究計画立案～まとめ、学会発表まで）

⑤社会医療法人東和会 第一東和会病院

- ・個別研究指導（研究計画立案～まとめ、学会発表まで）

学会発表の様子

第 55 回日本看護学会学術集会

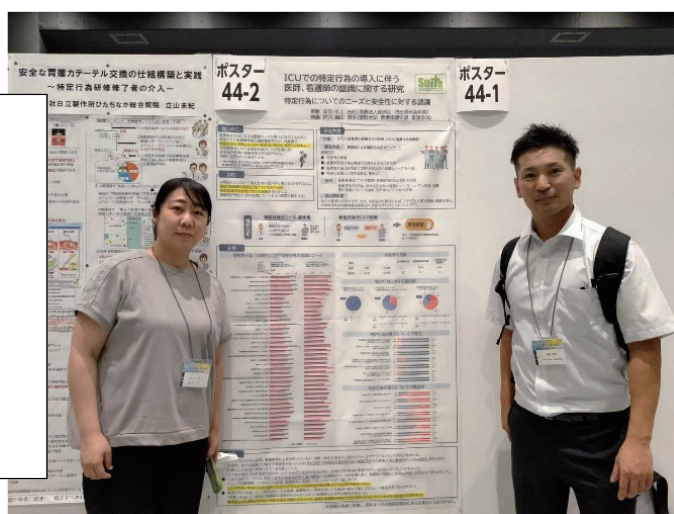
(9月熊本城ホール)

「ICU での特定行為の導入に伴う
医師・看護師の認識に関する研究」

吹田徳洲会病院 遠藤周作

藍野大学医療保健学部看護学科

梅田英子 齋藤祥乃



3. 社会貢献活動

今年度も多くの社会貢献活動を実施した。学生も参加した活動の一部を紹介する。

◇藍野まちの保健室／転倒予防のための足指力測定と転倒予防指導コーナースタッフ

日程：5月21日（土）

◇第2回市民公開講座／開催運営ボランティア

日程：8月19日

◇高槻市立磐手公民館子どもまつり／「おしえてナースせんせい」スタッフ

日程：8月24日

◇日本災害看護学会第26回年次大会／ボランティアスタッフ

日程：8月31日～9月1日 ※台風のためオンデマンド開催に変更

◇北摂総合病院防災訓練

日程：11月13日

◇レビー小体型認知症カフェ・勉強会/ご本人とご家族の交流会

日程：毎月第3土曜日

◇第9回スペシャルキッズサポーターの集い／ボランティアスタッフ

※2025年3月16日予定

2024 年度の理学療法学科の取り組み

理学療法学科 学科長 寺田 茂

2024 年度の理学療法学科の取り組みについて 1 年間を振り返り報告します。

「学生教育」では、学業不振や進路変更に伴う中途退学者数を減らすため、学年担任・副担任を中心とした学生に対する個別面談を通して、学業、学生生活に対する課題や問題点をいち早く把握するきめ細やかな対応を実践してきました。また、成績が低迷している学生を対象にして、少人数制による支援を実施し基礎知識の底上げと勉学に臨む姿勢の定着に努めてきました。特に 4 年生については、理学療法学科国家試験対策の根幹をなす学習法であるグループ学習を中心として、学生がグループ内で自らの役割分担や学習目標を定め、自律的に学習するような働きかけを行いました。それと同時に学習の進捗状況が遅れている学生に対しては、対象を選別し、教員による個別指導も実施し、また、対策全般を通して、模試などのデータ管理を行い、適宜学生に対してフィードバックを与えることにより、効果的な学習となるような働きかけも実施してきました。これらの取り組みが実を結び、2025 年 2 月 24 日に実施される、第 60 回 理学療法士国家試験に全員が合格することを期待しています。

社会貢献については、藍野大学の認知度向上と帯同する学生の実践教育を目的に、茨木市との連携事業を推進しました。

学術活動については、大学の認知度向上、若手教員および学生に対する研究指導の強化を目的に、個々の教員が各専門分野で積極的な研究活動を行いました。その結果、科研費の採択件数は新規 3 件、継続 7 件の計 10 件となりました。また、学科教員が筆頭著者の掲載論文数は 23 本（英語論文 14 本。日本語論文 9 本）となり、昨年の 10 本を大幅に上回ることができました。学会発表は、23 演題（国際学会 4 題、国内学会 19 題）の報告がなされました。さらに、書籍の執筆活動も盛んにおこなわれ、7 書籍で発刊にかかわることが出来、例年と比べ活発な活動であったと思います。

その他の取り組みとして、卒業生や臨床実習関連施設のスタッフを対象とした「藍野理学療法学科卒業研修会」を 2 セッション計 5 回開催しました。第 1 セッションは、2024 年 6 月～7 月にテーマを『呼吸器理学療法の基礎知識』とし、主に検査データの読み方と酸素療法・人工呼吸器の基礎に関する講演を行い、合計で 121 名の参加者を集めました。第 2 セッションは、9 月 27 日に「基礎知識を踏まえた膝関節屈曲可動域制限に対する評価」、11 月 7 日に「Knee Joint—伸展制限について—」と題した研修会を開催し、それぞれ 50 名と 43 名の参加がありました。また、12 月 8 日に理学療法学科卒業生交流大会とシンポジウムを行い、「卒業生のキャリア：これまでと現在」と題した講演と意見交換に 33 名の OB・OG の参加がありました。

次年度以降も「学生教育」「社会貢献活動」「学術活動」の三つの領域において、所属教員が一丸となって取り組み理学療法学科のさらなる発展・向上に努めていきたいと考えています。

2024 年度の作業療法学科の取り組み

作業療法学科 学科長 酒井 浩

2024 年度の作業療法学科新入学学生数は 24 名となり、前年度の 45 名から大きく減少した。この現象は藍野大学のみならず、全国の作業療法士養成大学で見受けられ、偏差値帯の低い大学ほど影響が大きかった。この要因としては全国規模での高校 3 年生の数が減少したことの影響が大きく、医療職全体で見た場合でも同様であり、職業としての知名度が低い作業療法分野においては、より大きな影響を受けることとなった。旧来より、看護学科、理学療法学科の第二志望者が作業療法学科に入学する割合が一定数あり、看護学科、理学療法学科において志願者数が減少すると、これまで不合格となっていた偏差値帯の学生が第一志望の学科において合格となり、第二志望の作業療法学科には流れてこない。また、このことは他大学との関係においても同様であり、第一志望の大学で志願者数が減少すると、これまで第一志望の大学で不合格となっていた偏差値帯の学生が、併願校としての藍野大学に流れてこなくなる。このような大学内、大学間の学生の流れが変化したことが主要な要因であると考えられる。高校生数の減少は、この先も継続することから、早急に対策を講じる必要に迫られることとなり、藍野大学の作業療法学科でなければならない取り組みを打ち立て、その取り組みを効果的にインフォメーションする必要があると考えられた。

このことを踏まえて、作業療法学科では保育士の国家試験受験を支援する取り組みを開始した。つまり、4 年間で作業療法士の国家資格のみならず、保育士の国家資格を取得できる（国家試験のダブルライセンス取得が可能となる）ように、筆記試験対策としては「保育学入門」を新たに科目設置し、さらに既存科目である「基礎作業学実習」では実技試験を想定した実習内容を組み込んだ。これらの取り組みを高校生に知らせる必要があることから、リーフレットを独自に作成し、それを持参して大規模な高校訪問を実施した。また、オープンキャンパスにおいて 4 ブース形式とし、楽しみながら作業療法を体験し、在学生や教員との交流機会を増やし、盛り上がりのある場を演出した。その結果、2025 年度オープンキャンパスの高校生動員数は過去最高となった。また、入試では他の中堅大学が苦戦するなかで、定員を充足できるかできないかというところまで入学予定者数を伸ばすことができた。今後は、そうして入学した学生が、確実にダブルライセンスを取得し、発達支援の領域で活躍できるようなクオリティの高い学びを提供し、この領域は藍野大学作業療法学科の右に出るものがない、という評判を作り上げていきたい。

国家試験においては、試験対策プログラムを改訂して 2 年目となるが、国家試験受験者のうち過年度生 1 名のみが、残念ながら不合格となり、2 年連続での国家試験合格率 100%はかなわなかった。今年度の結果が待たれるところであるが、このような優れたプログラムが形骸化しないよう、学生と教員が一丸となって全員合格を実現していきたい。

2024 年度の臨床工学科の取り組み

臨床工学科 学科長 五十嵐 朗

2024 年度の臨床工学科の取り組みについて、この 1 年間を振り返り報告いたします。

まず教育については、2025 年度入試より臨床工学科の定員が 40 名から 30 名に減少し、併せて臨床工学専攻科（定員 10 名）の新設に向けた準備を進めました。5 月末に文部科学省へ申請を行い、9 月に認可を取得しました。これに伴い、臨床工学専攻科の学生募集および運営に関して、関東圏の大学専攻科を訪問し、助言を受けながら開設準備を進めました。また、昨年度に引き続いてタスクシフト対応の新カリキュラム適用に向け、実習環境の整備を進め、内視鏡関連機器の購入などを行いました。ただし、内視鏡業務以外の実習環境については、引き続き検討していく必要があります。さらに、新カリキュラム適用外となる在学生に対する告知研修の実施準備を進めました。今年度の臨床実習では、過去最大となる 48 名の学生が臨床実習を行いました。新たに京都市と大阪府の 3 施設を実習病院として追加し、協力医療機関および臨床系教員の尽力により、9 月末までにすべての学生の臨床実習を完了しました。また、臨床工学専攻科の臨床実習先として、近畿 2 府 3 県にそれぞれ 1 ヶ所ずつの実習施設を確保しました。さらに、2023 年度入学生から導入している早期臨床体験実習（Early exposure）において、吹田徳州会病院に加えて、新たに友誼会総合病院を見学先として追加しました。これにより、学生たちは臨床工学技士の重要性や役割をより具体的に認識する機会を得ることができました。また、学習支援として、主に 1 年生を対象に数学や物理のような理系科目だけでなく、2 年次以降の専門基礎科目および専門科目を履修する上で基礎となる医学系の基礎科目についても補講を実施しました。さらに、後期ガイダンス時には 1 年生から 3 年生を対象にアチーブメントテストを実施し、学習状況の可視化を行うことで、後期の授業内容へ適切に反映させました。また、後期に保護者懇談会を学年ごとに開催し、教育カリキュラム説明（オンデマンド）と個別相談会（オンラインおよび対面）を行いました。

学生募集については、オープンキャンパスにおける模擬手術室での内視鏡などの学科体験や SNS 媒体による広報を積極的に進め、臨床工学技士養成校としての大学がない空白地域への高校訪問および臨床実習病院の確保も継続して行いました。その結果、オープンキャンパスへの参加者は前年度を上回る実績を記録しました。特に、SNS のフォロワー数や動画再生回数が大幅に伸び、広報活動の成果が現れました。しかしながら、オープンキャンパス参加者の増加が出願者の増加には直結せず、入学定員確保の課題は依然として残っています。そのため、受験生確保のために SNS を含めた広報戦略の見直しや、オープンキャンパスでのアピール方法の改善が求められます。具体的には、現状の模擬手術室と臨床系実習室を統合した「クリニカル・スキル・ラボ」を 2025 年度に向けて整備する計画を進めています。これにより、手術室から集中治療室、病棟までの治療プロセスにおける臨床工学技士の役割を具体的にイメージできる環境を提供することを目指しています。また、臨床系の学内実習と連携し、ニプロ株式会社 iMEP での手術実践実習を組み合わせることで、臨床現場に即した実践的な教育を強化し、本学科の特色として打ち出していきたいと考えています。さらに、大学病院や公立病院への就職実績を前面に押し出し、入学者確保に向けた広報活動を強化していく予定です。

2024 年度は、定員充足に向けたさまざまな取り組みを実施しましたが、依然として厳しい状況が続いています。2025 年度は、この局面を打開すべく、所属教員一丸となり、引き続き努力を重ねていきたいと考えています。

2024 年度 看護学研究科の取り組み

看護学研究科長 西上あゆみ

大学院は「実践看護分野」として「成育看護学」「高齢者看護学」「精神看護学」「災害看護学」を、「看護マネジメント分野」として「地域保健看護学」「看護管理学」「感染看護学」と2つの柱と7領域から成り立っている。2024年度は4名の入学生を迎えた。今年度はじめて学部からストレートで進学する学生を1名迎えた。入学定員6名は満たすことができなかったが、院生総数17名となった。

入学生の募集について、学部のオープンキャンパスと同日に大学院の相談ブースも設けているが、今年度はあまり需要はなかった。入試広報部にはしばしば、電話での問い合わせがあり、希望者の専攻領域の教員と協力して面接は複数実施した。学生の思い描いている大学院と現実には少しギャップがあるため、丁寧な面接を心がけた。2024年度も12月7日開催の大阪府看護学会(大阪府看護協会主催)で学会ホームページへのバナー広告、会場では大学院ブースを出展した。次年度より関西圏の看護協会の学会に広げるなど、広報活動を活発化する必要がある。前年に引き続き7月看護学科開催の実習施設との意見交換会や、研究科教員が近隣の看護協会等で特別講義を引き受ける時に大学院の紹介を行った。今年度より病院説明会が12月に開催されることになり、この場での募集も実施した。本学を修了した学生は認定看護管理者の受験に挑戦していること、修了することによって職場での研究指導に役立っていることを聞き、これらのメリットを紹介するようにした。8月31日開催の日本災害看護学会第26回年次大会においても広報予定であったが、台風の迷走で現地での対面開催はかなわず、オンデマンド内の企業広告内で院生の募集を行った。2025年度の入学生の獲得に関しては、健康科学研究科設立に伴い、リーフレットが1本化したことで、3期の入学審査を固定化した。

教育実践について、学生の希望に応じてWEBでの遠隔授業と対面授業を組み合わせた授業を展開している。今年度も学生の要望を取り入れ、週末や夜間帯の授業が中心となった。書籍に関しても学生の希望を取り入れ、5万円程度の予算を組み、図書館に行かなくても研究室内で利用できる図書の充実を継続した。

2024年4月19日、例年どおり、修士論文を提出する予定学生の研究計画発表会が行われ、2名が発表した。その後、6月～7月の本学の研究倫理部会において各自が研究計画の審査を受け、研究を進めた。加えて、秋季11月の研究計画発表会では、昨年同様6名の学生が研究計画を発表した。もともと3年コースの学生用として開催を始めたが、2年コースの学生も秋季に発表をさせたいという要望が指導教員からあり、発表が多くなった。これにより4月の発表会は今後ますます縮小化することが予想される。現在、4月は日中に発表会が行えているが、学部の臨地実習の都合から11月は18時から20時の発表となっている。学生の希望を確認しながら、秋季の発表会の日時の検討が今後必要になるかもしれない。

FD活動については、健康科学専攻と合同開催とし、隔年交代で企画することとした。今年度は看護学研究科主催とし、8月23日に実施した。2023年に着任いただいた山田和子先生から「修士課程における論文作成について～これまでの経験をとおして～」として多くの大学院生をご担当されてこられたご経験をもとにご講義をいただいた。その後、健康科学研究科と看護学研究科の修士論文の進め方について情報交換を実施した。

新たな取り組みとして、教職課程（養護教諭）の専修免許、助産課程の設置に関する準備を進めた。助産課程については現在も取り組み中であるが、教職課程（養護教諭）の専修免許については、無事、令和7年度からの課程許可をいただくことができた。

記念すべき出来事として、11月30日に開催された記念式典では看護学研究科も10周年をお祝いしていただいたこと、修了生からお花を送っていただいたことに感謝申し上げたい。

2024年2月14日修士論文発表会は学外からの参加者に向けても広く公開をした。大学院生の研究活動においては2名の学生が発表を行った。1名の学生は、研究計画書作成時に行った文献レビューを日本災害看護学会第26回年次大会で「近年の災害時の血液透析に関する調査研究の動向について」を発表し、もう1名はThe 97th Annual Meeting of Japanese Society for Bacteriologyにて“Analysis of the amikacin resistance factor of carbapenem-resistant *E. coli* AUH-256”を共同発表した。

教育・学習環境については、今年度も学生より希望を聞いて、SPSSの導入、授業用PCの設置等、学習環境整備に努めた。また、昨年4月に発足させた修了生や関係者を含めた研究会（通称ANA会）は今年度も継続して行った。修了生が研究発表や計画発表の予行に利用しているが、在学生にとどまらず、修了生にも声をかけ、本会を利用してもらっている。在学生も修了生から研究の進め方を教わったり、情報交換の場となっている。本会ではメーリングリストを用いてANA会以外の時でも研究に関する良い情報があれば、メンバー間で情報交換、連絡を取り合うようにしている。

博士後期課程開講に関して計画はあげているものの、今年度も現在開講している分野の教員の補充に難渋することもあり、しっかりと取り組みができていないといえない。次年度より開設される健康科学研究科との連携の下、今後も設置に向けて取り組んでいかれるよう申し送っていききたい。

2024年ANA会（2023年4月発足）

現在参加者：13名（2024年12月現在）

開催月日と内容

- | | | |
|------|--------------------|---|
| 第1回 | 4月21日9:00 - 12:00 | ①自己紹介、今年度の計画
②修了生による学会発表の予行
③「山崎塾」参加報告 |
| 第2回 | 5月19日9:00 - 12:00 | ①文献整理ソフトQレフ勉強会
②修了生による学会発表の予行 |
| 第3回 | 6月16日9:00-12:00 | ①KH コーダ勉強会
②学会発表の予行
③防災防犯総合展参加報告 |
| 第4回 | 7月14日9:00 - 12:00 | ナラティブの講義（平山恵美子先生） |
| 第5回 | 8月10日9:00 - 12:00 | ①学会発表の予行
②参加した学会の報告 |
| 第6回 | 10月6日9:00 - 12:00 | ①修了生による学会発表の予行
②在学生による文献レビューの発表
③学会参加者、スタディツア参加者の報告 |
| 第7回 | 11月10日9:00 - 12:00 | ①在学生の秋季研究計画発表会の予行
②HUG ゲーム |
| 第8回 | 12月15日9:00 - 12:00 | 学会参加報告 |
| 第9回 | 1月19日9:00 - 12:00 | 京都防災センター見学 |
| 第10回 | 2月1日9:00 - 12:00 | ①修士論文発表会予行
② 研究に関する情報交換 |
| 第11回 | 3月 | 休会（予定） |

2024 年度の健康科学研究科の取り組み

健康科学研究科長 酒井 浩

2024 年度、念願であった健康科学研究科が開設となった。「認知健康科学領域」と「身体健康科学領域」の 2 領域から構成され、10 名の特別研究指導教員が 1 学年 6 名の定員に対して修士課程の指導を行う。その初年度となる 2024 年度の入学者数は 6 名（認知健康科学領域 3 名、身体健康科学領域 3 名）であり、2 つの専門領域でバランスの良い配置となった。本研究科は、国の重点施策である健康増進を総合的かつ多角的に捉える知識・技能・態度を身につけ、健康づくり・生涯スポーツの実践と継続を推進していける人材を養成することが健康科学研究科設置の主な目的となり、そのために必要な基本的、応用的知識を身に付け、地域の場において実践していける基盤を学ぶことができるよう設計されている。

本研究科の特徴を以下に示す。

(1)2 領域（認知健康科学領域・身体健康科学領域）の両方を学ぶことができること。

身体機能面だけではなく、認知機能面や社会面（社会参加など）を含めた視点で健康増進を考えることができる人材を養成するために、本研究科のカリキュラムは、認知健康科学特論と身体健康科学特論の両方を履修可能としている。これにより、健康増進を総合的かつ多角的に捉える知識・技能・態度を身につけ、健康づくり・生涯スポーツの実践と継続に必要な基本的、応用的知識を身に付けることができる。

(2)教育関連科目を 4 単位設置している

現在、理学療法士・作業療法士の専任教員になるためには、大学あるいは大学院にて教育学系の科目を 4 単位以上履修する必要がある。本研究科では、将来教育職に就くことを視野に教育学系の科目を 4 単位（教育方法学特論・臨床教育学特論）設けており、教員としてのキャリアを支援する。

(3)働きながら通うことができる

夜間開講や web システムを利用し、臨床経験を途絶えさせることなく学びを深めることができる環境を整えている。

(4)長期履修制度がある

基本となる 2 年の就業年限に加えて、就労や研究の進捗状況に応じ、3 年の就業年限を選択する（長期履修制度を利用する）ことが可能である

その他、藍野大学出身者は入学金を免除、法人関連養成校出身者は入学金の半額を免除される制度や、充実した在書数を誇る中央図書館や卓越した研究環境を有する中央研究施設を利用することも可能であり、地域の健康増進においてリーダー的役割を担う優秀な人材を育成するにあたって、十分な環境が構築されている。

我々、指導教員も気を引き締めて、地域で暮らす方々の健康を支える優秀な人材を一人でも多く育成し、輩出していきたい。

藍野大学 中央研究施設

藍野大学中央研究施設 施設長 栗原秀剛

人的構成

構成員	氏名
施設長	栗原秀剛（副学長、理学療法学科 特任教授）
学内研究員	山田義博（理学療法学科 教授） 田浦晶子（臨床工学科 教授） 稲盛修二（臨床工学科 教授） 山崎康祥（臨床工学科 准教授） 林拓世（臨床工学科 講師） 山本祐輔（臨床工学科 助教） 宮本陳敏（作業療法学科 講師） 塚越千尋（作業療法学科 講師） 林部美紀（作業療法学科 特任講師） 横山雛子（看護学科 助手） 三木志帆（実験補助技術員） 藍野大学の学生：臨床工学科 14 名
客員研究員	井出千束（中央研究施設客員研究員） 山田久夫（中央研究施設客員研究員） 中野法彦（びわこリハビリテーション専門職大学 教授） 兼清健志（びわこリハビリテーション専門職大学 教授） 長井雅代（中央研究施設客員研究員） 玉地雅浩（中央研究施設客員研究員）

研究活動

中央研究施設は、藍野大学を中心に、びわこリハビリテーション専門職大学を含む学校法人藍野大学全体の研究活動を推進・発展させる拠点として活動している。藍野大学中央研究施設は医学部を除いた医療系大学では珍しく電子顕微鏡など大型の機器が充実しているのが特徴である。開設から経年劣化が進む設備について継続的な使用を可能とするためのインフラ整備を行っている。本年度は開設当時から使用していたツアイスの蛍光顕微鏡が故障のため使用不能となり、同等の性能を有する蛍光顕微鏡を購入した。また、大学全体の研究活動の拠点として明確に位置づけるため、学内教員、客員研究員との共同研究はもとより、学部学生の卒業研究指導等を積極的に行った。

(1) 共同研究施設としての体制の整備と機能の推進

中央研究施設は、大学で唯一の実験研究施設として本学並びに関連施設の教員・医師および学部学生に実験の場と研究機器を提供し、優れた研究成果を生み出すことを目的として活動している。また、共

同研究を推進しており、学会や国際雑誌も含めた論文発表、科研費も含めた競争的資金の獲得、産学連携も含めた外部資金の導入、特許取得などの成果をあげている。本年は、猛暑による影響か、動物施設において、動物飼料を保管してある場所で大量のチャタテムシが発生したため、駆除を行った。

(2) 研究施設独自の研究の推進

研究に関する今後の展望としては、臨床に直結したトランスレーショナルリサーチを推進し、国内のみならずグローバルに通用する最先端の研究を実践している。

主な研究内容

- (1) オルガノイドを用いた内耳再生に関する研究
- (2) Lmo2 転写因子複合体による血管新生制御
- (3) 腎臓に発現する新規分子の解析
- (4) 脊髄損傷モデルラット、マウスを用いた神経再生治療法の確立

「2023 年度 中央研究施設シンポジウム」開催

日時：2024 年 3 月 4 日

場所：MLC F201 アクティブコモンズ

2022 年度より設けられた「優秀研究賞」「研究奨励費」の採択者、および科研費新規獲得者を中心に 9 名が講演を行った。学長、学部長も出席され、ご挨拶をいただいた。午前、午後の長時間に渡り行われたが、総勢 26 名の来場者があり、質疑応答が行われた。

高畑 脩平	科研費	ペンタブレットを用いた書字の質的評価ツールの開発研究
高田 昌寛	科研費新規	二重エネルギー X 線検査で測定した下肢除脂肪量と体幹除脂肪量の比は、日本人地域在住高齢男性における 5 年後の転倒を予測する：藤原京スタディ骨粗鬆症前向きコホート研究
森田 恵美子	科研費	腸内環境のエース「短鎖脂肪酸」をいかに増やすかー 運動処方の開発 ー
西田 千夏	優秀研究賞 科研費新規	発達障害特性が感じられる看護師への合理的配慮を含めた現任教育の現状と課題 ー看護管理者の認識による実態調査からー
青山 宏樹	優秀研究賞	骨盤部への歩行支援制御の定量化 ー歩行支援付きロボット歩行車の実装に向けてー
河野 由理	科研費新規	アルコール関連問題をもつ対象者への訪問看護・介護職によるケアガイドラインの開発

畑中 由佳	優秀研究賞	ハードシエル静脈リザーバーにおける薬液拡散の性能評価 ー時定数および薬液濃度比による評価ー
塚越 千尋	科研費	脊髄損傷モデルラットにおけるリハビリテーション訓練の効果ー強制歩行と意欲にもとづく自発運動が後肢行動回復と軸索再編成にどのような影響を及ぼすかー
田浦 晶子	科研費	内耳オルガノイドを用いた前庭再生医療

研究成果 (抜粋)

論文

- ・ Saito K, Yokawa S, Kurihara H et al. FilGAP controls cell-extracellular matrix adhesion and process formation of kidney podocytes. FASEB J 2024; 38(5): e23504.
- ・ Nagase M, Ando H, Beppu Y, Kurihara H et al. Glomerular Endothelial Cell Receptor ADGRF5 and the Integrity of the Glomerular Filtration Barrier. J Am Soc Nephrol 2024; 35(10) : 1366－1380. selected for "Best of ASN Journals in 2024"
- ・ 宮本陳敏、池田望：中国における作業療法士養成教育の現況について。 大阪作業療法ジャーナル。 Vol.38(1)78-86 2024
- ・ 山田久夫：リハビリテーション学，リハビリテーション職とその養成のあるべき姿。 びわこ健康科学 2: 39-46, 2024

学会発表等

- ・ Tsukagoshi C. Kanekiyo K. Nakano N. Hayashibe M. Ide C. Effects of increasing the duration and frequency of treadmill training on behavioral recovery and axonal reorganization in spinal cord injury model rats. The 47nd Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society, Fukuoka, 2024.7.24-7.27, 1P-363
- ・ Tsukagoshi C. Kanekiyo K. Nakano N. Hayashibe M. Effects of rehabilitative training on locomotor recovery and spinal axonal reorganization in a rat thoracic cord injury model - comparison between forced running and spontaneous locomotor activity - 8th Asia-Pacific Occupational Therapy Symposium (APOTC 2024) , Sapporo, Japan, 2024.11.6-11.9. P1-O-18.
- ・ Miyamoto C. Rehabilitation Strategies for Intellectual Disabilities China-Japan Children Rehabilitation Academic Exchange Conference, Chengdu China, 2024.1.8
- ・ Miyamoto C. Current Status and Challenges of Employment Support for Students with Developmental Disabilities in Japanese Higher Education The 5th interdisciplinary Forum on

Autism Spectrum. in Chengdu China,2024.4.1-2

・ Miyamoto C. Kanekiyo K. Nakano N. Biochemical Analysis Approach for the Development of a Novel Electrical Stimulation Rehabilitation Method for Spinal Cord Injuries The 8th Asia Pacific Occupational Therapy Congress 2024 (APOTC2024) in Sapporo, Japan. 2024.11.6-9

・ Horino S. Shimmura K. Tamachi M. Wesugi S. Support for adjustment of trunk and pelvic angles during running using apparent motion of tactile stimuli ISEA 2024: The Engineering of Sport 15, Conference Proceedings, (2024.7)

・ 塚越千尋 脊髄損傷モデルラットにおけるリハビリテーション訓練の効果—強制歩行と意欲にもとづく自発運動が後肢行動回復と軸索再編成にどのような影響を及ぼすか— 2023 年度中央研究施設シンポジウム, MLC2F アクティブコモンズ, 2024.3.4

・ 栗原秀剛 ポドサイトスリット膜の分子基盤 2024 年度生理研研究会 “上皮イオン環境とその変化が支える細胞機能” 国立生理学研究所、岡崎 2024.8.8-9

・ 山田久夫 折り紙における正確さと手指の関節の動き（角速度）の関係について
日本産業技術教育学会 第 67 回全国大会 鳴門教育大学 2024.8.17-18

・ 田浦晶子、吉川弥生、扇田秀章、大森孝一、伊藤壽一 前庭血管ペリサイトと血管透過性についての検討 第 83 回日本めまい平衡医学会、名古屋、 2024.11.14.

・ 吉川弥生、田浦晶子、木下淳、藤本千里 閉経後骨粗鬆症モデルマウスの作成とスタチン局所投与による安全性の検討 第 83 回日本めまい平衡医学会、名古屋、 2024.11.14.

・ 田浦晶子(座長) 【一般演題 口演 O01-6】第一群 「基礎」第 83 回日本めまい平衡医学会、名古屋、 2024.11.14.

・ 内田敦士、東 祐輝、矢部海吏、玉地雅浩、上杉 繁 着地動作時における前十字靱帯の負荷軽減を目指した下肢への張力付与・制動装具の開発 日本機械学会スポーツ工学・ヒューマンダイナミクス部門講演会 2024 慶應義塾大学 神奈川 2024.11.17

・ 玉地雅浩 第 4 セッション 座長 2023 年度兵庫県理学療法士協会 神戸（西）支部 新人発表会、神戸リハビリテーション衛生専門学校、2024.1.28

・ 玉地雅浩 口述 5 研究助成演題 座長 第 35 回兵庫県理学療法学会、アクリエひめじ、2024.9.15

著書

・ 栗原秀剛 泌尿器系 坂井建雄、川上速人 監訳、ジュンケイラ組織学第 6 版、東京；丸善；2024, p. 423-443

・ 田浦晶子、扇田秀章 ENTONI No. 300 [8 月号] めまい—診断と鑑別のポイント—前庭神経炎 総編集：堤 剛/東京/全日本病院出版会/2024 年/17-27 頁

・ 田浦晶子、青木光広 JOHNS 耳鼻咽喉科頭頸部外科のサブスペシャリティ めまい相談医制度 東京/東京医学社/2024 年/1227-1229 頁

中央研究施設管理運営委員会

構成（令和6年度）

栗原秀剛、中田裕二、山田義博、宮崎浩、田浦晶子、宮本陳敏

令和6年度 委員会開催日

開催日	開催日	審議事項
第1回中央研究施設管理運営委員会	2024年4月17日	【報告事項】 ・2024年度予算について ・2024年度中央研究施設利用者について
第2回中央研究施設管理運営委員会	2024年11月19日 ～11月25日	【審議事項】 ・2025年度（令和7年）中央研究施設の予算案について

動物実験部会

構成（令和6年度）

栗原秀剛、中田裕二、山田義博、田浦晶子、塚越千尋、兼清健志

令和6年度部会開催日

	開催日	審議事項
第1回動物実験部会	2024年5月15日	【審議事項】 ・2023年度動物実験結果報告書および自己点検票について（14件） 【報告事項】 ・2024年度中央研究施設予算についての報告

2024年度 承認された研究課題（全13件）

承認日	研究課題名	実験責任者	備考
2024年 4月2日	脊髄損傷モデルラット、マウスを用いた神経再生治療法の開発	兼清健志	更新
2024年 4月2日	体外循環・補助循環における生理的拍動流発生装置の開発および拍動効果の検証	稲盛修二	更新
2024年 4月2日	腎臓に発現する新規分子の解析	栗原秀剛	更新

2024 年 4 月 2 日	脊髄損傷における新規電気刺激リハビリ方法開発 へ向けた生化学的解析によるアプローチ	宮本陳敏	更新
2024 年 4 月 2 日	終糸上衣細胞の培養方法の確立と移植効果の検討	井出 千束	更新
2024 年 4 月 2 日	Lmo2 転写因子複合体による頭頸部の血管新生制御 に関する研究	田浦晶子	新規
2024 年 4 月 2 日	内耳再生に関する研究	田浦晶子	新規
2024 年 4 月 2 日	スタチンによる耳石硬化療法についての検討	田浦晶子	新規
2024 年 4 月 2 日	骨髄間質細胞をはじめとする体性幹細胞由来の神 経突起伸長因子の解析	中野法彦	更新
2024 年 4 月 2 日	Lmo2 転写因子複合体による血管新生制御	山田義博	更新
2024 年 4 月 2 日	ラット体外循環での長期生存モデルの確立と体外 循環での炎症反応抑制に向けた検証	山崎康祥	更新
2024 年 4 月 2 日	脊髄損傷ラットに対して集団での自発歩行の運動 機能と形態学的分子生物学的効果の検証	林部美紀	更新
2024 年 4 月 2 日	脊髄損傷モデルラットを用いた自発的リハビリテ ーションの有効性の検討	塚越千尋	更新

動物使用数 (2023 年度実験報告書による)

年度	ラット	マウス	合計
2023 年	192 匹	102 匹	294 匹

動物実験講習会の開催

第 34 回 動物実験講習会

開講日：2024 年 2 月 16 日

参加者：18 名 (教員 16 名 学生 2 名)

第 35 回 動物実験講習会

開催日：2024 年 12 月 2 日

参加者：8 名 (学生 8 名)

実験動物慰霊祭の举行

昨年に引き続いて実験動物慰霊祭を举行した。

举行日：2024 年 11 月 6 日

出席者：佐々木恵雲学長、栗原秀剛施設長、山田義博教授、稲盛修二教授、井出千束客員研究員、山田久夫客員研究員、中野法彦教授、兼清健志教授、山崎康祥准教授、林拓世講師、山本祐輔講師、横山雛子助手、三木志帆実験補助員、臨床工学科 4 回生 6 名

- 一、開式の辞
- 一、学長挨拶 藍野大学 学長 佐々木恵雲
- 一、学長による読経
- 一、黙祷
- 一、慰霊のことば 藍野大学中央研究施設長 栗原秀剛
- 一、献花
- 一、閉会の辞



2024 年度のキャリア開発・研究センターの取り組み

キャリア開発・研究センター長 中野玲子

当センターは、多様な学生の就職支援を行うとともに、卒業後の生涯を通じた持続的な就業力向上を目指し、社会的・職業的自立に向けた指導などを通して、その充実及び高度化に資することを目的に創設された藍野大学内に位置する組織である。

現在は、看護職のキャリアアップ支援事業として「認定看護管理者教育課程」ファーストレベル及びセカンドレベル研修を開講し、看護管理者として保健医療福祉分野における質の高い看護サービスの提供を目指し、基本的責務を遂行するために必要な知識や技術の習得を支援している。また、それらの研修修了生のフォローアップ研修や看護職のキャリアアップ支援研修などを実施してきた。そして新たに、2024 年度、認定理学療法士臨床認定カリキュラム（運動器）を開講し、理学療法士の専門的かつ高度な実践力習得の支援に取り組んだ。

1. 医療従事者のキャリアアップ支援

研修名（時間）	日程	参加状況	講師・研修内容など
2023 年度ファーストレベルフォローアップ研修	6/8（土）	修了者 53 名 参加者 40 名	新潟薬科大学看護学部教授 平山恵美子先生「看護倫理事例」
東和会グループ研修	6/23（金）	第一東和会病院 職員 61 名	キャリアセンター専任教員 小砂見恵子先生 「管理運営」
セミナー	6/29（土）	① 午前 117 名 ② 午後 85 名	① 京都大学大学院医学研究科教授 任和子先生 「どう書く？小論文・課題レポート」 ② 美杉会グループ理事・看護部特任総看護部長兼教育部長 高須久美子先生 「フレームワークをどう使う？」
セカンドレベル研修（180h）	7/4～9/21（木金土）	募集定員 35 名 応募者 30 名 受講者 29 名	「ヘルスケアシステム論Ⅱ」15h、「組織管理論Ⅱ」30h、「人材管理Ⅱ」45h、「資源管理Ⅱ」15h、「質管理Ⅱ」30h、「統合演習Ⅱ」45h
認定理学療法士臨床認定カリキュラム	10/5（土） 10/6（日） 10/26（土） 10/27（日）	募集定員 40 名 受講者 11 名	必須科目 15 コマ・選択科目 5 コマ ① 「姿勢・歩行の評価・分析と理学療法」藍野大学 田中貴広先生 ② 「肩関節疾患の機能解剖と理学療法」藍野大学 熊田仁先生 ③ 「膝関節疾患の機能解剖と理学療法」大阪河崎リハビリテーション大学 久保峰鳴先生 ④ 「股関節疾患の機能解剖と理学療法」

			法」京都大学 建内宏重先生 ⑤ 「脊柱疾患の機能解剖と理学療法」 堺若葉会病院 増井健二先生
2023 年度セカンド レベルフォローアッ プ研修	10/12 (土)	修了者 33 名 参加者 20 名	キャリアセンター専任教員 小砂見恵子 先生 「看護管理実践報告会」
卒業生対象セミナー	10/19 (土)	あいの祭にて	理学療法学科 近森聡先生 「ストレスマネジメント」
ファーストレベル研 修 (105h)	10/31～ 12/21 (木金土)	募集定員 50 名 応募者 68 名 受講者 55 名	「ヘルスケアシステム論 I」 15h、「組 織管理論 I」 15h、「人材管理 I」 30h、 「資源管理 I」 15h、「質管理 I」 15h、 「統合演習 I」 15h
セミナー	11/2	参加者 86 名	美杉会グループ理事・看護部特任総看護 部長兼教育部長 高須久美子先生 「看護師のための SWOT 分析」

2. キャリアセンターの広報活動

1) セカンドレベル研修受講生募集

セカンドレベル研修定員 35 名確保のため、一昨年近畿圏内 23 施設（大阪府 15 施設、滋賀県 4 施設、京都府 3 施設、兵庫県 1 施設）訪問し、30 名の応募があった。次年度の受講生確保のため、同様に施設訪問を計画している。また、ファーストレベル研修修了者 381 名及び、近畿圏内の病院・訪問看護施設 1,187 施設へリーフレットを送付した。

2) 認定理学療法士臨床認定カリキュラム受講生募集

近畿圏の病院 697 施設及び理学療法学科卒業生 890 名に広報資料を送付した。

3) 大学院への進学者確保のためのファーストおよびセカンドレベル研修受講生への説明

4) 藍野大学校友会との連携強化によるスキルアップ研修などの広報

<認定看護管理者制度>および<認定理学療法士の臨床認定カリキュラム>の概要

認定看護管理者制度とは

我が国における看護師の資格認定制度は、1987 年厚生省の「看護制度検討会報告書（21 世紀に向けての看護制度のあり方）」において、管理職の育成について、「複雑化する病棟管理を円滑に行っていくため、教育、訓練を受けたマネジメントのできる能力をもつ中間管理職を早急に育成する必要がある」と提言されたことを契機に、日本看護協会により認定看護管理者制度が開設された。

この制度は、多様なヘルスケアニーズを持つ個人、家族及び地域住民に対して、質の高い組織的看護サービスを提供することを目指し、一定の基準に基づいた看護管理者を育成する体制を整え、看護管理者の資質と看護の水準の維持及び向上に寄与することにより、保健医療福祉に貢献することを目指す。認定看護管理者認定審査受験資格要件を満たし、認定審査に合格し登録手続きをした者を認定看護管理者として認定する。その受験資格要件に関する研修として、ファーストレベル研修、セカンドレベル研修およびサードレベル研修が、全国都道府県看護協会や教育機関で実施されている。創設当初の教育課程は改正され、現在は「ヘルスケアシステム論」「組織管理論」「人材管理」「資源管

理」「質管理」「統合演習」の6教科目で構成されている。

認定理学療法士の認定カリキュラムとは

認定理学療法士制度とは、2022年に、日本理学療法士協会が創設した学習制度の一つであり、登録理学療法士の更新を基盤に、様々な領域に従事する会員が持続可能な生涯学習制度とし、働き方に応じた多様性と深化の動機づけとなるキャリア開発プログラムである。

認定理学療法士取得要件は、次の4つの条件である。

1. 登録理学療法士であること
 - 1) 前期研修 座学：22コマ（33時間）、実地研修：32コマ（48時間）
 - 2) 後期研修 座学：51コマ（76.5時間）、実地経験：3年（36か月）
2. 協会主催の指定研修カリキュラムの受講
 - e ラーニングにて12コマ（1コマ90分）
3. 臨床認定カリキュラムの受講（分野別）
 - 必須科目15コマ・選択科目5コマ
4. 日本理学療法学会研修大会への参加



当センターでは、看護職のキャリアアップ支援事業として、認定看護管理者教育課程のファーストレベル研修を2014年度から、またセカンドレベル研修を2017年度から実施しており、大阪府の他、広く近畿圏内の施設の看護職が受講している。今後も、両研修の受講生確保に取り組んでいく。

そして、2024年度、上記認定理学療法士取得要件である「臨床認定カリキュラム（運動器）」の講座を開講した。募集定員40名であったが、受講者11名と少なかった。今年度の実績を振り返り、次年度開催に向け受講生確保に取り組んでいる。

今後も、本法人のネットワークを生かした更なる教育の質向上と、新たな事業展開を通して地域社会に貢献したいと考えている。



藍野大学・藍野大学短期大学部事務センターから藍野大学事務センターへ

大阪茨木キャンパス事務局
事務局長 小林 正明

2024 年度、藍野大学の取り組みとして、医療保健学部看護学科を看護学部看護学科に改組、医療保健学部の新たな学科として、地域の健康増進・ウェルビーイングに貢献する健康科学科の設置、臨床工学専攻科（1 年制）の設置により、学長の提唱する本学、地域医療、地域生活（住民の生活支援）の 3 者で構成される高等教育の次世代の在り方である「藍野モデル」のフォーメーションが 2025 年度より、2 学部 5 学科 1 専攻科 2 研究科としてスタートする。

また、藍野大学短期大学部の取り組みとして、学校法人藍野大学大阪阿倍野キャンパス総合整備計画第二期の竣工により、藍野大学短期大学部第一看護学科・第二看護学科（専攻科）を統合し 2025 年度より看護学科 2 年課程・3 年課程・専攻科（保健師養成課程）に改組し大阪阿倍野キャンパスに集約させる。隣接する明浄学院高等学校との高短大接続により、高等学校衛生看護科と 2 年課程の 5 年一貫教育、普通科看護メディカルコースと 3 年課程との 6 年一貫教育の教育体制を構築し、行政やコミュニティー・医療従事者との連携による地域の保健医療福祉サービスに係る課題にコミットした活動を推進し、看護師養成から卒業後のキャリアアップ、キャリアサポート等の体制構築により、AINO Nurse Island 構想から AINO Nurse Island 計画へと具体の取組を示し推進していく。

なお、2025 年度より大阪茨木キャンパスの事務組織は新たな体制となり、藍野大学・藍野大学短期大学部事務センターから藍野大学事務センターとなる。ここ 2 年間で、新たに入職した事務職員も業務に慣れロジ業務については安定してきている。新たなスタートに向けて、改めて前任者の垣尾局長が取り組まれた「業務の標準化」「業務の省力化」等を振り返り、引き続き業務改革の手を緩めることなく推進していきたい。

事務職員の業務の高度化、多様化により教育・研究や組織の管理・運営において、事務職員の果たすべき役割の重要性が高まり、今後の事務職員には専門的知識を有した改革を推進することのできるゼネラリストの能力が求められる。ゼネラリストの人材養成を目指した法人、設置校の横断的な取り組みとして、女性職員の働き方プロジェクトを実施した。同一法人内においても法人、各設置校のそれぞれの業務内容や職場環境の違いなど、普段の業務からは把握しがたい他部署の状況を理解し議論を重ねたことにより広い視野を持ち、多様な考え方を集約し、大きな成果物として報告書を取りまとめることができた。今後、報告書の内容を就業規則などの規程にどのように反映させることができるか検討していく。事務職員に求められるゼネラリストの能力を獲得するためにも、法人、設置校横断的なプロジェクトや人事異動において幅広い視野を持ち、求められる能力を得ていく必要があると考える。急速な少子化が進む中、変化に適応し政策立案ができる事務職員の育成と事務組織体制などの人事政策を確立させていきたい。

急速な少子化が進行する中で、藍野大学の学生募集にも影響が出てきており、令和 7 年 1 月 27 日時点の状況であるが、学部入学定員 305 人に対し入学定員充足率の予測が MAX 102.6%、MIN 97.4% となっており、入学定員充足率 100%を維持すること及び年度内の退学者を勘案すると来年度内の収容定員充足率 100%を維持することも厳しくなっている。学生生徒等納付金収入が財源の大部分を占めることから、中期財務計画について見直が必須となってきた。併せて、内部監査室より、2030 年から 2035 年までの間、急激に 18 歳人口が減少することが予測されることから、本法人としてどのように対応していくか、AINO VISION の更新を急ぐべきである旨の報告がなされた。その内部監査

結果調書が理事会にも報告され AINO VISION 2035 への更新が進められている。

また、学生募集においては、明浄学院高等学校との高大連携による高等学校の探求の時間を活用した各学科の教員による授業等を実施している。高等学校の生徒には好評であると高等学校の教員より聞き及ぶが、高大接続の実績には大きく繋がっていないのが実情である。過去 5 年間の明浄学院高等学校学校からの入学者は 5 名であり、今年度、他法人への医療系進学者の内、25 名にその進学理由を取りまとめた結果、主な理由として、通学に係る地理的な問題、専門学校への進学が散見される。明浄学院高等学校の医療系進学実績は、大学、短大、専門学校を含めると今年度 52 名（予定）、前年度 19 名、前々年度 15 名であり、高等学校普通科看護メディカルコースからの進学実績が出始めている。今年度の募集状況は以下のとおり、昨年に引き続き安定しており入学定員 320 人は十分に捉えている。

普通科	定員 200 人	専願 163 人	・	併願 171 人
(内看護メディカル)		専願 45 人	・	併願 37 人
衛生看護科	定員 120 人	専願 146 人	・	併願 43 人
高等学校合計		専願 309 人	・	併願 214 人

高大連携は始まったばかりであり今後、高等学校の生徒募集から、明浄学院高等学校、藍野大学の高大連携による一貫教育、ポートフォリオを活用した一貫教育による成長の可視化など、中学生・保護者・中学校の教員にわかりやすい魅力・特色の取り組みを検討する必要がある。高等学校の募集において、「学校法人藍野大学 明浄学院高等学校」として広報しているため、大阪府下における大学のブランディング広報の効果は大きく期待できる。

最後に 2025 年度は、改正私立学校法が施行され、役員体制が大きく変わることで、学校法人会計基準の変更、内部統制システムの整備が必要となること、認証評価の第 4 サイクルのスタートなど、私学においては大きな変革の年となる。併せて、南海トラフ地震の備え、BCP（事業継続計画）の作成は進めているが、復旧に向けた財再確保も併せて必要となるため法人と設置校の密接な連携を図っていくことが必須である。セクト主義にとらわれない広い視野を持ったゼネラリストの事務職員養成に注力していきたい。

4年間の図書館の歩みを振り返る

藍野大学中央図書館長 山田義博

図書館長として2期4年を努め終わり、節目の年なので、年報ではあるがこの4年間の図書館の歩みを簡単に振り返りたい。初年度は業務を外注していたが、2年目からは大学のスタッフ中心の図書館経営となった。外注の間に長年の懸案だった蔵書点検がはじめられたことは特筆しておく。2年目から始まった《市民に開かれた図書館を目ざして》をモットーとした館内設備で、老朽化していた諸施設が最低限の近代化がなされた。この点は、大学の新しい体制のなかでの図書館の在り方を今後も考えつつ、大きな方向性が決まればさらに可能な限りの整備の充実を今後とも図っていく必要がある。

通常業務は、身内をほめるわけにもいかないが、内外の協力も得て順調に行われるようになり、特に移動図書館などの活動は、学生の書籍離れに対する対策として有効であるとの高い評価もいただいた。学生の図書館利用も回復しているが、年々の学生の活字離れの傾向はいかんともしがたい。

他人ごとではなく、筆者も若いころは書店や図書館に行かない週はまれであったが、最近は年に一二度しか書店にはいかない。データベースの整備は、お金との戦いであり、今後もさらにきびしい戦いとなる予想である。大学にいれば学術関連の情報は無料で手に入る時代はとうに去り、これからは教員も情報収集に研究費のいくらかをかけるか懸案する時代となっている。

図書館としては情報提供に役立つ用、ぎりぎりの努力をする。図書館間の相互利用のシステムは極めてすぐれてかつ安価であるので教員の皆様は大いに利用されたい。短大の移転がはじまり、図書館も大学の中央図書館としての役割の転換点にある。

(令和7年2月26日)

藍野大学開学 20 周年・藍野大学大学院看護学研究科開学 10 周年

記念式典

日時：2024（令和 6）年 11 月 30 日（土）

（於 藍野大学 藍野ホール）

【一部】記念式典次第

13：00～13：30

開式の辞

国歌斉唱

理事長挨拶 理事長 小山 英夫

科学研究費補助金女性採択者表彰

学長挨拶 学長 佐々木 恵雲

副理事長挨拶 副理事長 山本 嘉人

校歌斉唱

閉式の辞

【二部】記念講演

13：40～14：30

記念講演

講師 梅花女子大学 学長 河村 圭子 先生

『ある小規模私立女子大学の挑戦』

施設見学会

14：30～15：00

<模擬手術室見学会>

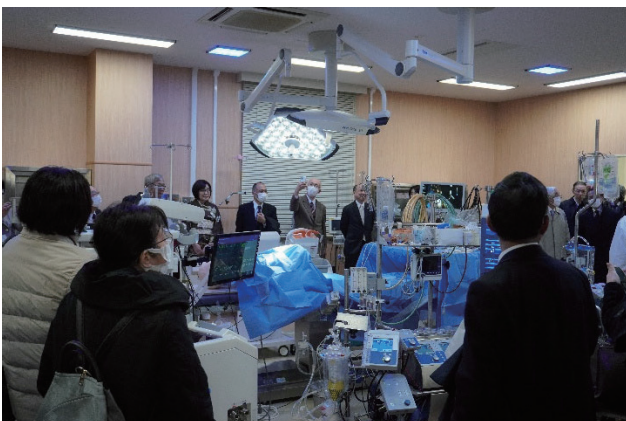
情報交換会

15：00～16：00

会場 藍野大学内レストラン

<フーコバーナ>

【当日の様様】



2024 年度の出来事

2024 年の FD・SD 推進活動

FD・SD 推進部会長 田中 貴広

2024 年度より、FD・SD 部会は改めて時代の潮流、本学の教育上の課題、運営上の課題について、部会の教職員や他の委員会・部会の方々と議論を重ねながら、各研修会を企画しました。多くの研修を他の委員会・部会と共催したことで、組織間の横のつながりが強化されたと感じています。FD・SD 研修は、教育や業務の改善、教職員のスキルアップを目的としているため、次年度以降も他の委員会・部会と課題を共有し、改善・解決の糸口を見出せる研修を計画していきたいと考えています。

2024 年度の FD・SD 研修では、大学に求められる「連携力」「募集力」「教育力」「研究力」の 4 つの力を強化することを目的に、それぞれの分野で豊富な経験を持つ講師の先生方をお招きし、講演を実施しました。特に 2024 年度は「募集力」と「連携力」の強化を重点課題としました。以下に、今年度実施した研修内容を示します。

「連携力」

テーマ：地域・大学・教員・職員・学生・教職員一体の大学改革

講師：共愛学園前橋国際大学 大森 昭生 先生

「募集力」

(広報戦略室共催)

テーマ：募集力の強化

講師：戸板女子短期大学 吉田 涼平 先生

テーマ：健康科学科の新設について

講師：藍野大学 中井 良育 先生

「教育力」

(学生相談部会共催)

テーマ：学生相談窓口から見る藍野大学生の傾向・学生対応・修学支援

講師：藍野大学 近森 聡 先生

テーマ：教育と AI

講師：桜美林大学 田中 一考 先生

「研究力」

(研究倫理部会共催)

テーマ：研究倫理教育・コンプライアンス教育

講師：京都大学 森 拓也 先生

研修成果と今後の展望

「連携力」と「募集力」に関するご講演では、大森先生、吉田先生から、全教職員が大学の課題や方針を共有し、連携することの重要性について強調いただきました。また、大学の「入り口」であるオープンキャンパスと、「出口」である地域との関わり方を改めて考える契機にもなりました。高校－大学－地域との繋がりの中で大学は高校生、地域のニーズを捉えて、さらに学生、地域を巻き込んで教育を展開することが解決・発展の糸口になるかもしれません。

近森先生の「教育力」のご講演においても、悩みを抱える学生への支援の成否は、教職員間の連携が鍵となることを強調いただきました。

2024 年度の FD・SD 研修を通じ、大学に求められる 4 つの力を改善・強化するためには、教職員間の横のつながりが不可欠であることを再認識する機会となりました。次年度の FD・SD 研修でも、各委員会・部会と大学の課題を共有し、解決に向けた研修を企画・運営していく予定です。2025 年度も引き続き、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

大学教育改革のトレンドと本学の教学 IR

教学 IR 室 杉山芳生

1. はじめに

教学 IR 室では、大学教育の質保証に関する様々な調査（例えば、MLST、授業アンケート、学習行動調査、卒業時アンケート調査など）を実施し、その集計や分析を行っています。例年特定の調査に焦点を絞って報告してまいりましたが、2024 年度は 9 月にびわこリハビリテーション専門職大学と共催で行われた教学 IR セミナーの講演内容をもとに、大学教育改革のトレンドと本学の教学 IR の取り組みを重ねて報告させていただきたいと思います。

2. 大学教育の現状と大学教育改革のトレンド

日本における大学教育において、18 歳人口の減少にともなう大学進学者数の減少が問題視されていることは周知のことかと思えます。文部科学省（2024）の調査によれば、18 歳人口は 1992 年をピークに減少を続けていますが、これまでは大学進学率が上昇してきたことで、大学進学者数は維持されてきました。しかし、大学進学率は頭打ちとなり、2026 年をピークに大学進学者数は減少局面に入ると予測されています。特に、私立大学は 18 歳人口が減少を続ける中、定員数を増やしてきており、「定員割れ」の問題が顕在化してきています。日本私立学校振興・共済事業団（2024）の調査からは、約 6 割の大学が、すでに定員充足率 100%を切っており、約 3 校に 1 校が 80%に届いていない状況であることが確認できます。そのような現状もふまえ、文部科学省の中央教育審議会大学分科会（2024）は、「急速な少子化が進行する中での将来社会を見据えた高等教育の在り方について（中間まとめ）」を示しています。そこでは、減少していく 18 歳人口と増えすぎた収容定員の中で、定員割れを起こし、縮小・撤退する大学が出てくることを見越し、学生保護のための仕組みづくりまで言及されています。

しかし、これは大学教育改革がうまくいかなかった場合のシナリオです。大学教育の今後に関する議論の中心は、いかに大学教育の質を保証し、大学の価値を提示していくかにあります。そのため、以下では今後の大学教育改革で重視すべきとされる、「新たな時代に対応した教育内容の改善」と「デジタル化の推進」に焦点化し、本学の教学 IR が実施している調査と関連させてご報告いたします。

3. 新たな時代に対応した教育内容の改善に関する調査

中央教育審議会大学分科会（2024, p.26）の中間まとめでは、「分野を超えた専門知を組み合わせ、『総合知』の創出・活用が必要とされる時代にあっては、情報基盤社会の基盤的リテラシーを身につけた上で、専門知そのものの深掘り・広がりとともに、専門知を持ち寄って多様な他者と対話し、交流・融合・連携を進めることにより、知の活力を生み出すことのできる人材が求められる」とされています。分野を超えた学びを実現することは、簡単なことではありませんが、本学では創設者の、看護、理学療法、作業療法、臨床工学を含む医療、福祉、保健の専門家が一緒になり（Sym）、シンフォニーを奏できるように協力して患者さん中心の医療（Medical）を行うことが重要であるとの考えから、「シン・メディカル」が教育理念として提唱され、ディプロマ・ポリシー（以下 DP）にも「協創」というかたちで反映されています。また、それらを実際に学んでいくための科目として、従来は主に 3 年次に配置されていた「シンメディカル論」を、「シン・メディカルⅠ～Ⅳ」として全学科の必修科目として各学年に配置するといった教育改革を行ってきました。このように、本学では、中間まとめが出される以前から、「専門知を持ち寄って多様な他者と対話し、交流・融合・連携を進めることによ

り、知の活力を生み出すことのできる人材」の養成に取り組み、教育内容の改善に取り組んできたといえます。

教学 IR 室としても、評価に用いられるルーブリックの検討に加え、毎年「シン・メディカル I ～ IV」の全科目で、授業時間内にシン・メディカル学習行動調査を実施させていただき、「協創」に関する能力の獲得感や授業の改善点について調査を行ってきました。特に「協創」に関する能力の獲得感(図 1 参照)は、毎年どの科目も 6 件法で 5 程度の高い値が示されており、学生にとって成長を感じられる科目となっていることが推察されます。こうした一連の取り組みは、2023 年度の第 3 期認証評価においても、教育・学習面における長所として評価されており、新たな時代に対応し、かつ、藍野大学の特徴を生かした先進的な取り組みとして推進していくことが期待されます。

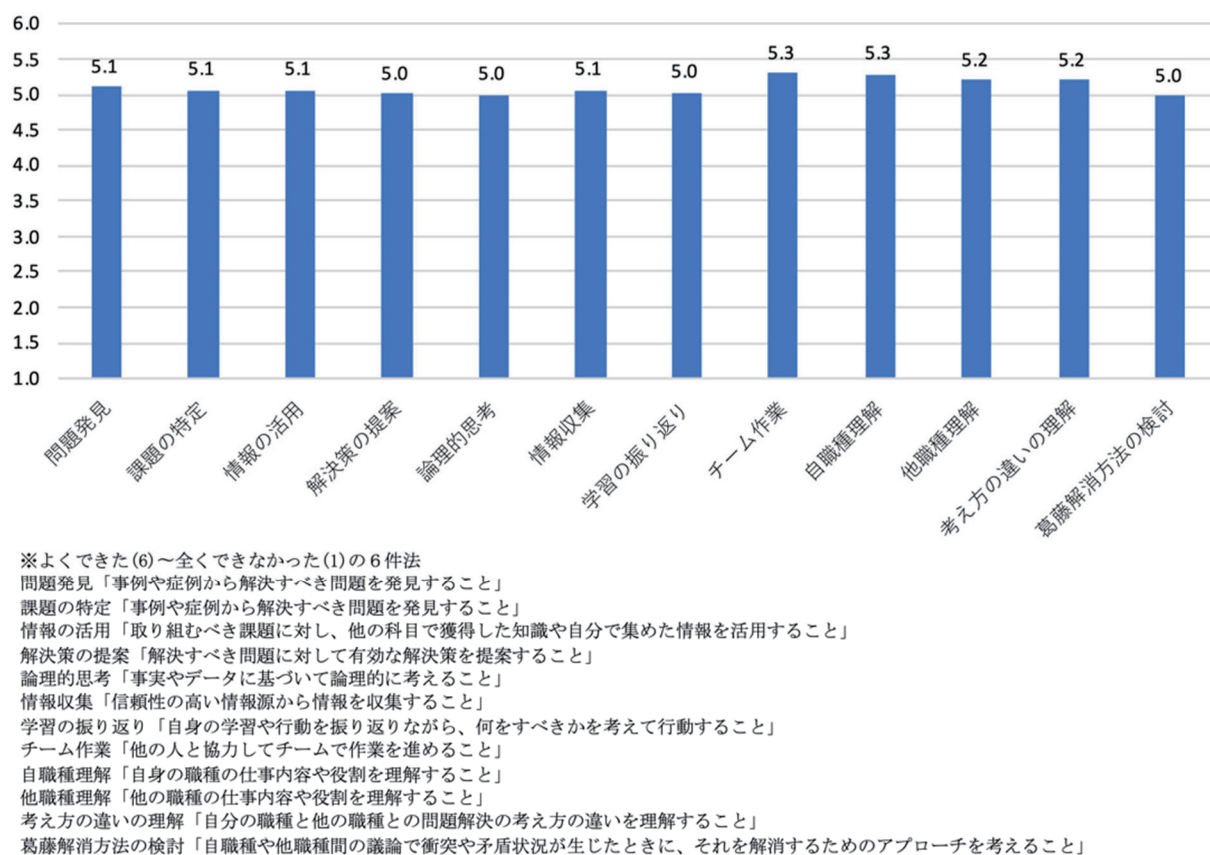


図 1 2024 年度シン・メディカル I における協創関連能力の獲得感

4. デジタル化の推進に関する調査

先ほどの、新たな時代に対応した教育内容の改善においても、「情報基盤社会の基盤的リテラシーを身につけた上で」との記述がみられましたが、新たな時代の高等教育に向かっていくために、デジタル化の推進は欠かせないものとなっています。義務教育段階では、1人1台端末の学習環境が整備され、2024 年度から全ての小中学校等を対象に、小学校 5 年生から中学校 3 年生に対して、英語の教科でデジタル教科書の提供が開始されました。その他の教科についても、段階的に提供される計画となっており、2028 年度には 1人1台端末のデジタル教科書で学んだことのある学生が大学に入学してくることになります。

このような状況から、本学における電子教科書(デジタル教科書)導入の検討に向けた調査として、

2023 年度の学習行動調査において、電子教科書導入の希望や PC 活用状況に関する項目を追加実施しました。そしてその後の分析（杉山ほか, 2024）において、PC を活用している学生の方が、そうでない学生に比べ、主体的学習態度の得点が高い傾向があること（図 2）、主体的学習態度と PC の活用状況の高低で 4 つのタイプにクラスターを分けた場合、主体的学習態度と PC の活用状況の両方が低いタイプ 1 の学生は、その他のタイプの学生に比べ、授業外学習時間が低いことなどが明らかとなりました（図 3）。これらは、PC を活用すれば主体的学習態度が高くなったり、授業外学習時間が増えたりすることを示すものではありません。しかし、主体的学習態度に直接介入するより、主体性はあるものの PC 操作が苦手な学生への支援など、PC の活用は教育的介入が比較的容易であると考えられます。そのため、電子教科書の導入を含め、デジタル化を進め、PC 等による ICT 活用を活発にしていけることが、実行可能性の高い改善の方法といえそうです。

2024 年に実施した卒業時アンケートでは、藍野大学の ICT 教育環境整備に関する満足度の項目も加えられています。そこでは、「フリーWi-Fi 等通信環境の整備」（56.7%）に次いで、「授業資料や教科書等のデジタル化」（31.2%）が、「もっと活発に行うべきだと思うもの」に選ばれています。本調査の経年的な動向に注視しつつ、2025 年度から導入が決まった電子教科書の効果検証に関しても、教学 IR として調査に取り組んでいく所存です。

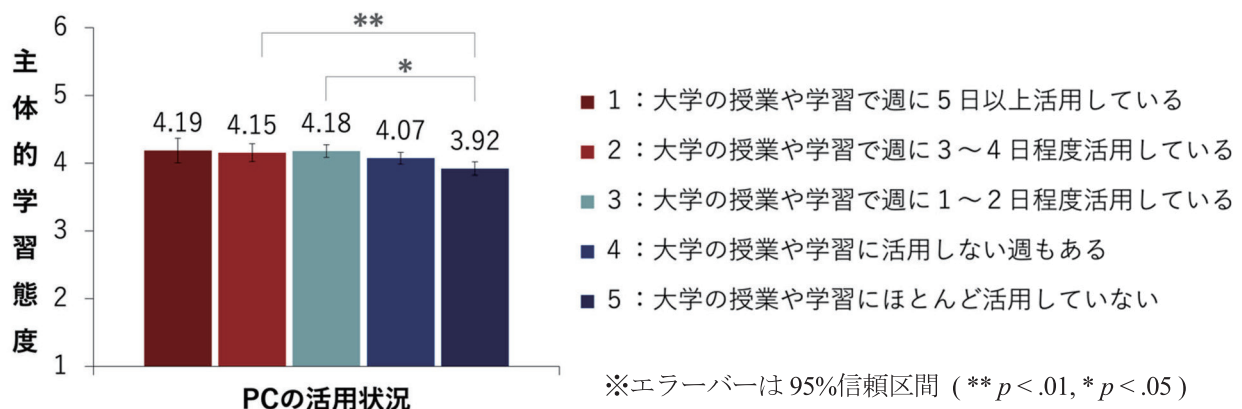


図 2 PC 活用状況別の主体的学習態度の平均値 (杉山ほか, 2024)

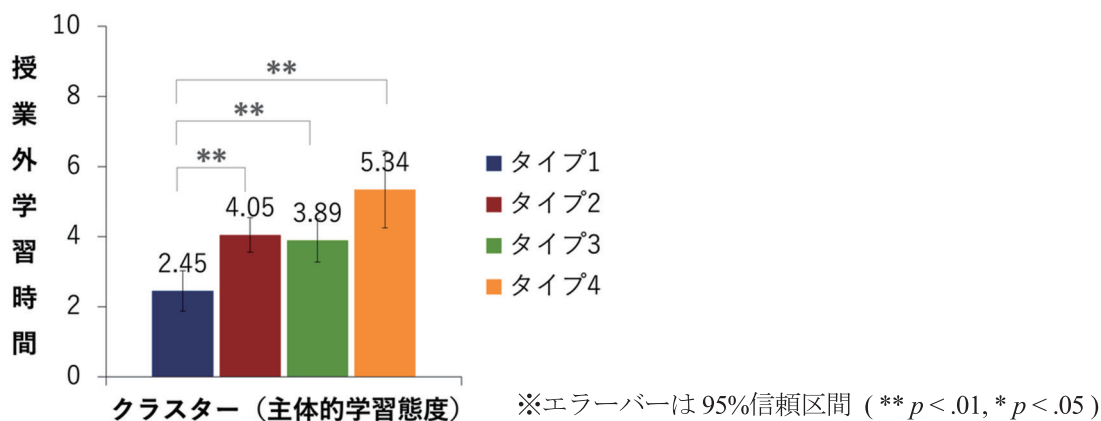


図 3 主体的学習態度と PC 活用のタイプ別授業外学習時間 (杉山ほか, 2024)

【引用文献】

- 1) 中央教育審議会大学分科会 (2024) 「急速な少子化が進行する中での将来社会を見据えた高等教育の在り方について (中間まとめ) 概要」 (https://www.mext.go.jp/content/20240910-mxt_koutou02-000037963_17.pdf) (2024 年 11 月 13 日)
- 2) 文部科学省 (2024) 「大学分科会 (第 178 回) 高等教育の在り方に関する特別部会 (第 8 回) 合同会議配付資料【参考資料 1】関係データ集」 (https://www.mext.go.jp/content/20240719-koutou02-000037140_14.pdf) (2024 年 11 月 13 日)
- 3) 日本私立学校振興・共済事業団 (2024) 「令和 6 (2024) 年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」 (<https://www.shigaku.go.jp/files/shigandoukouR6.pdf>) (2024 年 11 月 13 日)
- 4) 杉山芳生・平山朋子・斎藤有吾 (2024) 「学生の PC 活用状況と学習行動に関する IR 調査—医療系私立大学の事例—」 第 30 回大学教育研究フォーラム.

一般社団法人日本災害看護学会第 26 回年次大会を開催して

看護学科 西上あゆみ

一般社団法人日本災害看護学会第 26 回年次大会大会長を拝命したのは、2022 年夏のことでした。日本災害看護学会は、1995 年の阪神・淡路大震災や地下鉄サリン事件など、未曾有の災害が発生したことをきっかけに 1998 年に発足した学会です。私自身、阪神淡路大震災時にボランティア活動を行ったことをきっかけに、また災害看護が今後の看護界で必要と感じられた先生からのすすめもあり、1997 年に大学院修士課程に進んだときに研究テーマとしていました。第 1 回の年次大会が開催されたときに修士課程を修了していたわたしは研究成果を学会で発表しました。そのときからいろいろな縁が続いて災害看護の研究を続けてきたわけですから、2 年前に大会長を拝命した時は感慨深いものもありました。

早速、学科長の本多先生に相談したところ、藍野大学の看護学科をあげてよい学会にしようと取り組んでくださったことにとても感謝しています。しかし、一方で、この学会の年次大会は 2020 年から 2022 年までオンライン学会となっていました。2023 年から対面学会に戻りましたが、COVID19 前は 1500 人にいた学会員も少し減少傾向にありまして、オンラインでの学会参加者もそれ以上に減少していたため、対面学会にするとはいえ、いったい何名で学会開催を企画したらよいのかなど、不安要素がたくさんありました。これまで学会開催を手伝ってきたことはありまして、多くのお金がかかること、また、どのような講演者をお呼びすることができるのか、そもそも数百名も集まる年次大会を開催できるのか不安は尽きませんでした。

先に年次大会の経験のある先生からは運営会社を早く決めることをご教授いただき、学会の規定である 3 社の見積もりを実施しました。また、会場に関しては大阪市内を含め、複数の会場にあたりましたが、ちょうど茨木市に「おにクル」（茨木市文化・子育て複合施設）ができることがわかっていましたので、ここが会場になるのではないかと目星をつけました。あわせて学会の中心となる企画委員会を発足しました。運営会社もこれまで本会の年次大会の経験のある会社に頼むことができました。なによりもありがたかったのは茨木市が「おにクル」の使用を 2 年前にもかかわらず、予定を組ませていただくことができたことでした。また、無料で併設されている茨木市市役所の一部も貸していただくことになりました。これまで学会経験のある先生方より寄付先となりそうなところを聞き、連絡を取りましたが、非常に厳しい状況でした。趣意書の工夫、2 年がかりで災害や防災関係の展覧会へ行き、看護系の学会は特に大阪を中心に積極的に参加しては企業への声掛けをして協賛をお願いいたしました。

藍野大学の看護学科の多くの先生が日本災害看護学会に入会し、2023 年度は姫路で 25 回年次大会が開催されましたが、26 回の年次大会の準備として実行委員になってくださいました。広報費用を抑えるために基盤看護領域の先生方には本来であれば、運営会社に頼んでもよいようなお仕事をかなり協力していただきました。ポスターとチラシは運営会社から版をもらって安い印刷会社に注文し、病院名簿、看護大学名簿をインターネットから情報収集し、自分たちで送付を行いました。8 月を迎えるまで、参加者の数は把握できず、それゆえにできることは自分たちで準備しようと「参加 PASS」や会場内の掲示物の準備など細かく準備を進めました。

年次大会の内容は、前年度より企画委員の先生方と検討し、特別講演 3 題「ジェンダーおよび多様性の視点での災害への備え」「防災学術連携体の意義と日本災害看護学会への期待」「災害時の病院機能維持—BCM に資する BCP の作り方—」と教育講演 2 題「災害時の適切な行動を促す「防災リテラシー」」「気候変動とそのリスク～どうする、どう備える～」と私のこれまでの研究にもあっており、本企画に賛同して下さった先生方から講師の紹介もいただき、内容を決めることができました。シンポジウムも

3 つ企画しましたが「災害時要援護者を護る」「被災地に入る看護師による災害支援の展望」「有事の備え」とタイムリーな話題になりました。本体である学会からの企画もありますが、1 月に発生した能登半島地震の企画を市民公開講座も含め、多く発表していただく予定でした。会員からの口演や示説も昨年より多く集まりました。おかげで COVID19 以降、最高の参加者 1366 名の登録がありました。

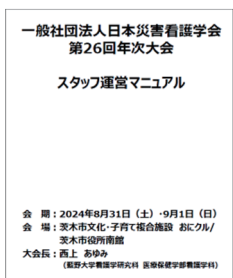
心配していた企業や団体様からの協賛ですが、少しずつ成果も出て多くの協力を得ることができたと思います。特筆すべきは学校法人藍野大学から複数のイベントへ協賛をいただいたことだと思います。最近行われた災害医療系の学会で宗教がとりあげられていたこともあり、学長の佐々木先生を講師に迎え、ランチョンセミナーを企画させていただいたことも参加者への大きな楽しみになったことと思っています。オンデマンドまでお引き受けいただき、ありがとうございました。

迷走する台風 10 号のために 8 月 29 日、現地開催での学会を断念いたしました。本会は 26 回になりますが、台風での現地開催の完全中止は初めてのことでした。企画当初からオンデマンドの併用を考えていましたが、急遽この対応に追われるなど大変なこととなりました。とくに能登半島では学会特別企画「令和 6 年能登半島地震報告会」の録画を終えた直後に台風被害にまた見舞われるなど災害に縁のある学会となってしまいました。下記の写真の 1 枚は学会のホームページですが、晴れた空に明るいかわいらしいポスターと評判をいただいていたのですが、このような天気とならず、残念でした。また、もう 1 枚は会場には蘭を送ってくださる方もあり、基盤看護領域のメンバーが立て看板や大会長名札なども作ってくれていたため、お披露目できなかったのも、後日、記念写真を撮っていただきました。



この青藍に「一般社団法人日本災害看護学会第 26 回年次大会を開催して」の寄稿をすすめて頂いた時に一番に思いついたことは、本学の先生方へのお礼の気持ちです。看護の領域にはたくさんの取り組みねばならない問題や課題があり、災害看護もその一

つでしかありません。平時の多忙を極める中、専門ではない先生方が災害看護学会に入会、看護学科を中心に盛り立てて下さったこと、皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



←幻のスタッフマニュアル

学会運営にかかわってくださった先生方にお礼申し上げます

本多容子	中野玲子	和田恵美子	宮岡裕香	中井良育	生藤由紀子	松本七十七	山中知子	松浦則子
梅田英子	真鍋由希	岩佐美香	中田裕二	斎野貴史	藤本智美	榮口響大	阿部宏史	堀川尚子
松本晃子	天野美玖	三宅光代	西田千夏	河野由理	堀智子	吉川美和子	加藤裕規	神田栄美子
齋藤祥乃	高橋えり	林 周子	竹本圭祐	古澤朗子	前川麻記	横山雛子	川端慶子	宮本年也

〈研究紹介〉 科学研究費補助金採択課題について

題名：日本における病院看護部の備えと看護師の防災リテラシーの進展

看護学科 西上あゆみ

1. 研究背景

病院においては日常から多くの患者を抱えているうえに災害発生時には衛生材料や医療機器等のリソースが不足する中で、被災者の来院も考えられ、通常以上に多くの業務の実施が求められる。とくに病院内でもっとも人数の多い職種である看護師は 24 時間勤務していることから災害発生時の対応において最前線で効率的な業務実施が求められる。病院看護師を対象とした調査では、備えや意識調査や参集調査などが行われている。しかし、災害発生その時、それらの調査だけでは即時性に欠け、必要な人命の安全確保や被害の軽減だけでなく、現在求められている病院の BCP（事業継続計画）に対応しきれものではない。

研究代表者はこれまで自然災害に対する病院看護部の備えを高め、その対策を持続できるよう研究を行っており、「自然災害に対する病院看護部の備え測定尺度」を作成し、これに関するホームページを立ち上げるなど普及活動を行ってきた。また、病院看護部の防災担当者の災害に備える活動実態を聞き、病院看護部が自然災害に対して備える方略を作成、WEB で公開している。加えて、この結果にかかわる背景として、病院勤務の看護師の防災リテラシーはどのような状況であるのかということも影響因子として考えてきた。学術的な問いは、COVID19 や近年の風水害の頻発を受け、病院看護部の備えが進展したか、また、それに影響する因子の一つといえる病院看護師の防災リテラシーを高めるよう尺度を作成したうえで、病院看護部・看護師の災害への課題を明確にすることである。このために病院看護部の自然災害に備える現状を把握するだけでなく、前年度までの研究を引き継ぎ、本研究を通して病院看護師の防災リテラシーの尺度の開発のために内容を精査することを計画している。これらの活動を通して、日本における病院看護部の備えが進展してきているのか、看護師の防災リテラシーはどのようなものかを問うていく。

2. 研究目的

日本における病院看護部の現在の備えを明らかにし、その実態をふまえて病院看護師の防災リテラシーの現状を尺度作成を通じて明確化する。これらをあわせて日本の病院看護師の災害への備えを進展させる。

3. 研究計画

1) 2024 年度

日本における病院看護部の現時点での自然災害に対する備えの現状調査と病院勤務看護師の防災リテラシー尺度を作成に関わる調査

2013 年作成した日本における病院看護部の自然災害に対する備えの調査を実施。2023 年度まで取り組んできた病院勤務看護師の防災リテラシー項目を尺度化すべく災害看護の専門家による項目の構成概念妥当性等の調査を実施する。

2) 2025 年度

病院勤務看護師の防災リテラシー尺度の作成

前年度に実施された結果を踏まえて、病院勤務看護師の防災リテラシー尺度を完成させるよう全国の

病院看護師を対象とした調査を実施する。

3) 2026 年度

研究結果を統合した総合分析

2024 年度、2025 年度の調査結果をもとに日本における病院看護部の備えと、看護部の構成員である看護師の防災リテラシーの現状を総合的に分析、進展に関する現状や課題を明確にする。

4. 学術的独自性と創造性

学術的独自性であるが、病院看護部の自然災害への備えを測定する尺度は研究代表者が作成したのちも類似のものは発表されていない。研究代表者は、病院看護部への災害への備えが進めにくい理由として、そもそも災害への意識や認識が薄いのではないかと考え、実態調査や病院看護部が備える方略について調査を行い、ガイドラインの作成を作成、web による公開に取り組んできた。しかし、尺度を作成した 2013 年を最後に尺度を用いた全国調査を行っていないため、10 年の経過を経て、全国調査を行うことは意義があると考え。尺度を作成しているからこそ取り組める継続研究であり、病院看護部における防災に対する進展をみていることができる。

病院看護師の防災リテラシー尺度であるが、2021 年度からの先行研究で看護師の防災リテラシーを探究する研究を行ってきたが、3 年後の現在においても同様の研究を他の研究者が行っている報告はない。創造性として、この防災リテラシーが明確になった後は、病院看護部の備えと関連付けて不足部分を補っていく研究に発展できる。加えて、研究者らはこれまで、病院防災に関する備え教育、看護協会での継続教育、認定看護管理者教育課程セカンドレベルでの災害看護教育に携わっている経験があり、得られた知見を教育に生かしていくことも可能である。

関連する国内外の研究動向では、2023 年 8 月現在、医学中央雑誌で「防災リテラシー」と検索したが、すべての論文種類を入れても検索結果は 6 件と 2019 年の検索時とほぼ同様の結果であった。立木(2016)は要配慮者の避難移動に施設管理者取り組むべき対応の必要性を述べているが、医療従事者ではあいかわらず取り組まれてきていない状況である。国外では防災リテラシーに関しては「disaster literacy」で検索をかけたが、最新の論文は 2018 年であり、これも近年研究が進んでいない。このように医療従事者に対する防災リテラシーの研究は進んでおらず、本研究は先駆的な研究といえる。

5. 文献

- 1) 西上あゆみ他：令和 3 年度—令和 5 年度、科学研究費補助金・基盤研究(C)、病院勤務看護師の防災リテラシーの実態と向上
- 2) 西上あゆみ(2020)：病院看護部としての災害に対する備え,臨床老年看護,27(2),日総研,59-65
- 3) Ayumi Nishigami(2019)：Evaluation of the use of the “Natural Disaster Preparedness Scale for Hospital Nursing Departments” tool in Japan, Health Emergency and Disaster Nursing, Advance Publication
- 4) 立木茂雄(2016)：要配慮者の避難移動に施設管理者や自治体はどう取り組むべきか 災害時の適切な避難を促す「防災リテラシー」, 公明,132,50-55.

〈研究紹介〉 科学研究費補助金採択課題について 医療と看護と介護の連携に活かされるホームヘルパーの観察項目の研究

藍野大学 医療保健学部 看護学科 和田 恵美子

1. 研究開始当初の背景

我が国の医療・介護政策の1つである「病院から在宅へ」という流れにおいて、在宅で介護を要する高齢者や障害者の増加への対応は喫緊の課題である。とりわけ、身近で高齢者や障害者とその家族に訪問介護として関わるヘルパーから医療職への情報提供は、異常の早期発見に結び付く重要項目であることが多い。我が国の全国調査によれば、在宅医療と介護の連携の場で情報発信の多い職種として、看護師(24%)に次いでヘルパー(20%)があげられ、医師(18%)、介護支援専門員(16%)の順に報告されている(情報システムの共通基盤の在り方に関する調査報告書 東京大学高齢社会総合研究機構, 2015)。異常の早期発見につながる情報提供のできるヘルパーも存在するが、療養者の褥瘡の悪化の兆候、腹痛の訴えに気づきつつも連絡が遅れ、重症化し入院に至ったケースも報告されている¹⁾。ヘルパーへのインタビュー調査から、ヘルパーの情報発信の阻害要因は、問題発見が苦手であること、医療への不安、情報の言語化への苦手意識が明らかとなっている²⁾。そこで申請者は、在宅療養支援に10年以上従事する医療・福祉職である12職種(在宅医師、精神科医師、訪問看護師、精神科訪問看護師、在宅歯科医師、在宅歯科衛生士、作業療法士、理学療法士、薬剤師、在宅訪問管理栄養士、PSW、MSW)44名がヘルパーから得たい観察内容のインタビュー調査を実施し、観察項目を抽出した³⁾。さらに、研究の分析結果から観察項目の対象者を虚弱高齢者と軽度の障害者、要介護者と重度の障害者、認知症と精神症状のある方の3つに分類し、ヘルパーの連携先の職種をそれぞれに選定した⁴⁾

⁵⁾ ⁶⁾。

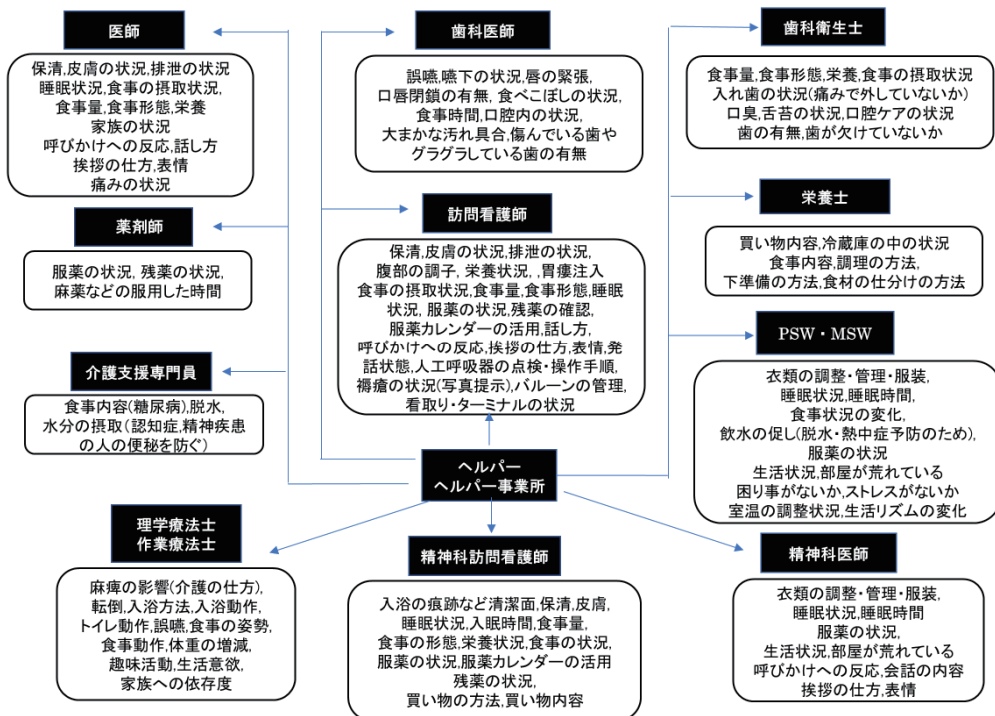


図1 ヘルパーの観察内容

ヘルパーの観察項目の指標は、ほぼ今回の研究で整理された（図 1）。ただし、図 1 は観察内容を抽出した段階にとどまり、観察指標として活用するためには、新たな知見を得て、医療と介護の専門家により検証をしていく必要がある。先行文献では、ヘルパーの観察指標として他国と比較した内容の研究はなく、その教育効果を立証したものもない。教育効果を検証し、実現化に向けた観察項目の指標の開発が急がれる。

2. 研究の目的

本研究では、申請者が抽出した『在宅ケアチームの多職種がヘルパーから得たい観察項目』を新たな知見を得て完成度の高い内容に開発し、ヘルパー事業所で 3 か月間活用後、ヘルパーの教育カリキュラムとしての教育効果を立証することである。

3. 研究の方法

1) 研究対象

介護事業所 10 施設の 50 人のヘルパー（ヘルパーの内訳：サービス担当責任者（以下、サ責）13 人、ヘルパー 37 人）

2) データ収集方法

研究依頼と説明は郵送による承諾が得られた後に、対象施設の施設長に行い、療養者の選出や活用いただく観察項目シートの選択は施設に委ねた。観察項目シート(図 3)は、必要数を宅配便で送付し、3 か月の活用後に返送いただいた。観察項目シートの返却後に、質問紙調査用紙とアンケート回収ボックスを送付し、郵送にて回収した。回収をもって同意とした。

3) 測定・分析方法

活用した観察項目シートの内容は、施設の療養者毎に Excel シートに整理した。調査項目は、性別、年齢、訪問介護経験、勤務形態、仕事への思いや感じ方、各観察項目への評価は 5 段階のリッカートスケールで、観察項目活用に関する自由記載欄を設けた。

分析はヘルパーとサ責との違いを調べるために、分散の有意差を Z 検定で確認し、分散に有意差がない場合は対応のない t 検定、有意差が見られた場合は Welch の検定を行った。

倫理的配慮は、京都看護大学倫理委員会承認を得た（第 202203）。

4. 研究成果

1) 新たな知見を得た観察項目 30 の援助内容

図 1 の観察項目の指標に対して、関西地域のサービス担当責任者、介護支援専門員、訪問看護師、栄養士、歯科医師、歯科衛生士、薬剤師の 9 名と検討を重ねて、新たな知見を得た観察項目 30 項目作成した。この観察項目は、援助項目、チェック項目、観察してもらいたい項目、自由記載（いつもの違いなど）、観察が必要な理由と予測されるリスク、情報の連絡先をポスター〈A1 サイズ〉にまとめた。情報の共有のために、各々の事業所の壁に貼っていただいた。

観察項目 30 項目の内容は、身体機能・起居動作（①麻痺や拘縮、②座位保持、③歩行、④立ち上がり、⑤洗身〈入浴・清拭・洗髪・洗面〉）、生活機能（⑥移乗や移動、⑦排尿〈トイレ利用〉、排尿〈おむつ着用〉、⑧排便〈トイレ利用〉、排便〈おむつ着用〉⑨嚥下、⑩食事摂取、⑪口腔清拭、⑫上衣の着脱、ズボン等の着脱、⑬外出頻度）、認知機能（⑭意思の伝達、⑮毎日の目標を理解、⑯

今の季節を理解、⑰睡眠、⑱昼夜逆転（睡眠）、社会生活への適応（⑲薬の内服、⑳日常の意思決定、㉑買い物、㉒簡単な調理、㉓室内の状況、㉔家族介護者）、医療的ケア（㉕レスピレーター〈人工呼吸器〉、㉖経管栄養〈胃瘻注入〉、㉗褥瘡の処置、㉘膀胱留置カテーテル、㉙疼痛への対応、㉚緩和ケア・看とり）に分類した。

2) 観察項目シート 17 項目

ヘルパー事業所で、ケアの際に使用していただく観察項目シート 17 項目は、厚生労働省の老計 10 号の訪問介護員の援助項目に基づいた 16 項目に、医療処置を必要とする方の医療的ケアの項目を追記して作成した。17 項目の詳細は、生活援助 3 項目（①掃除／洗濯や衣類の整理・補修、②一般的な調理、配下膳、③買い物・薬の受け取り）、身体援助 13 項目（①排泄介助 トイレ・ポータブルトイレ利用、②排泄介助 おむつ交換、③食事介助、④清拭〈全身清拭〉・手浴及び足浴、⑤洗髪、⑥全身浴〈入浴介助〉、⑦洗面等、⑧身体整容〈日常的な行為としての身体整容〉、⑨移乗・移動介助 車いすの介助、⑩移乗・移動介助 その他の補装具〈歩行器、杖〉の介助、⑪通院・外出介助、⑫起床や就寝介助、⑬服薬介助）に⑭医療的ケアを追記し 17 項目とし冊子（30 枚／1 冊：複写式）を作成した。観察項目シートの医療的ケア(図 3)を例にとると、観察してもらいたい☑項目と自由記載欄を設けて、新たな知見を得た観察項目 30 の援助内容から、観察が必要と思われる援助項目を抜粋して作成した。

3) 3 か月間の観察項目シートの活用結果

(1) いつもとの違いを感じた時の回数

利用された観察項目シートのチェック回数は、①排泄介助 トイレ・ポータブルトイレ (296)、②排泄介助 おむつ交換(421)、③食事介助 (277)、④清拭 (全身清拭)・手浴及び足浴 (0)、⑤洗髪 (2)、⑥全身浴〈入浴介助〉(48)、⑦洗面等(259)、⑧身体整容〈日常的な行為としての身体整容〉(158)、⑨移乗・移動介助 車いすの介助 (83) ⑩移乗・移動介助 その他補助具(歩行器、杖)の介助 (17)、⑪通院・外出介助(91)、⑫起床や就寝介助(28)、⑬服薬介助(67)、⑭掃除／洗濯や衣類の整理・補修 (17)、⑮一般的な調理、配下膳 (112)、⑯買い物・薬の受け取り (14)、⑰医療的ケア (1100)となった。

(2) 利用された観察項目シート

利用された観察項目シートは、④清拭(全身清拭)・手浴及び足浴の項目以外の 16 項目の利用があった。なかでも、①排泄介助トイレ・ポータブルトイレ、②排泄介助 おむつ交換、③食事介助、⑰医療的ケアは利用頻度が高いものであった。

4) 3 か月間の観察項目シート活用後の質問紙調査結果

(1) 回答者の属性

2023 年 6 月 1 日～2023 年 10 月 5 日の期間に、10 施設の介護事業所の（3 か月間）で、合計 22 名の療養者に観察項目シートの活用があった。回答者は合計 50 名であった。

表 1. 回答者の属性 1 (人)

職種		性別			常勤・非常勤			事業所			
ヘルパー	サ責	女性	男性	未回答	常勤	非常勤	未回答	A	B	C	D
37	13	35	14	1	29	19	2	14	14	13	9

(2) 観察項目シート利用による現場での評価

観察項目シートの活用効果への評価では、①家族の生活状況の変化や異常を意識しやすくなる、②身体の状態の変化や異常を意識しやすくなる、③心の変化や異常を意識しやすくなる、④利用者の身の回り（設備、薬の場所など）の変化や異常を意識しやすくなる、⑤ヘルパーが仕事の仕方を振り返りやすくなる、⑥介護をする中で優先順位をつけやすくなる、⑦観察するポイントを意識しやすくなる、⑧技術や知識習得のきっかけになるの①～⑧を5段階のリッカートスケールで評価した（図2～図5）。「よく当てはまる 30%」「やや当てはまる 54%」と、8割強が肯定的な評価をしていた。

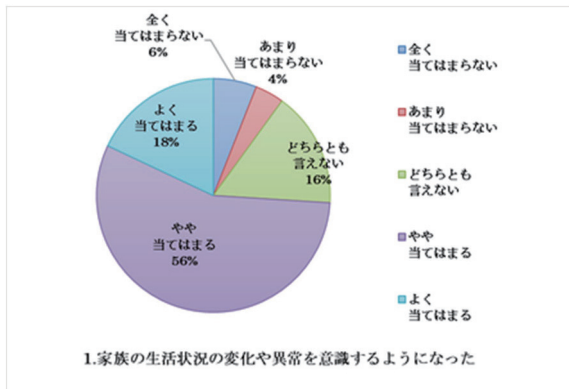


図2 家族の生活状況

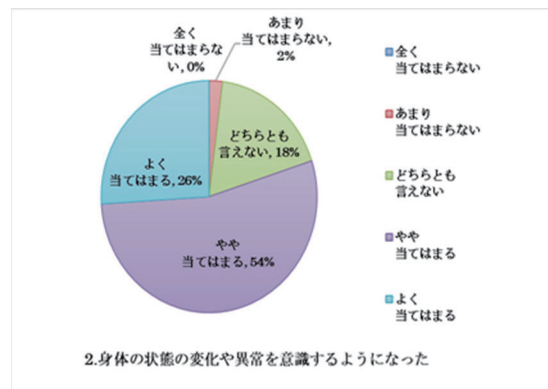


図3 利用者の身体の状態

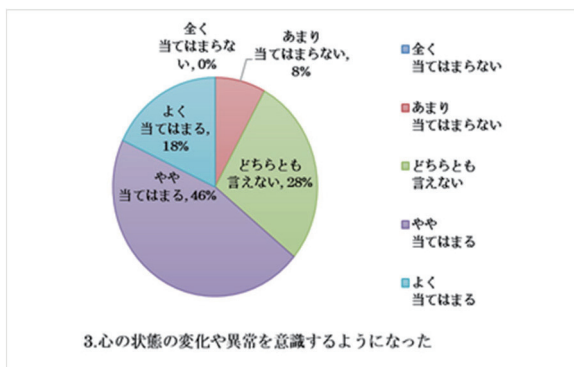


図4 利用者の心の状態

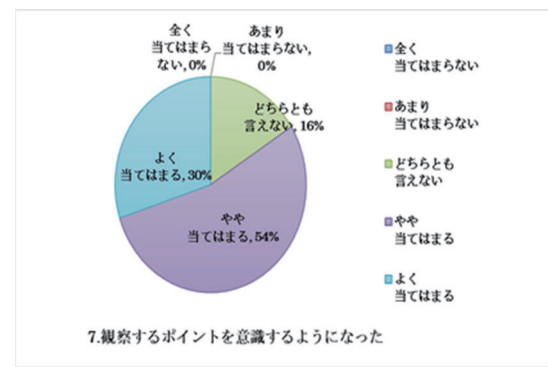


図5 観察するポイントの認識

ヘルパーとサ責の違いについて検討したところ、「ヘルパー間で情報共有しやすくなる」については、F検定を行った結果、等分散が認められず Welch の検定を行い、サ責の方がヘルパーよりの有意に高い評価が得られた ($t(43.15)=2.866, p=.006$)。「技術や知識習得のきっかけになった」についても等分散が認められず、Welch の検定を行い、サ責よりもヘルパーの評価の方が高い傾向にあった ($t(27.58)=1.865, p=.073$)。その他の項目に関する評価はヘルパーとサ責の間では有意な差が見られなかった。

(5) 自由記載欄の回答（原文のまま抜粋）

ア. 観察項目シートがあった方がよい。

- ✓ 観察項目により、観察すべきポイントがよくわかり、今まで以上に意識的に利用者の変化を観察できました。

- ✓ 意識して観察を行ったので、利用者の変化に気づくことができた。
- ✓ 情報共有しやすいと思います。
- ✓ あった方がわかりやすく、抜けも少ないと思います。
- ✓ 観察する重要度も理解できてきた。
- ✓ 色々な角度から利用者様のことが理解できる。
- ✓ 自分では一方向しか見るができなかったが、他方向から見るができ、日々反省することがあった。
- ✓ 各現場に観察項目があると、観察の意識だけでなく、他のヘルパーの気づきや異常を確認して事故を防ぐ効果もあると思いました。
- ✓ 経験がまだ浅いので、こういうところ（義歯、買物、排せつ等）も観察したらより良いサービスができるようになるという発見にもなりました。

イ. 改善点

- ✓ 重複する項目と当てはまらない項目あり、自由欄があっても良いかなと思った。
- ✓ 内容については今後、自由記述欄、異常なし欄（チェックボックス）があっても良いと思う。
- ✓ 1回1ページではなく、何回（何日）か分を1ページにまとめて変化が見てすぐわかるとよい。
- ✓ 1週間を一目で見られるような表なら皆が前日、前々日の様子も見られるのではと思いました。

ウ. 負担感

- ✓ ケアに時間がかかったときは記入の時間がかかって大変でした。
- ✓ 利用者様によっては共有ノートもありましたので、同じ報告を3回することになるため、時間的に負担でした。
- ✓ 利用者、事業所共に保管物が増えてしまう。

4) 考察・結論

現場で活用していくには、課題はあるが、観察項目シートの教育効果が立証されたとと言える。改善点や負担感から今後の観察項目シートへの改良と ICT 化に向けての示唆が得られた。訪問看護師やケアマネジャーからの評価も今後検証していく必要がある。

参考文献

- 1) 和田恵美子：在宅療養継続における家族介護者の介護力の源となるもの. 家族看護学研究, 査読有, 23(1):15-25(2017)
- 2) 和田恵美子：ホームヘルパーの情報発信の実態把握と阻害要因の明確化 医療と介護の円滑な連携にむけて. 日本在宅ケア学会誌, 査読有, 22(1) :65-73 (2018)
- 3) 和田恵美子：医療と看護と介護の連携に活かされるホームヘルパーの観察項目に関する研究. ファイザーヘルスリサーチ振興財団抄録集 25, 27-32, 2018(ファイザーヘルスリサーチ振興財団助成金 115 万円による研究：2016.12～2017.12)
- 4) Emiko Wada : Observation points necessary for preventing frail elderly care-recipients from reaching a state requiring nursing care—With a spotlight on home caregivers involved in the elderly recipients' daily life support care—. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science. Poster P2-114, February 28-29 ,2020, JAPAN

- 5) 和田恵美子, 藤原奈佳子, 廣田美喜子:医療と看護と介護の連携に活かされる ホームヘルパーの観察項目の研究.第 44 回日本看護研究学会学術集会.示説.日本看護研究学会雑誌 42(3)P622,2019.8
- 6) 和田恵美子, 藤原奈佳子, 廣田美喜子:精神症状のある療養者の関わり方と 観察項目に関する研究— 日常生活援助に関わる ホームヘルパーに注目して—.第 44 回日本看護研究学会学術集会.口頭発表.日本看護研究学会雑誌 42(3)P456,2019.8

〈研究紹介〉科学研究費補助金採択課題について 往還するネパール人：家族の生存戦略と教育課題

理学療法学科 榎井 縁

I. 研究背景

図1 在留資格別 ネパール国籍 登録者数 推移（法務省在留外国人統計より作成）

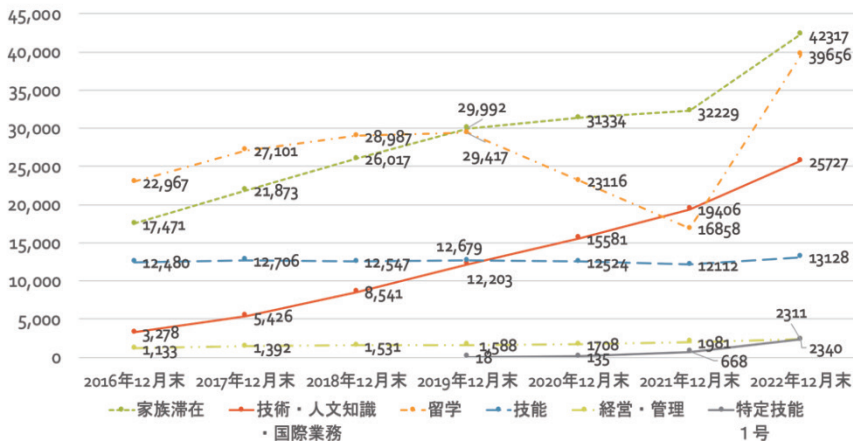


図2 2022年末における国籍別14歳以下・19歳以下の人口比率（在留外国人統計より作成）

国籍・地域	総数	0～14歳		0～19歳	
		数	率	数	率
中国	761,563	83,706	10.99%	111,137	14.59%
ベトナム	489,312	25,598	5.23%	40,067	8.19%
韓国	411,312	17,930	4.36%	26,850	6.53%
フィリピン	298,740	26,948	9.02%	37,161	12.44%
ブラジル	209,430	32,352	15.45%	44,379	21.19%
ネパール	139,393	14,032	10.07%	19,610	14.07%
インドネシア	98,865	3,942	3.99%	7,174	7.26%

図3 2022年末ネパール国籍のおおい都道府県（在留外国人統計より作成）

都道府県	総数	中国	ベトナム	韓国	フィリピン	ブラジル	ネパール
総数	3,075,213	761,563	489,312	411,312	298,740	209,430	139,393
東京都	596,148	235,165	37,958	87,761	34,425	4,094	28,559
愛知県	286,604	43,918	49,719	27,083	41,918	60,397	12,844
福岡県	89,518	19,443	19,840	14,179	6,143	367	11,811
千葉県	182,189	54,190	27,393	15,383	20,795	3,568	10,095
大阪府	272,449	69,101	47,577	89,305	10,173	2,731	10,069
神奈川県	245,790	72,158	30,049	27,232	24,778	9,080	9,653
埼玉県	212,624	75,277	34,702	15,585	22,560	7,283	9,013
兵庫県	123,125	22,411	26,023	35,928	5,657	2,493	5,124
静岡県	106,345	9,978	15,609	4,293	18,397	31,777	3,964
群馬県	66,963	6,357	12,230	2,063	8,419	13,242	3,924
沖縄県	21,792	2,673	2,234	1,351	2,343	767	3,335

人々（13,128人）は微増だが、料理店経営をふくむ経営・管理の査証をもつ人々（同2,311人）は増加している。すなわち、ネパール人の日本在留には留学から技人国にいたるルートと、技能で料理人をはじめて一部経営者になるという2つの大きなルートが存在するといえる。さらにネパール人たちの最大の特徴は家族滞在の査証での在留者が多いことにある（同42,317人）。それらは上記の留学をのぞく、技人国、経営・管理、技能のそれぞれの査証で家族のよびよせが可能となっているためであるが、それゆえ子どもの比率が高いことも在日ネパール国籍の在留の特徴となっている（図2）。ここに教育の課題が発生する。

ネパール人は日本全国津々浦々に存在する特徴がある。ブラジル国籍者の集住地域は工場の多い地域

(愛知、静岡、群馬等)であり、中国や韓国・朝鮮の国籍(地域)者は東京のみならず歴史的な経緯で大阪にも多くなっている。こうした地域では新しい移民の子どもたちにむけた教育の施策や実践が充実している。他方で、ネパール人はこれまでそれほど多くの外国人が在住してこなかった地域にも散在しており、福岡や沖縄といった地域ではネパール人はかなり大規模での外国籍住人となっている(図 3)。

移民やエスニック・マイノリティの教育課題や教育実践の研究についてはこれまでにしておくの蓄積があるものの、近年急増したネパール人の子どもや若者の課題についての調査研究はほとんどない。過去のプロジェクト²⁾はその数少ない研究のひとつとであった。そこでは 60 人以上の親たちや関係者にインタビューをおこない、親についてエリート人材、技人国ビザの人々、ネパール料理店の人々の3つのカテゴリーをみだし、それぞれの在留資格別の親の教育戦略やニーズ、および子どもの教育課題を部分的にあきらかにした^{2), 3)}。その知見のひとつは、エリート人材の親たちがおこなう子どもをトリリンガルにする子育てを理想として、技人国ビザの人々も同様の子育てを実践しようとするということ。他方でネパール料理店の人々は日本での収入を最大化することを目指しており、教育はその手段にすぎないことであった。世界有数の移民排出国であるネパールでは、英語圏が最良の移住先であり、日本と韓国はその次、さらに一時的な出稼ぎ先として中東やマレーシアがある。教育のある人々ほど英語圏を目指す(子どもに目指させる)ということは日本在住のネパール人たちも例外ではなかった。他方で地方出身者がおおいネパール料理店の料理人たちは日本での借金や生計に追われており、教育投資としては子どもが日本語を習得して少しでも早く働けるようになることが重要とされていた。日本の入管政策に左右された家族の生存戦略が、同時に教育上の課題も規定していた。

II. 研究目的・研究方法

本研究は前プロジェクトを引き継ぎ、ネパール人の教育課題を家族の生存戦略とのかかわりにおいて探求する。コロナ禍で実施が困難となった料理店、学校、海外の調査を今回は充実させ、探究が不十分だった4点に力点を置く。まず、1) ネパール料理店の家族の生存戦略にアプローチすることである。これまでわずかに経営者たちや従業員たちの家族に話をきくことができていたが、まだ一般化するには不十分なケース数でしかない。また夜間中学(中学校夜間学級)や、外国人生徒のための特別枠のある高校(いわゆる「枠校」)、定時制高校にもネパール人が増加している。それらのほとんどがネパール料理店で父親がはたらく呼び寄せの家族滞在の子どもたちである。母親もふくめて、かれらは父親の借金をはやく返すための労働力として頼られている。そのため、2) それらの学校の対応や好実践をフィールドワークによって収集していくことも視野にいれる。とくに大阪の夜間中学では在籍生徒の大多数がネパール人となっている学校もある。また高校にダイレクト(日本の中学校をへずに)で入学してくる子どもたちも少なくない。学校の指導員や教員のききとり、授業の観察、生徒たちへのききとりなどをすすめていく。

さらにネパールでの現地調査をおこない、とくに 3) 料理人を排出している地方における調査をおこなう。近年は料理店ではたらく技能査証保持者の数は微増でしかないが、経営者の搾取から逃れるための資格外活動、入国のための家族偽装、夢やぶれての帰国等々、悪例の報告が散見されている⁴⁾。実際のところ料理人の移動は闇につつまれており、入れ替わりがあるのかどうか、帰国や再出国の実態、さらにはかれらの教育への関心、地方の学校の教育水準などはあまり知られていない。ネパール料理店ではたらく料理人たちを多数輩出しているとされる南西部バグルン地区のガルコット村などを訪問し、それらの実態に接近したい。

また継続し、4) 留学・技人国ビザの家族の生存戦略と教育の実態にもアプローチしていく。これらの人々は急激な増加傾向にあり、今後ネパール人の教育の代表的ケースとなっていくことが予想されるで

ある。福岡や沖縄などの地方都市をふくめ、コロナ禍で調査が困難だった日本語学校や小中学校などにもアクセスし、子育てをする親たちの事例や学校での実践事例を蓄積し、分析に活かしていく。また 5) これまでに調査協力をしてもらった家族のうち可能な人々にはフォローアップのインタビューもおこなう。子どもは成長するし壁にもぶつかる。ネパールに帰した子どもが日本に戻れなくなるなど、コロナ禍はエリート人材ですらその教育戦略を変更せざるをえないおおごとであった。また英語教育のためネパールの学校に通わせたが適応障害となり、すぐに日本にもどした親の事例もあった。理想がうまくいくとは限らない。子どもや教育の現実にあわせて教育戦略もかわる。それゆえフォローアップも欠かすことはできない。

本研究ではさらに深くネパール人の家族の生存戦略と教育課題にせまる。生存戦略にかかわってとくに重要な視点は、彼らを日本への定住のみを志向する一時的な移動でおわる入移民 (immigrant) とはみなさない／みなせないことである。文化や言語の獲得のため子どもをネパールに帰国させたり、あるいは家族滞在という在留資格の不安定さから帰国させたりするなど、かれらは日本をステップにして英語圏へと移動するバイタリティをもつと同時に、日本の教育の欠点・限界や入管政策にも翻弄される。

そこで、日本に在留するネパール人の特徴をトランスマイグラント (transmigrant) ととらえる (図4)。

トランスマイグラントとは「異なる文化の間をたやすく移動し、二つの国にふるさとをもち、二つの国の両方において経済的・政治的・文化的な関心を追求するひとびと」⁵⁾ といえる。さらに移動は家族や親族のトランスナショナルなネットワークとも深くかかわる。日本を選ぶ理由に兄弟姉妹や親族が日本にいたという人々がいたり、英語圏に親族がいるので留学を考えているという子どもがいたりする。日本への留学資金の出資者がすでに日本や英語圏で稼ぐ兄弟姉妹ということもある。同時にグローバルな在外ネパール人同士のコミュニティが果たす役割も過小評価できない。こうした家族・親族やエスニシティのグローバルな生存戦略と密接にかかわるかたちで教育課題を考察することを目指す。先述のように在日ネパール人のエスニシティに着目した調査研究はほとんどないが (図5)、彼らのトランスマイグラントとしての特徴を鑑みたパースペクティブにもわれわれの独自性があると強調したい。

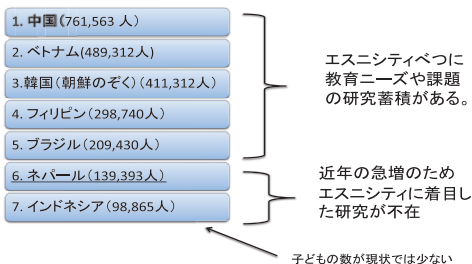
図4 研究概念図とキーワード

この図は、ネパールと日本を結ぶトランスマイグレーションの概念とキーワードを示しています。中心には「トランスマイグラント」と「往還移民」があり、その周囲には「家族・親族のネットワーク」と「エスニシティ」が示されています。左側にはネパールの地図があり、右側には日本の地図があります。矢印は移動の方向を示しています。

キーワード:

- ネパール: 英語・ネパール語、帰国が滞るか?、イジメ・差別・バウハラ、英語が学べない教育、日本語のマスター、夜中・定時制高校・校校など、Good practice、特定活動、就労制限、家族滞在 (家族呼び寄せ)、持込シェフ、留学、英語圏への移住、特定技能 (新しい働き)、特定活動、就労制限、家族滞在 (家族呼び寄せ)、持込シェフ、留学、英語圏への移住、特定技能 (新しい働き)
- 日本: 永住、技能入国、経営・管理、特定活動、就労制限、家族滞在 (家族呼び寄せ)、持込シェフ、留学、英語圏への移住、特定技能 (新しい働き)
- トランスマイグラント: 家族・親族のネットワーク、エスニシティ
- 往還移民: 家族・親族のネットワーク、エスニシティ
- ネパール: 英語・ネパール語、帰国が滞るか?、イジメ・差別・バウハラ、英語が学べない教育、日本語のマスター、夜中・定時制高校・校校など、Good practice、特定活動、就労制限、家族滞在 (家族呼び寄せ)、持込シェフ、留学、英語圏への移住、特定技能 (新しい働き)
- 日本: 永住、技能入国、経営・管理、特定活動、就労制限、家族滞在 (家族呼び寄せ)、持込シェフ、留学、英語圏への移住、特定技能 (新しい働き)
- トランスマイグラント: 家族・親族のネットワーク、エスニシティ
- 往還移民: 家族・親族のネットワーク、エスニシティ

本研究は前回のプロジェクトを引き継ぐが、当初の着想は現場の教員たちにネパールの子どもについて



つの固まりとしてみなす傾向があることも否めない。



てたびたび質問されたことに端を発していた。2018 年当時の在日ネパール人は 8.9 万人であったが、5 年たつてその数はすでに 50% も増加しており、どのようにネパール人の子どもや親たちに対応すればよいのかという現場ニーズは疑いなく増している。しかし現在においてもネパールの子どもの教育についての公開された研究はほとんど存在していない。わずかに田中⁶⁾ 7) や大國⁸⁾ が研究成果を公開しているものの、いずれもまだすくない知見しかえられていない。それらは、在留資格別の教育ニーズへの着目もなく、ネパール人を一律にひと

出移民がもたらす家族送金が GDP の約 25～30%にも達するというネパールでは、出移民はひとつの主要産業である。それゆえ英語圏や中東にも大きな在外コミュニティがあり、英語でのネパール人ディアスポラ研究も存在する^{9) 10)}。しかしネパール人にとって英語圏は移民先のいわばゴールであって、移住先で英語教育の不全に悩むこともなく、英語圏の移民が帰国したり第三国に移住することは稀である。そしてその多くは高階層出身者であったり教育の超エリートであったりする。他方、中東や韓国への移民は完全な単身の出稼ぎ（期間限定の労働者）となっていて滞在可能年数も限定されている。さらに子どもや母親をふくむ家族はネパールに暮らすので、中東や韓国における子どもの教育は研究課題として浮上しない。英語圏の研究は比較対象としては有益であり、日本のネパール人とオーバーラップする知見も少なくはない（在外コミュニティのあり方やアイデンティティ）ものの、日本のネパール人たちの特徴はそれらの導き出す姿とは異なるといえる。日本在住のネパール人の家族の生存戦略と教育課題を探究するというこのプロジェクトは独自性の強いものである。

参考文献

- 1) 移住連, 2018, *Migrants Network*, 197 号, 特定非営利活動法人移住者と連帯する全国ネットワーク (移住連)。
- 2) 榎井縁ほか, 2023, 「在日ネパール人の教育課題：親の希望と子どもの未来」研究報告会（於:とよなか国際交流協会 2023 年 8 月 21 日）発表資料。
- 3) ハヤシザキカズヒコほか, 2020, 「在日ネパール人の子どもの教育課題—エスニシティ・移民形態・教育ニーズの観点から」日本教育社会学会第 72 回大会（於:関西学院大学）発表資料。
- 4) ゲワリ, B. (田中雅子訳), 2022, 『厨房で見る夢: 在日ネパール人コックと家族の悲哀と希望』ぎょうせい。
- 5) Portes, A., 1997, 'Immigration Theory for a New Century: Some Problems and Opportunities' in *International Migration Review*, 31(4), pp. 799–825.
- 6) 田中雅子, 2017, 「特集 多言語社会ニッポン 滞日ネパール人親子の葛藤：子どもの教育をめぐる」『ことばと社会』三元社. pp.234-243.
- 7) 田中雅子, 2022, 「在日ネパール人の子どもの将来：在留資格による進路選択の壁」『地理』67 号 (3), 古今書院. pp.22-29.
- 8) 大國七歩, 2021, 「在日ネパール人 1.5 世の学校生活と大学進学—ネパールでの教育経験・社会背景の」異文化間教育学会第 42 回大会（於:玉川大学 2021 年 6 月 12 日）個人発表プログラムセッション B 発表資料。
- 9) Subba, T.B. & Sinha, A.C. (ed), 2015, *Nepali Diaspora in a Globalised Era*. Routledge: London.
- 10) Gellner, D.N. & Hausner, S.L. (ed), 2018, *Global Nepalis: Religion, Culture, and Community in a New and Old Diaspora*. Oxford Univ. Press: London.

〈研究紹介〉 科学研究費補助金採択課題について
「いつ、どこでも、ひとりで」 骨盤介助型歩行練習車の基盤技術構築

理学療法学科 青山 宏樹

1. 研究の背景

近年、歩行補助ロボットを用いた歩行訓練の有用性は認められつつある^{1,2)}。しかし、既存の歩行補助ロボットは課題として、大型で高額であることや、外骨格型における関節制御の困難さなどが指摘されている^{3,4)}。

現行の歩行練習環境における人的・技術的課題を解決するための最も有効な手法は、患者自身が日常生活の中で「いつ、どこでも、ひとりで」歩行練習ができるようになることである。本研究は、施設等で広く使用されている屋内用の四輪歩行車に歩行補助ロボットを搭載することで、施設内で場所を選ばず日常的に使用できること、また骨盤部にアプローチしやすいことに、骨盤介助型歩行練習車の利点があると考え（図1）。

臨床での歩行練習においては、理学療法士が骨盤部を操作して重心移動を介助し、下肢への荷重を促したり、正常歩行と近い関節運動を促通したりするハンドリングの治療手技が用いられることがある。これは、近位体節部をコントロールすることで四肢の自動運動を引き出し、運動と知覚の整合性や運動感覚を学習させ⁵⁾、アライメントや動作のタイミングを直接操作することで、対象者の運動学習やバランス能力に関する身体要素の強化を促す目的を持つ⁶⁾。しかし歩行介助ハンドリングでは、介助者の熟練度により再現性に欠ける可能性があること、介助者の疲労により長時間継続することが困難であることなど、人的介助であるがゆえの課題がある。これらの課題を解決するためには、生活場面で使用できる、ユーザビリティの高いロボット歩行補助装置が要求される。

しかし、歩行補助ロボットにおける骨盤運動制限を指摘した報告はいくつか見られるものの^{7,8)}、歩行における骨盤部への介助の力やタイミングのデータを示した先行研究は少なく⁹⁾、ましてや上肢で身体を支え体重の一部を免荷しながら歩行する歩行車歩行における介助の検証はなされていない。本研究では、はじめに歩行車歩行での人的介助を定量化し、シミュレーションによって検証し、データを元に骨盤介助型歩行練習車の開発における最適な設計及び制御指標を提案・構築する。

2. 研究の方法

本研究では、下記3つの課題を明らかにする。

1. 歩行車歩行における骨盤部での人的歩行支援制御を定量化し、法則性を提案する。
2. モデリングシミュレーションによる歩行支援制御の妥当性及びその応用性を検証する。
3. 骨盤介助型歩行練習車の開発のための工学的基礎技術を提案、構築する。

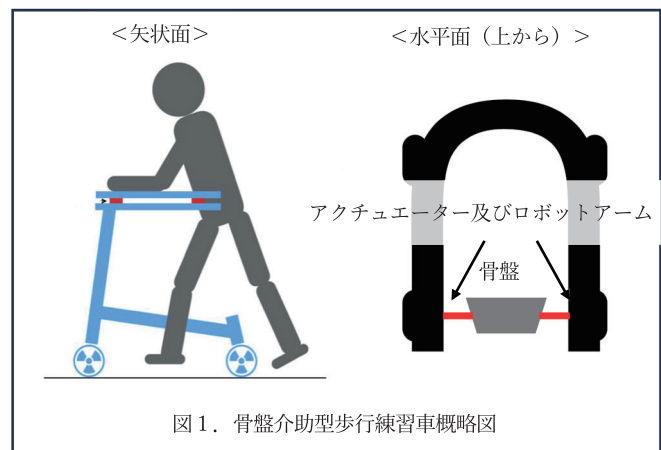


図1. 骨盤介助型歩行練習車概略図

1) 歩行車歩行における人的歩行支援制御の評価

理学療法士が骨盤部で行う人的歩行支援制御を明らかにすることを目的に、力学センサを用いて、異常歩行を想定した歩行車歩行における、介助の力の大きさ及びタイミング、またその影響による歩行動態の変化を同定する（図2）。収集される介助力の力学的データは、歩行周期の中で一定のパターンを形成すると予想される。予備実験の結果から、立脚相初期に前方への介助力が前脚への荷重を増加させ、遊脚相での上前方への介助力が骨盤回旋角度を増加させる傾向が見られた。人的歩行支援制御の法則性を見出すことで、歩行支援装置に適応可能なパラメータを提案することができる。



図2. 人的歩行支援制御予備実験

2) モデリングシミュレーションによる歩行支援制御の評価

人的歩行支援制御評価によって得られた介助力の力学的データの妥当性を確認し、歩行支援制御のバリエーションについて検証するため、数値解析ソフトウェアを用いてシミュレーション・システムを設計する（図3）。そのモデル化されたシステムを基盤に、被験者の身体条件や介助力設定をシミュレーション上で変化させたときの、骨盤、下肢関節可動域、あるいは歩行速度や重心移動に及ぼす影響を検証する。そのことにより、人的歩行支援制御評価だけでは得られない、多様な対象を想定した歩行介助に必要なデータを提示することができる。

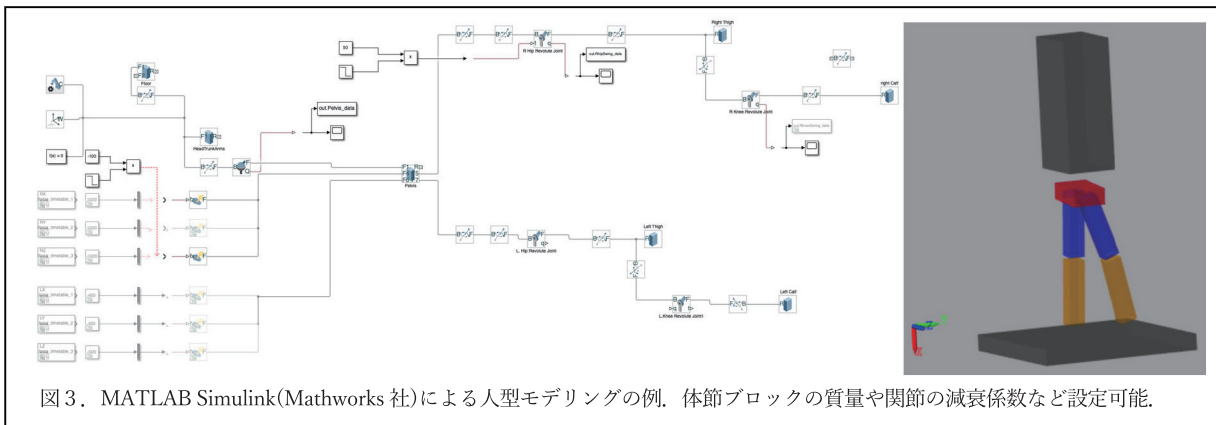


図3. MATLAB Simulink(Mathworks 社)による人型モデリングの例。体節ブロックの質量や関節の減衰係数など設定可能。

3) 骨盤介助型歩行練習車の開発のための工学的観点からの解析

理学療法士の歩行介助ハンドリング手法およびシミュレーションによる歩行支援制御の評価分析に基づき、歩行支援装置開発における工学的設計及び制御指標を提案する（図4）。具体的に、歩行支援装置に要求される最小限の自由度及び作用力、機構などの設計指標を導き、介助装置の制御手法、制御対象、制御目標等の制御系設計の指標を決定する。

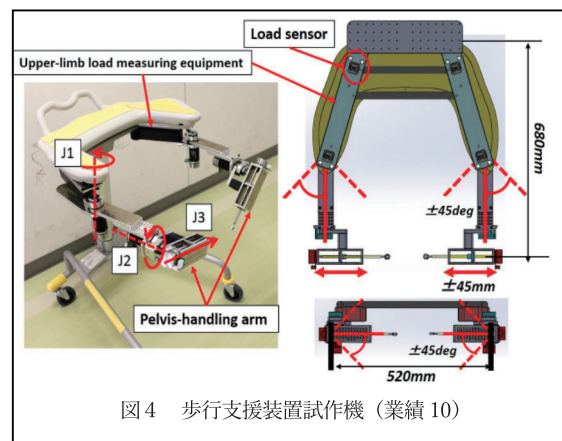


図4 歩行支援装置試作機（業績10）

参考文献

- 1) 越智光宏, 佐伯覚: ロボットリハビリテーション治療最前線, *The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine*, 57(5), 382-386, 2020
- 2) Nolan K. J. Karunakaran K.K. Chervin K. et al.: Robotic Exoskeleton Gait Training During Acute Stroke Inpatient Rehabilitation, *Frontiers in Neurorobotics*, 14, 1-9, 2020
- 3) 飯田修平: 歩行支援型ロボット, *リハビリテーション・エンジニアリング*, 33(2), 56-57, 2018
- 4) Dellen F. V. Labruyère R.: Settings matter: a scoping review on parameters in robot-assisted gait therapy identifies the importance of reporting standards, *Journal of NeuroEngineering and Rehabilitation*, 19(40), 2022
- 5) 望月久: 協調性障害の理学療法-バランス能力の評価・バランス能力改善への考え方を中心に-. *理学療法の歩み*, 18(1), 8-13, 2007
- 6) 奈良勲. *PT マニュアル 脳血管障害の理学療法-片麻痺患者の運動療法を中心に-*. 医歯薬出版株式会社. 2007.
- 7) Veneman J. F. Menger J. et al.: Design and evaluation of the gait rehabilitation robot LOPES, 30-42, Enschede, The Netherlands, 2007;
- 8) Mokhtarian A. Fattah A. and S. K. Agrawal S. K.: A novel passive pelvic device for assistance during locomotion, 2010 IEEE International Conference on Robotics and Automation, 2241-2246, Anchorage, AK, 2010
- 9) Vashista V. Khan M. and Agrawal S. K.: A Novel Approach to Apply Gait Synchronized External Forces on the ssPelvis using A-TPAD to Reduce Walking Effort, *IEEE Robot Autom Lett*, 1(2), 1118-1124, 2016

〈研究紹介〉科学研究費補助金採択課題について ひきこもり当事者の自宅内活動と主観的価値の解明

作業療法学科 真下いずみ

1. 研究の背景

日本では、15歳から64歳の生産年齢人口において、推計146万人もの人々がひきこもり状態にある¹⁾。したがって、ひきこもり解消に有効な支援技法を確立することは喫緊の課題である。2018年には、ひきこもり地域支援センターと生活困窮者自立支援制度の連携が強化されたことで、ひきこもりは医療・保健・福祉・労働の各領域が連携して支援すべき課題として認識されるようになった。さらに2021年には、重層的支援体制整備事業が創設され、市町村における支援体制も整備されはじめた。

こうした社会情勢の中で、ひきこもり支援に従事する作業療法士数にも増加の兆しが見られている²⁾。作業療法は、たとえ障害があっても、その人にとって目的や意味がある活動を遂行できれば充実感を得て生活できるといった基本理念に基づいている。筆者は、この理念に基づき精神障害者に対する訪問作業療法を行ってきた。重度精神障害者を対象とした先行研究³⁾では、『当事者にとって主観的価値が高い活動を遂行できるように介入した精神科訪問作業療法』と『通常精神科訪問作業療法』を比較検証し、前者の社会機能改善効果を明らかにした(図1)。この結果は、当事者にとって主観的価値が高い活動の遂行を支援する訪問作業療法が、社会機能の改善に有効であることを示唆している。

同様にひきこもり当事者に対しても自宅内活動を媒介に関わりを開始し、段階的に社会との接点を作る訪問作業療法を行うことで就労に至った事例を報告した⁴⁾。この結果は、ひきこもり当事者が社会との接点を回復する上で、自宅内活動に焦点を当てたアプローチの有用性を示唆している。しかしながら、現時点では事例報告に留まっており、定量的な検証には至っていない。また筆者が渉猟した限りでは、ひきこもり当事者の自宅内活動に焦点を当てた研究は殆ど行われていない。ひきこもり関連の先行研究を概観すると、当事者の外出頻度や対人交流の頻度といった社会活動の量(図1—①)が主な調査対象となっている⁵⁾。そこで、本研究は、ひきこもり当事者の自宅内活動の量やその活動に対する主観的価値(図1—②)を調査することを目的とする。ひきこもり当事者の自宅内活動とそれに対する主観的価値が明らかになれば、『活動を媒介に社会との接点を作る』新たな支援技法の確立を推進できると考える。

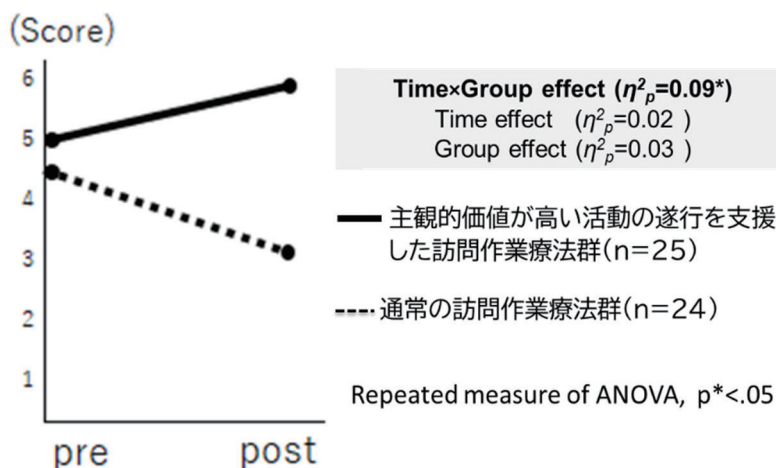
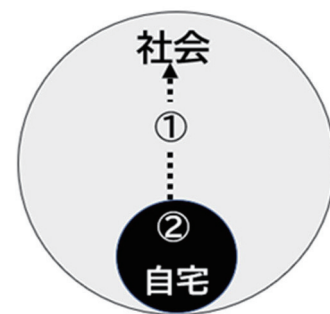


図1. 重度精神障害者に対する訪問作業療法の社会機能改善効果

文献3の結果を引用し、図示した。

社会機能評価尺度の下位尺度「就労」において時間と群の交互作用を認めた。



①これまでの研究… 社会活動の量
②本研究… 自宅内活動の量・主観的価値

図2. 本研究の学術的独自性

2. 研究の目的

本研究は、次の3点を明らかにすることを目的とする。

- ① ひきこもり当事者が1日にどのような自宅内活動を遂行しているかを明らかにする。
- ② ひきこもり当事者が遂行している活動に対する主観的価値を明らかにする。
- ③ 主観的価値が高い活動の遂行時間とひきこもり期間、主観的 QOL との関連を明らかにする。

3. 方法

1) 対象者

ひきこもり支援団体、居場所支援団体、ひきこもり外来を有するメンタルクリニックの利用者、親の会参加者に研究協力を依頼し、包含基準に該当する者をリクルートする。包含基準と除外基準は以下の通りとする。

① 包含基準

ひきこもりの診断評価基準⁶⁾の Stage1-3 に該当する 18 歳以上の者。

② 除外基準

対象者に関わる支援者の合議により、研究依頼によって支援関係の維持が困難になると判断された者。

2) 解析

対象者の心理的負担感を低減する目的で必要最小限の尺度を用いてアセスメントし、統計学的に解析する。測定する尺度は以下の通りである。

- ① **Occupational Questionnaire** : 24 時間に実施した活動を対象者が記載し、活動ごとの主観的価値を 5 件法で自己評価する自記式質問紙である。
- ② **WHO/QOL26** : 身体的、心理的、社会的関係、環境の 4 領域 24 項目と、全体的 QOL の 2 項目から構成された自記式評価尺度である。

4. 進捗状況

本研究は3年計画で進めており、2025 年度が最終年度となる。2024 年度中に京都府下の8か所のひきこもり支援関連団体および親の会の協力が得られ、当事者 92 人が紹介された。包含基準を満たさなかった者(n=7)、参加拒否 (n=9)、尺度記載不備 (追跡不能) (n=2) を除く 74 人を解析対象とする予定である。

解析予定者 (n=74) の平均年齢は 37.2 ± 13.2 歳で、ひきこもり年数は平均 8.3 ± 7.1 年であった。約 25% の者に中退歴があり、約 10% の者の最終学歴は中学校卒業であった。以上から、解析対象者は若年期から社会適応の困難さを抱えていたことやひきこもり生活が長期化していることが示唆された。

こうした背景を持つ人々が、どのような活動を遂行して生活しているのか、作業療法がひきこもりの解消に貢献できる領域はあるか、といった視点から解析を進めたい。

5. おわりに

本研究の計画立案時には、ひきこもり当事者と顔を合わせることの難しさから、データ収集が難航することが懸念された。予想に反し、複数のひきこもり支援団体の協力を得ることができ、無事にデータ収集を終えることが出来た。また、複数名のひきこもり当事者から「初めて人の役に立てた気が

する.」「協力を頼まれたことが嬉しかった.」といった声が聞かれた. 研究に協力いただいた皆様に感謝するとともに, 貴重なデータから意義ある結果を報告できるように尽力したい.

6. 文献

- 1) 内閣府: こども・若者の意識と生活に関する調査(令和4年度). 2023.
<https://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/12927443/www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/ishiki/r04/pdf-index.html> (2024.12.17. 参照)
- 2) 真下いずみ, 山下祐司, 松元雄太: ひきこもり. 臨床作業療法 NOVA 21(4), 80-85, 2024.
- 3) Izumi Mashimo, Kayano Yotsumoto, Hirokazu Fujimoto, Takeshi Hashimoto: Effects of Home-visit Occupational Therapy Using a Management Tool for Daily Life Performance on Severe Mental Illness: A Multicenter Randomized Controlled Trial. Kobe Journal of Medical Sciences 66(4), E119-E128, 2020.
- 4) 真下いずみ: 緘黙症状を呈する長期ひきこもり事例の発語と社会参加に作業療法が有効であった一例 40(1), 79-86, 2021.
- 5) 特定非営利活動法人 KHJ 全国ひきこもり家族会連合会: ひきこもりの実態に関するアンケート調査報告書～本人調査・家族調査・連携調査～. 78-90, 2019.
<https://www.khj-h.com/wp/wp-content/uploads/2019/04/KHJ2018Sakai.pdf> (2024.12.30. 参照)
- 6) Takahiro A. Kato, Shigenobu Kanba, Alan R. Teo: Hikikomori: Multidimensional understanding, assessment, and future international perspectives. Psychiatry and Clinical Neurosciences 73(8): 427-440, 2019.

「内耳における血管新生と低酸素応答についての検討」

臨床工学科 田浦晶子

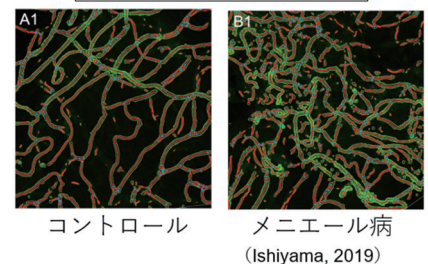
本研究は、2017 年-2022 年に文科省研究科目「基盤研究（C）」の助成を受けて行われた研究に関連したもので、理学療法学科 山田義博教授との共同研究についてご報告します。

【背景】

内耳障害の一因として、血流循環障害が挙げられ、循環改善剤が内耳障害治療として有用との報告がある。また近年、中枢神経において血管新生が機能回復療法の治療ターゲットになりうる事が指摘され、内耳障害においても血管新生の関与の可能性が示唆されているが、その詳細については未だ明らかではない。

LIM-only protein 2 (LMO2) はヒト T 細胞リンパ性白血病に伴う染色体転座によって活性化される遺伝子で、この産物の転写因子は胎生期における造血の開始、血管系の構築 (embryonic angiogenesis) に必要な蛋白であることが明らかにされた。Lmo2 転写因子複合体のメンバーの LYL1 を全身に過剰発現させたトランスジェニックマウス (TG マウス) も、血管新生への関与が指摘され、血管伸長に障害があることが報告されている[1]が、内耳における詳細は明らかにされていない。この TG マウスを用いて、内耳形態についての詳細を検討したところ、内耳においても血管分布様式が正常と異なることが示唆された。一般的に耳科領域での臨床においてしばしば遭遇する、難聴とめまい発作を繰り返すメニエール病の一部では耳石器の血管分布様式に異常を来す(図 1)ことについても報告されている[2]ため、内耳組織における血管分布について血管新生との関連を研究することは、メニエール病のような難治性内耳障害の原因解明及び新規治療法開発のためにも、非常に重要な研究課題の一つである。

(図1) 卵形囊血管分布



【研究方法】

①TG マウス耳石器の血管分布様式の検討

マウスの卵形囊を採取し、間葉組織の血管分布を CD31 抗体による免疫組織染色にて観察した。

②低酸素負荷実験

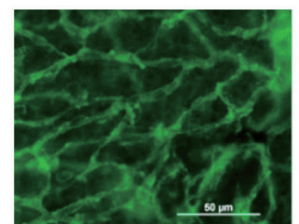
低酸素環境を作成するため、Deferoxamine (DFX) 及び BIONIX 低酸素培養キットを用いた。固定後、卵形囊感覚毛を染色し、通常培養と比較検討した。

【結果とまとめ】

卵形囊の間葉組織の血管分布は、図 2 のように観察された。TG マウスではワイルドタイプ (WT) マウスと比較して、分布様式が異なっているように思われた。

また、コントロール群では、WT マウス及び TG マウスの卵形囊では共に、phalloidin 抗体による感覚毛染色にて感覚毛が観察できたが、低酸素培養群では WT 及び TG マウスでは、感覚毛が軽度の減少を認めた。減少の程度が、両者において異なる傾向が見られたが、サンプル数が少ないこともあるため、更なる検証が必要であると思われた。

図 2



本研究は藍野大学中央研究室によって承認されている（承認番号：第 2022-6 号）

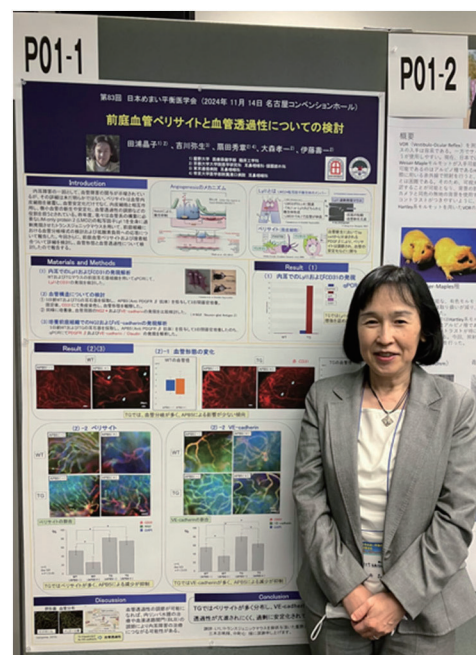
参考文献 _

1) Yoshihiro Yamada, Yi Zhong, Shiho Miki, Akiko Taura, Terence H. Rabbitts. The transcription factor complex LMO2/TAL1 regulates branching and endothelial cell migration in sprouting angiogenesis. Scientific Reports 12(1). 7226-7226. 2022.

2) Gail Ishiyama, Ivan A. Lopez, Dora Acuna, Akira Ishiyama. Investigations of the Microvasculature of the Human Macula Utricle in Meniere's Disease. Front Cell Neurosci.vol.13.445. 2019.

利益相反に該当する事項はありません。

なお、この成果については、第 83 回日本めまい平衡医学会(2024 年 11 月 14 日)にてポスター発表を行いました（下記写真）。多くの先生方と活発に discussion することが出来、大変有意義なものとなりました。



高齢者の呼吸筋力に対する水中歩行の持続効果

Sustained Effects of Underwater Walking on Respiratory Muscle Strength of the Elderly

理学療法学科 山科吉弘

令和 6 年度藍野大学優秀研究賞に本研究を選んでいただき、誠に感謝申し上げます。本研究は、理学療法学科の熊部翔助教および畿央大学の田平一行教授と共同で実施し、*J. Balneol. Climatol. Phys. Med.*に掲載されました。今回は研究内容の一部をご紹介します。

1. 研究背景

呼吸筋力の低下は、気道分泌物の除去能力の低下を招き、術後や長期臥床後の無気肺や肺炎のリスクを高める重要な臨床的課題である。また、横隔膜や肋間筋の疲労は、息切れや運動耐容能の低下を引き起こし、高齢者の生活の質に影響を及ぼすとされている¹⁾。さらに加齢に伴う肺弾性の低下や胸郭構造の変化が呼吸筋力や活動量の低下をさらに促進すること²⁾が報告されている。肺炎や誤嚥性肺炎は日本において主要な死因であり、これらを防ぐためには呼吸筋力や呼吸機能の維持・改善が不可欠である。

我々は、水中運動は浮力や水の粘性・圧力を利用し、安全に筋力を強化できるため、健康増進に効果的とされていることから、水中運動で呼吸筋力が高められる可能性について研究してきた。若年者を対象とした研究では、水位が第 4 肋間を超えると呼吸筋への負荷が増し³⁾、さらに 6 週間以上の水中歩行で呼吸筋力が向上する⁴⁾ことを確認しているが、高齢者に対する効果ならびに持続効果については未検証であった。

そこで、本研究では、6 週間の水中ウォーキングが高齢者の呼吸筋力に及ぼす影響とその持続的な効果を調査することを目的とした。

2. 方法

参加者および除外基準

65～80 歳の運動習慣のない健康な高齢男性を対象に募集した。水着が呼吸筋に与える影響を考慮し、参加者全員にパンツ型水着のみを着用させ、上半身は水着なしで水中運動を行った。また、水恐怖症、呼吸器や心血管疾患の既往、高血圧（安静時血圧 140/90mmHg 以上）、肥満（BMI $\geq$ 30kg/m²）、糖尿病、喫煙習慣がある者は除外し、最終的に 43 名を対象とした。

実験プロトコル

参加者は、高齢男性 43 名（年齢 68.6 $\pm$ 3.4 歳）とし、ランダムに水中歩行の継続群（21 名）と非継続群（22 名）に分けた。まず、両群ともに 6 週間の水中歩行を実施し、その後 6 週間は、継続群は同じ水中歩行を継続し、非継続群は日常生活以外の特別な運動を禁止した。水中歩行は、第 4 肋間以上の水深にて運動強度は予測最大心拍数の 60%になるように歩行速度を調節し、30 分間歩行を週に 4 回実施するものとした。測定項目は吸気筋力（PI_{max}）・呼気筋力（PE_{max}）・肺活量（VC）とし、運動前・6 週後・8 週後・10 週後・12 週後に測定した。

3. 結果（引用文献 5 より一部抜粋）：

（6 週間の水中歩行プログラムの効果）

両群において、PI_{max} および PE_{max} は運動前と比較し 6 週間後に有意な上昇を示した。

Respiratory muscle strength in the continuous and non-continuous groups in pre-exercise and after 6 weeks

of underwater walking

	Continuous group	Non-continuous group
PI _{max} (cmH ₂ O)		
Pre-exercise	65.5 ± 10.7	62.2 ± 10.3
After underwater walking for 6 weeks	72.2 ± 8.9*	69.1 ± 9.7*
PE _{max} (cmH ₂ O)		
Pre-exercise	72.1 ± 10.5	72.4 ± 8.5
After underwater walking for 6 weeks	83.4 ± 12.3*	82.9 ± 11.1*
VC (L)		
Pre-exercise	2.98 ± 0.4	2.97 ± 0.4
After underwater walking for 6 weeks	3.06 ± 0.5	3.05 ± 0.5

Data are presented as means ± standard deviations.

Abbreviations: PI_{max}, maximal inspiratory pressure; PE_{max}, maximal expiratory pressure; VC, vital capacity

*p < 0.05 vs. pre-exercise values

(水中歩行の持続効果)

継続群は 12 週目で PE_{max} が 6 週目と比較し有意に上昇したが、PI_{max} の有意な上昇は見られなかった。非継続群では 6 週目と比較して PE_{max} が 10 週目に有意に低下し、さらに継続群より有意に低い値を示した。PI_{max} も 6 週目と比較して 12 週目に有意な低下を示した。VC に関しては両群で運動前と比較して有意差はなく、6 週目以降も変化は認められなかった。

Comparison of respiratory muscle strength between the continuous and non-continuous groups after 6 weeks of underwater walking

Rate of change (%)	6 weeks	8 weeks	10 weeks	12 weeks
PI _{max} (cmH ₂ O)				
Continuous group	72.2 ± 8.9	70.4 ± 9.7	70.2 ± 9.9	71.3 ± 9.4
Non-continuous group	69.1 ± 9.7	66.0 ± 9.9	65.7 ± 10.2	64.3 ± 11.5*
Rate of change in PI _{max} (%)				
Continuous group	0	-2.5 ± 4.9	-2.8 ± 3.7	-1.2 ± 3.1
Non-continuous group	0	-4.4 ± 7.7	-4.9 ± 7.6	-7.1 ± 8.2 *
PE _{max} (cmH ₂ O)				
Continuous group	83.4 ± 12.3	82.1 ± 11.7	86.1 ± 13.1	86.6 ± 12.8*
Non-continuous group	82.9 ± 11.1	79.9 ± 10.7	78.2 ± 9.8**	78.8 ± 9.5**
Rate of change in PE _{max} (%)				
Continuous group	0	-1.4 ± 4.6	3.2 ± 3.3	3.8 ± 3.4*
Non-continuous group	0	-3.4 ± 4.5	-5.3 ± 6.5**	-4.5 ± 7.0**
VC (L)				
Continuous group	3.06 ± 0.3	3.14 ± 0.5	3.01 ± 0.4	3.10 ± 0.4
Non-continuous group	3.05 ± 0.5	3.00 ± 0.5	2.97 ± 0.4	3.02 ± 0.5
Rate of change in VC (%)				
Continuous group	0	2.5 ± 9.1	-1.6 ± 5.2	1.5 ± 6.7
Non-continuous group	0	-1.3 ± 9.4	-2.5 ± 5.1	-0.9 ± 9.7

Data are presented as means ± standard deviations. Baseline refers to the values after 6 weeks of underwater walking. *p < 0.05 vs. baseline values; **p < 0.05 vs. non-continuous group

4. 考察およびまとめ

6 週間の水中歩行を行うことにより、高齢者の呼吸筋力が顕著に向上することが確認された。この結果から、第 4 肋間以上の水深で、予測最大心拍数の 60%に相当する負荷での水中歩行が、高齢者の呼吸筋力を改善するために適した負荷条件であることが示唆された。水中では水压に逆らって前進するため、特に呼気筋である腹筋群の活動が重要であり、腹筋群が効果的に鍛えられることで呼気筋力が増強されることが考えられる。

また、継続的に水中歩行を行った群では、6 週目以降も呼気筋力の向上が継続する傾向が見られ、これは呼吸筋力の維持とさらなる改善に寄与したと考えられる。一方で、プログラムを中断した非継続群では、プログラム終了後 4～6 週間の間に呼吸筋力が低下する傾向が示唆された。このことから、高齢者において呼吸筋力を効果的に維持・向上させるためには、運動を継続することが極めて重要であり、水中歩行のような負荷条件の運動が適切であると考えられる。

本研究結果は、呼吸筋力を支えるための持続的な運動プログラムの必要性を改めて示しており、今後の高齢者の運動介入においても重要な指針となり得るものである。

5. 謝辞

本研究のデータ収集および分析にあたり、多大なるご協力を賜りました理学療法学科の教員の皆様、ならびに本研究にご参加いただきました参加者の皆様に心より深く御礼申し上げます。教員の皆様には、データ収集や分析手法について貴重なご助言をいただき、研究の進行を支えていただきました。また、参加者の皆様には研究へのご理解とご協力を賜り、多大なる貢献をいただきましたこと、心より感謝いたします。さらに、本研究の実施にあたり、科学研究費補助金（KAKENHI: 22K17528）の支援をいただきました。資金面での支援がなければ本研究を完遂することは困難であったと考えており、その支援に深く感謝いたします。本研究が得られた成果が、今後の予防理学療法学および高齢者の健康増進に貢献できることを願っております。

6. 引用文献

- 1) Smith K, Cook D, Guyatt GH, et al: Respiratory muscle training in chronic airflow limitation: a meta-analysis. Am Rev Respir Dis 1992; 145(3):533-539.
- 2) Janssens JP, Krause KH. Pneumonia in the very old. Lancet Infect Dis 2004; 4 (2):112-124.
- 3) Yamashina Y, Yokoyama H, Naghavi N et al: Treadmill walking in water induces greater respiratory muscle fatigue than treadmill walking on land in healthy young men. J Physiol Sci 2016; 66(3):257-264.
- 4) Yamashina Y, Aoyama H, Hori H et al: Effect of walking in water for 6 weeks on respiratory muscle strength. Archives of physical health and sports medicine 2018; 1(2):15-19.
- 5) Yamashina Y, Kumabe S, Tabira K. Sustained Effects of Underwater Walking on Respiratory Muscle Strength of the Elderly. J. Balneol. Climatol. Phys. Med 2024; 87(2):66-72.

送・脱血流量が静脈リザーバ内薬液濃度変化に与える影響

臨床工学科 郡慎平

本研究は、松田幸樹氏（2023 年藍野大学卒業）、畑中由佳講師、畑中晃先生（京都岡本記念病院）と共同で実施されており、2024 年に藍野大学優秀研究賞を受賞した。研究内容は *Journal of Biorheology*, Vol.37, No.2 に 2023 年に掲載されており、その一部を報告する。

概 要

本研究では静脈リザーバ内へ投与された薬液が患者へ送液されるとき、血液ポンプ流量により薬液濃度がどのように変化するかを調べるために、質量保存則を元に単純理論モデルを作成し、実験的に薬液濃度の測定を行った。実験の結果、カリウムイオン濃度は時間経過に伴い一次遅れで変化し、これは理論モデルに則した結果であった。このとき、薬液濃度の収束時間は血液ポンプ流量を増加させるとともに低下した。また、流出液の濃度は、流入液とほぼ同値に収束し、原液濃度との比は 0.1%～1% のオーダーになることがわかった。

1. はじめに

体外循環装置（図 1）に組み込まれる静脈リザーバでは、血液の貯蔵と、手術中に必要となる薬液の注入がなされることから、液面の安定性、気泡捕捉性、攪拌性、血液貯血量の視認性などの性能が求められ、様々な研究がなされている。

人工心肺による体外循環中は患者の状態に合わせて、静脈リザーバの投薬ポートから薬剤投与を行う。術時の状況により送血流量を調整されることがあり、このとき静脈リザーバ内での薬液の混ざり方に違いが現れ、患者に送られる薬液濃度が変化すると考えられる。本研究では人工心肺回路の血液ポンプ流量の違いが、静脈リザーバ内での薬液濃度変化にどのような影響を及ぼすかを実験的に調べた。

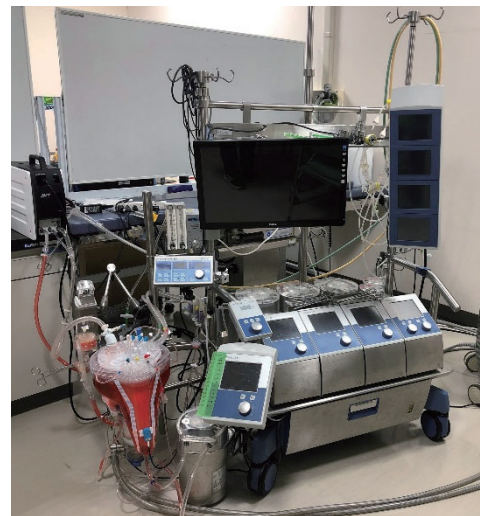


図 1 人工心肺装置

2. 解析モデル

解析では、静脈リザーバ上流と下流並びにリザーバ内部に残留する薬液濃度に関する質量保存則を元に、単純モデルを作成した。

リザーバへ流入する薬液濃度を $G \text{ kg/m}^3$ 、流出液の薬液濃度を $C \text{ kg/m}^3$ とする。また脱血・送血流量を $Q \text{ m}^3/\text{s}$ 、リザーバ内の水の体積（液面レベル）を $V \text{ m}^3$ 、そして経過

時間を t_s とする (図 2)。モデルにおいて、リザーバ内に薬液が瞬時に分散することを前提とするが、実現象においては、リザーバの液体の一部にのみ分散することが予想されるため、その割合を α として、有効体積 αV を導入した。質量保存則を基に、次式(1)の微分方程式が得られる。

$$\alpha V \frac{dC}{dt} = (C_i - C)Q \quad (1)$$

2-1 静脈リザーバへの薬液注入開始時

薬液注入開始時に、静脈リザーバ内には薬液が存在しないものとして、式(1)を、 $t = 0$ のとき、 $C = 0$ の初期条件で解くと、リザーバから流出する薬液濃度は式(2)で表される。

$$C = C_i \left(1 - e^{-\frac{Q}{\alpha V} t} \right) \quad (2)$$

式(2)から、本モデルにおいて、リザーバ内に一定の薬液が注入されたとき、リザーバから流出する濃度の変化は一次遅れとなることがわかった。その時定数 τ は、次式で表される。

$$\tau = \frac{\alpha V}{Q} \quad (3)$$

2-2 静脈リザーバへの薬液注入終了時

薬液注入時において、静脈リザーバからの流出液薬液濃度が C_c に収束していた場合、注入終了後からの流出液濃度の変化は、 C_c を初期濃度として式(4)のように 1 次遅れで表される。このとき時定数は、式(3)と同様に表される。

$$C = C_c e^{-\frac{Q}{\alpha V} t} \quad (4)$$

3. 実験装置・方法

図 3 に、本研究で用いた人工心肺回路を示す。なお、本研究では静脈リザーバ内の濃度拡散の特性に着目するため、人工肺および熱交換器は使用しなかった。

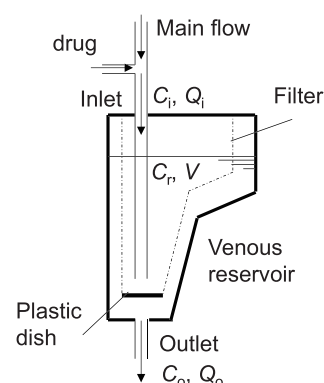


図 2 解析モデル簡略図

作動流体には水道水を用いた蛇口から繋がれたチューブにより、水道水はリザーバタンクに溜められ、遠心ポンプによって静脈リザーバ (Maquet_VHK71000) へ送液される。送液流量の測定はロータメーター、グローブバルブで行った。静脈リザーバへ送液された水道水は遠心ポンプによって送液され、電気伝導度計 (HORIBA, LAQVA_WQ-300, WQ-300) を通過して排液される。本研究で薬液には塩化カリウム水溶液を用いた。実験ではカリウムの電気伝導度を測定しておりこれをもとにカリウムイオン (以後、 K^+ と表記) 濃度 C mg/L を算出した。薬液投与は、脱血管に三方活栓を接続し、シリンジポンプにより行った。薬液 (50 mL) は脱血管から静脈リザーバ内へ 1200 mL/h で流入し、静脈リザーバ内部のフィルタを通過する。実験では、静脈リザーバへの送血・脱血流量をパラメータに取り、流量を 1 ～6 L/min まで 1 L/min 間隔で変化させた。各実験で静脈リザーバレベルを 500 mL に統一した。薬液に用いる塩化カリウムイオン濃度を 39.1 g/L とした。

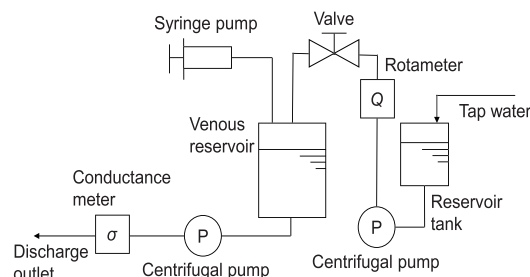


図3 人工心肺回路概略図

4. 実験結果と考察

リザーバから流出される流体の K^+ 濃度の時間変化の一例として $Q = 1$ L/min での結果を図4に示す。図から薬液注入時 ($0 \leq t \leq 150$ s) は静脈リザーバからの流出濃度は一次遅れで増加する様子が確認され、また、薬液注入終了後もまた、薬液濃度は一次遅れで減少する様子が確認された。

表1に、それぞれの流量における収束値並びに薬液原液濃度 C_0 を元にした濃度比を示す。また、図5に流量と濃度比の関係を示す。

図5から、薬液の原液濃度を元にした濃度比 C_c/C_0 は流量の増加に伴って、低下することがわかった。また、本実験条件から、濃度比は0.1%から1%のオーダーとなることがわかり、手術中では、薬液の濃度は1/1000から1/100程度に薄められて体内に送られることがわかった。濃度比は、次式のように理論的に示される。

$$\frac{C_c}{C_0} = \frac{Q_0}{Q_0 + Q} \quad (5)$$

式(5)を理論式として、図5に示したところ、理論式は実験結果とよく一致しており、流

表1 K^+ 濃度収束値と濃度比

Q L/min	C_c mg/L	C_c / C_0 %
1	748	1.91
2	370	0.95
3	246	0.63
4	188	0.48
5	169	0.43
6	139	0.35

出 K^+ 濃度は理論的に予測できることがわかった。

図 6, 7 に、薬液注入開始並びに終了後の K^+ 濃度変化に関する時定数と流量の関係を示す。注入開始後と注入終了後において、時定数は流量増加に伴い減少することがわか

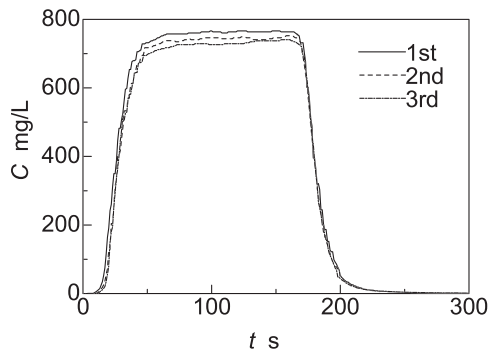


図 4 $Q = 1 \text{ L/min}$ における K^+ 濃度変化

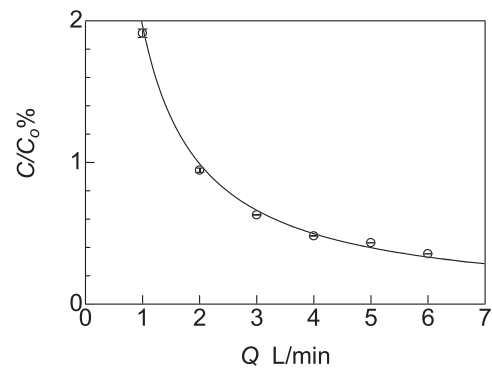


図 5 原液濃度比 C_c / C_0

り、その傾向は式(3)に示す反比例に近いことがわかった。本実験では、各流量条件において、およそ 10 秒以内に時定数は収まっていたことから、薬液が人体にほぼ一定濃度で送られるには、注入開始後から十数秒から数十秒の時間を要することがわかった。

以上の結果から、静脈リザーバに脱血管を通して薬液を注入した場合における、リザーバからの薬液流出濃度の時間変化を単純モデルで表すことができ、薬液攪拌能力の指標として時定数を用いることができることがわかった。

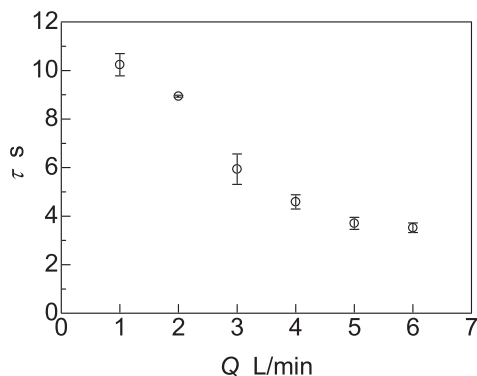


図 6 時定数 (薬液注入開始後)

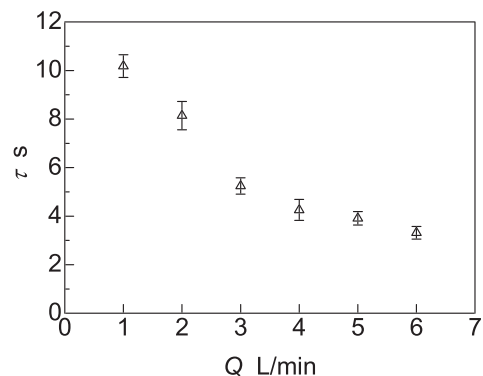


図 7 時定数 (薬液流入終了後)

5. おわりに

本研究では、静脈リザーバ内に注入される薬液の拡がりに関して、濃度を元に単純モデルを作成し、実験的に薬液濃度の時間変化を調べた。血液ポンプ流量を $1 \sim 6 \text{ L/min}$ の間で変化させたときの、静脈リザーバから流出する薬液濃度の時間変化を求めた。その結果、流量に関わらず、濃度変化は一次遅れで表され、その時定数は数秒から十秒程度であった。また、静脈リザーバからの流出濃度は、原液濃度を元にとると $1/1000 \sim$

1/100 に薄められ、原液に比べて非常に希釈されて患者体内に送液されることがわかった。

謝辞

本研究は、松田幸樹氏（2023 年藍野大学卒業）、畑中由佳先生（藍野大学臨床工学科）、畑中晃先生（京都岡本記念病院）と共同で実施された。ここに謝意を記す。

参考文献に関しては割愛する。

本研究の全容は、下記 URL にて公開されている。

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jbr/37/2/37_83/_pdf

「うつ病群と無気力群における脳波を用いた脳機能ネットワーク解析による 媒介中心性の比較」

臨床工学科 山本祐輔

本研究は、兵庫県立大学大学院情報科学研究科の水野（松本）由子教授との共同研究についてご報告します。

【背景】

現代社会は、「ストレス社会」ともいわれており、令和2年の「労働安全衛生調査」において、強い不安やストレスを感じている労働者の割合は54.2%にも上っている。心身の健康を増進するため、今まで様々な方向から対策が行われてきた。近年の厚生労働省委託事業の一つである「こころの目」は、ストレスチェックやeラーニングなどのコンテンツを提供することで働く人が自分自身のストレスの状態を正確に理解できるような取り組みを行っている。しかし、現在の取り組みは主観評価に頼ることが多い。ストレス状態の認知は、患者自身でも難しく「疲れがたまっているから」「怠け病」などと病気であることを認識しない、或いは否認する傾向があり、発見が遅れ中等度以上のうつ病に進展して初めて精神科を訪れる事例も少なくない。

脳科学は、昔は個々の領域の特徴を比較した研究が多く行われていたが、近年は脳が巨大な神経細胞のネットワークと考えられる点から、部位間のつながりに注目した機能的接続性に関する研究が行われている。しかし、研究の多くは疾患患者と健常者を比較した研究である。我々はこれまでの研究で、精神状態が異なる健常成人の脳波が異なった活動性を有していることがわかった。この知見から、ネットワーク解析を行うことで精神状態をより客観的かつ定量的に把握することが可能となり、精神疾患を未然に防ぐ効果が期待できると考えた。

そこで本研究では、うつ病患者と精神状態が異なる健常成人を対象として、脳波により脳内ネットワークを推定しグラフ理論に基づきネットワーク指標の1つである媒介中心性を調べることにした。

【研究方法】

1. 実験方法

被験者は、うつ病と診断された患者16名、健常成人20名とした。健常成人は心理検査として心理的ストレス反応尺度を用いて、うつ病の基本症状である「無気力」の段階評価が、2以下の健常成人を健常群、3以上の健常成人を高無気力群に被験者分類を行い、本研究では、うつ病患者のうつ病群と高無気力群、健常群の3群で比較を行った。

被験者は、座位により安静閉眼時脳波を測定した。脳波計測は、国際電極配置法に基づき19電極を配置し行った。サンプリング周波数500 Hz、両耳の電位を平均した平均電位を基準電極として導出し、電極インピーダンスは10 k Ω 以下とした。

2. 脳波解析

脳波解析は、1区間4.096 secとし想起閉眼時脳波で筋電位や眼球運動の影響を強く受けている区間を除去した35区間(0-143.36 sec)について、alpha帯域の脳波に対してコヒーレンス解析およびグラフ理論解析を行った。

本研究で用いた脳機能ネットワーク解析の手順を図1に示す。まず、本研究ではコヒーレンス解析により電極間の相関値を求め、これをエッジとした。また、特定のネットワークでの比較は偽陽性である

可能性があるため、幅広い閾値でネットワーク指標を算出し平均化して比較する必要がある。本研究では、コヒーレンス値の上位 10%から 30%まで 1 %刻みで電極毎の媒介中心性を算出し平均化しコンターマップにより可視化した。

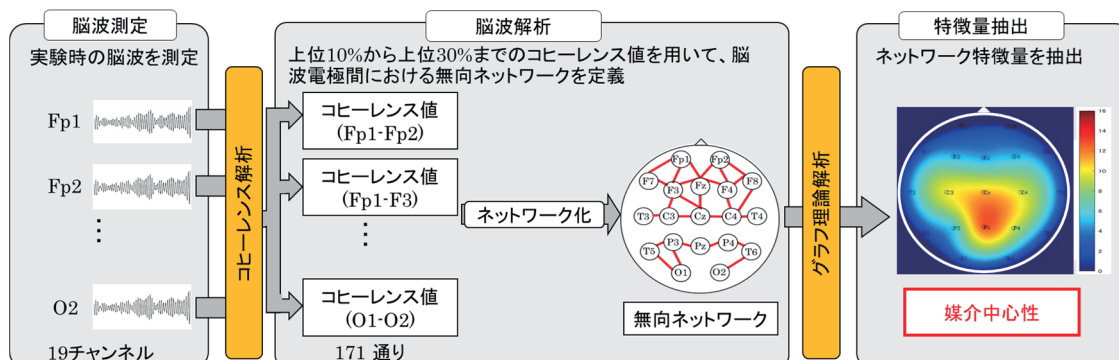


図 1

【結果と考察】

媒介中心性の比較結果を図 2 に示す。全帯域において、うつ病群は、高無気力群および健常群よりも脳全体の媒介中心性が低値を示した。媒介中心性は情報伝達の媒介的な役割の度合いを表す指標である。つまり、健常成人と比較して媒介中心性が低いうつ病患者の脳機能ネットワークはハブとなっている部位がなく経路が無秩序な構造であることを示唆している。

また、theta 帯域および beta 帯域において、高無気力群は、健常群よりも特に C3, C4 の媒介中心性が低値を示した。うつ病の脳機能ネットワークを調べた研究で、前帯状皮質活性の異常がうつ病患者の機能的接続性の欠如に関係していることが報告されている。また、前帯状皮質活性は背外側前頭前皮質（F3, F4, F7, F8, C3, C4）の活動に関連するといわれている。これらのことから、健常成人の中でも無気力症状が高い人は、特に theta 帯域および beta 帯域で背外側前頭前皮質に関連する部位がハブとしての役割が低い構造となっており前帯状皮質活性の異常に関連している可能性が考えられた。

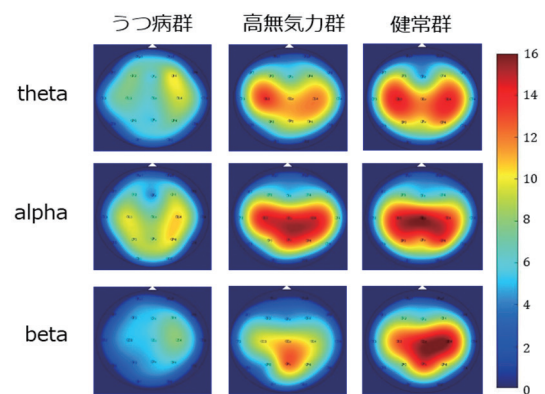
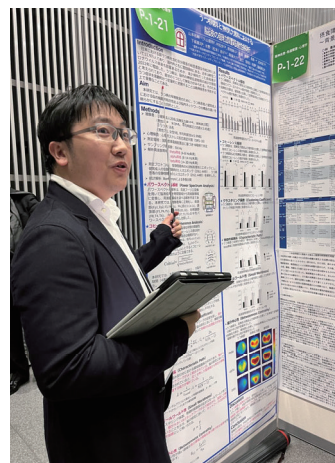


図 2

なお、この成果は、第 54 回日本臨床神経生理学会(2024 年 10 月 24 日－26 日)にてポスター発表を行った結果の一部である。



第 8 回世界災害看護学会 (The 8th International Research Conference of World Society of Disaster Nursing) への参加

看護学科 西上あゆみ 松本晃子 天野美玖 宮岡裕香

1. はじめに

世界災害看護学会は、災害看護に関する国際的な学術交流と共同研究の推進、災害看護の知識と実践の体系化を通じて、人々の健康と福祉に貢献することを目的とした学術団体として日本から 2008 年 1 月に設立された (WSDN ホームページ: <https://wsdnursing.org/>)。第 1 回のカンファレンスは 2009 年 1 月に神戸で開催された。その後、2 年に 1 度のペースでカンファレンスは開催され、第 8 回目のカンファレンスが 2024 年 11 月 30 日～12 月 1 日に神戸で開催されることになり、参加した。この学会は組織メンバーのみで構成される会員制で運営されており、個人会員は取っていない。藍野大学看護学科は、2024 年よりメンバーとして参加することになり、カンファレンス前日の Board meeting にも参加した。現在、ホームページによると日本からの参加が多いが、中国、フィンランドなど 13 か国が参加している。2026 年はマレーシアのクチンにおいて 9 月 16 日～17 日まで開催される予定である。国際学会らしく、メインセッションだけでなく、エクスカーショントニツアーやキックオフパーティ等企画もいろいろあったが、参加できた内容について報告する。

2. WHO 神戸センターでのプレカンファレンス (天野美玖 西上あゆみ)

11 月 29 日はプレカンファレンスとして、13 時から 16 時まで JICA 関西国際センターにおいて WHO 神戸センター (WHO 健康開発総合研究センター) フォーラムが開催された。オンデマンドでの同時開催となった。「災害および緊急事態における健康とレジリエンスの向上: 2030 年以降を見据えた学際的な協力」をメインテーマに、プラネタリーヘルス、スマートシティとヘルスレジリエンス、コミュニティレジリエンスなど看護分野以外の研究者・実践家による講演と災害看護の発展に向けた学際連携についてのパネルディスカッションが行われた。加えて WHO 神戸センターの概要や最近の成果として「災害・健康危機管理の研究手法に関するガイダンス」の紹介があった。

3. Board Meeting (西上あゆみ 松本晃子)

11 月 29 日 17:30 から約 1 時間、ANCHOR KOBE Meeting Room1 (三宮) で組織メンバーの代表者会議が開催された。現在の理事長は兵庫県立大学地域ケア開発研究所 教授の増野園恵先生である。理事長からのあいさつのあとは 2 年に 1 度ということもあり、参加者の自己紹介、組織メンバーの確認が中心で、2026 年マレーシアで行われる第 9 回世界災害看護学会の紹介と第 10 回の主催国を決定した。

4. 11 月 30 日—12 月 1 日 (松本晃子 天野美玖 宮岡裕香 西上あゆみ)

11 月 30 日より 2 日間、学会は神戸市看護大学で開催された。メインテーマは「Rethinking Disaster Nursing in the Changing Risk Landscape — Primary Health Care to Social Innovation for planetary health — (変化するリスク環境における災害看護の再考— 地球と人々の健康のプライマリ・ヘルスケアからソーシャル・イノベーションへ —)」とされた。台湾から 100 名を超える参加者と、フィリピン、インドネシア、ネパール、ドイツ、オーストラリア等の 14 か国、405 名の参加者であったと報告された。プログラムは口演 17 題、ワークショップ 7 題、ポスター 150 題あった。

5. 発表について（天野美玖 松本晃子 西上あゆみ 宮岡裕香）

2 日間にわたり、ポスターセッションにて 2 演題の発表を行った。発表を行ったセッションには、国外からは韓国や台湾などアジア圏の参加者が多かったが、オーストラリアやドイツなどの遠方からの参加もあり、災害看護は世界規模で問題意識の高いテーマであることを実感させるものであった。

昨今の国内での災害看護において、COVID-19 以降はパンデミックに伴う研究課題や、地震や豪雨災害を中心とした自然災害に関するテーマが多くみられる。本学会においても、COVID-19 については世界規模での関心が高く、多くの演題で取りあげられていた。自然災害ではアジア圏で地震が共通してみられた一方で、オセアニアやヨーロッパ諸国では山火事や洪水といった、国土の特徴をとらえたものが多くみられた。また、諸外国からの参加者の中には学部 2 年生の発表が複数あり、学部教育における看護研究指導についても国際的な視野を持つ必要性を感じ、刺激を得ることができた。

1 日目は「Practical Report on the Exchange Meeting Disaster Prevention Literacy for Hospital Nurses at Nursing Academic Societies in Japan」を発表した。この研究は JSPS 科研費 JP21K11068 の助成を受けて実施している。国内で被災地での災害看護の経験がある看護師からのインタビューをもとに抽出した病棟看護師の防災リテラシーに関する項目について、国内の大規模な看護系学会の交流集会等にて、参加者である看護職や研究者による意見を得た調査であった。防災リテラシーは、とりわけ医療・看護の分野においてこれまで扱われる機会が国内外問わず少なく、先駆的な分野であることから、座長からの先行研究についての質問もあり関心の高さが伺えた。

2 日目は 2024 年 2 月から 4 月にかけて、本学の基礎看護学領域で研究した内容を「The Sense of Burden Factors for Japanese Ward Nurses after COVID-19 the Transition to Class V Infectious Diseases」としてポスターセッションにて発表した。日本人も多かったが、台湾の DMAT 隊の方も会場に来られており、座長からも感染症区分変更後の看護師の負担感について非常に興味深く、発表を楽しみにしていたという声もいただき、COVID-19 に対する関心の高さが垣間見えた。発表後質問はなかったが、台湾の方が聞きに来て下さっていたため、台湾での COVID-19 に対する病院の対応について質問をさせていただき、台湾でも同じようにマスクは必須となっているという情報を得ることができた。今回は日本の病棟看護師を対象に調査を行なったため、結果に関しては世界に一般化できる内容ではないが、日本以外の国の現状の一端について知見を得られたことは、国際学会に参加した大きな意義となった。



新1年生に対する学習基盤確立を目指した新しい学習支援の取り組み —看護学科1年生担任の実践報告—

医療保健学部看護学科

真鍋由希、吉川美和子、竹本圭佑、松浦則子、宮岡裕香、横山雛子

1. 取り組みの背景

近年の大学では、学生の学修を支援する取り組みとして、ランチアワーの取り組み(別所,2018)、ラーニング・コモンズの設置(上田ら,2008)、総合学修支援センターの設置(半田,2012)などの工夫を実施してきた。その後も大学生の傾向として、学生の背景や生活領域、生活様式、参加している活動などが多様化し、多数を占める学生の傾向が捉えにくくなっていると言われている(高松ら,2023;大塚,2024)。また、COVID-19の流行を経て社会生活が以前の様式に戻っても抑うつや体調不調を示す学生への継続支援の必要性が指摘されており(土井原ら,2024;和田,2022;古川,2022)、新たなピアサポートの構築(古川,2024)などが試みられている。

看護学科では、学生の学習支援と学生生活の円滑化を目的として、学年担任制が導入されている。学年担任は、面談を通じて履修相談や生活相談などを行い、学生の困りごとに対応してきた。具体的には、出席に関する相談の対応、学生便覧の内容の説明、学習習慣の確立の支援、アルバイトとの時間配分の助言、経済的な問題に対する選択肢の提示などであり、学生が抱える多様な悩みに対して関係部署へ繋ぎアドバイスを行ってきた。しかしながらこのところ、高学年になってから問題が判明する、教員が把握した段階では問題が深刻化している、国家試験対策が本格化したときに学習習慣の不足が表面化するなどの課題が顕在化している。そこで、低学年からの学生支援、学習支援の検討をすることとなった。

2. 取り組みの実際

1) 学生支援

看護学科1年生126名を担任教員6名で21名ずつ担当し、さらに主担任・副担任は63名ずつ副担当する体制を構築した。

(1) 定期全員面談、臨時面談

入学時のガイダンスで担任教員6名を紹介し、自分の担当教員を覚えてもらい、4月中にはじめての定期面談を実施した。面談の主な内容は、通学や生活の状況、本学志望動機や入試・入学までの状況、学生生活、アルバイトの状況、経済状況の困りごと、manaba・aiai・Slack等のツールを使えるかなどで学生1人当たり平均13.4分だった(表1)。

臨時面談は、実力テストの成績が振るわない学生、単位修得数が他学生より著しく少ない学生、必修科目・選択科目で単位不認定となった学生については学年統一の基準に基づいて行い、戒告や譴責が懸念される学生、態度面で懸念のある学生、提出物の内容が不十分になってきている学生については担任教員で情報共有のうえ面談実施の判断をし、必ず教員2名で行った。学生からは、履修登録の相談、身体的なことに関する相談についての面談希望があり、先行研究の相談のきっかけ(槇野,2008)と一致した。「保健師教育課程」「教職課程」を希望する学生の履修登録に関する相談や、授業態度の思わしくない科目については、科目担当教員とも連携を取り丁寧に対応した。臨時面談は、面談時間調整の連絡のやり取りがスムーズではなかったり、学生都合のキャンセルが続くことがあったり、面談実施までに労力を要した。

学籍の異動に係る学生については保護者に来学していただいたの学科長面談を実施し、内容は必修科目の単位取得状況と休学や退学に関することであり、臨時面談の延べ実施回数は 12 回、延べ時間数は 1025 分であった（表 1）。保護者面談では、学生本人は進路変更の希望があっても保護者に伝えていない場合や、意向の擦り合わせが出来ていないこともあった。女子大学生を対象とした調査では母親が期待するライフコースの影響を受けていると報告されており（高松ら,2023）、国家資格取得に向けた学修は本人の意思がなければ厳しいことを申し添えるが、学生が希望を述べない場合は教員にも不全感が残った。また、学生本人が大学に来ることが難しいなどにより対面での面談ができない場合は電話対応対象とし、学生本人の携帯電話への連絡、保護者携帯電話もしくは自宅固定電話への連絡を行った。学籍異動に関わるような電話の場合は、臨機応変な対応ができるようにスピーカーフォンを用いて教員 2 名で行った。実施回数のはべ 41 回、延べ時間は 390 分であった（表 1）。

表 1. 担任教員の面談実施状況（4 月～12 月）

教員	定期面談		臨時面談		保護者面談		電話対応	
	回数 (回)	延べ時間 (分)	回数 (回)	延べ時間 (分)	回数 (回)	延べ時間 (分)	回数 (回)	延べ時間 (分)
A	21	315	14	250	2	210	4	40
B	21	230	11	130	0	0	0	0
C	20	200	14	160	2	120	0	0
D	20	200	9	140	0	0	4	30
E（副担任）	23	500	36	1080	1	200	1	10
F(主担任)	21	250	32	1140	7	495	32	310

(2) スプレッドシートと Slack を活用した情報共有

学生情報を共有するツールとしてスプレッドシートを作成し、面談情報や単位の修得状況、授業の出席状況、学習支援の参加状況などの学生情報を一括管理した。これにより自分の担当学生以外の状況も把握でき、担当教員が不在の時でも必要に応じて学生の情報が分かり、突然の保護者からの連絡等にもスムーズに対応することができた。学生データを一括管理したため、次年度の担任にもスムーズに引き継ぐことができると考える。

また、Slack の「r6 看護学科 1 年生担任」チャンネル活用により、迅速な学生情報の共有や些細な懸念事項の共有を行うことができ、学生を探すときなどにも役立った。病院実習中や自分の担当科目がある日でも隙間時間に学生情報を確認でき、対面会議のように時間が縛られないことは負担軽減につながった。Slack では学生情報の時系列に沿った把握が難しいが、スプレッドシートと併用することで多数のエピソードがある学生の把握もスムーズに行えた。

(3) 担任外の教員や職員等との連携

健康診断欠席者、履修登録不備者、健康手帳不備者、ワクチンガイダンス不参加者、奨学金関連書類不備者の呼び出し、電車遅延時の対応方法の説明などは、必修科目時にその科目を担当している 1 年生担任教員が分担して行った。それにより、他の担任教員が特別に出向くことが割愛でき、負担軽減につながった。

(4) 学習支援グループ員との連携

学生面談の前に担当教員が入学時に提出されている学生情報を確認する、教員から経済的に厳しい学生や家庭の支援の脆弱な学生や学籍異動の書類提出予定の学生の情報を伝えることで、スムーズな連携を行うことができた。また健康懸念のある学生については、保健室担当者や保健管理部と情報共有し連携した対応ができた。特に1年生は入学後の特記事項の把握、諸手続き、ワクチン接種などがあるため、保健室との密な連携が円滑な学生対応に繋がった。

2) 学習支援

(1) 実力テストの実施（4回/年）

看護学科では、2022年度より前期の6月頃に独自の実力テストを行いその成績をもとに学習支援を行ってきた。今年度は、実力テストの回数を増やし継続的に支援することを計画し、夏休み明けに2回目、後期の中ごろに3回目、春休み前に4回目の実力テストを予定した。試験実施については、必修科目、必修選択科目、選択科目が多く、空コマがほとんどないため実施日の選定に苦労した。作問は基礎科目を担当する教員にも協力していただき、4科目にわたる内容から出題し、学生の定期試験の対策に繋がるように工夫した。第1回目は3年間同じ設問で実施し、本年度入学生の平均点は過去2年より高いが成績優秀層もいるが低迷層も40名弱いることが確認された(図1)。4回の実力テストを行ったことで成績をリアルタイムにモニタリングでき、苦手科目の傾向の把握や、成績不振および予備軍の早期発見にも用いることができた。テストのフィードバックは学習支援の時に問題の解説を行ったが、設問ごとの正答率や4回の成績の推移を提示することも今後は検討が必要である。これらは上位層の学習意欲の支援も、下位層の基礎学力支援も必要と考えられた。

(2) 学習支援クラスの実施

2年前より学生の学びを支援する時間として学習支援を行ってきたが、本年度も週1回の定期的な学習支援クラスを実施することになった。一昨年の学習支援は各自が自習したい内容を持参して自己学習し、わからないことについては教員が質問に答えるというスタイルで実施した。しかし、教員から見て参加してほしい学生の参加率が振るわず、自己学習に熱心な学生10名程度が参加し、参加者もほぼ固定されていた。今年度は、実力テストの成績で下位40名程度を「学習支援参加選抜者」として出席確認を行い、他の学生も自由に参加できるようにした。選抜者の選定は実力テストの成績だけでなく、講義や演習の参加状況、提出物の状況、講義の出席状況、面談時の気になる点を加味して担任6名で検討した。担任6名が各担当科目を通して把握している学生情報を共有することにより、より順当な選別につながった。選抜者からは漏れても気になる学生については、担当教員が個別に声掛けをして自主的な参加を促した。学習支援クラスの内容は、前期は第1回実力テストの解説と前期科目「看護学概論」「解剖生理学Ⅰ」「基礎看護学援助論Ⅰ」の復習とし(図2)、後期は第2回実力テストと第3回実力テストの解説、「解剖生理学Ⅱ」「基礎看護学援助論Ⅱ」「公衆衛生看護学議論Ⅰ」「看護倫理」の単元毎の復習、看護師国家試験の計算問題の練習とし(図3)、担任教員が分担して担当し資料を用意して解説を行った。実力テスト同様、開催するコマの確保に苦勞し、後期は全員が受講可能な空コマがなかったため同じ内容の学習支援クラスを2回実施することになった。また、当初は学習支援WGの教員に学習支援の協力を依頼する予定だったが、今年度は担任教員ですべての学習支援クラスを実施した。担任教員で担当するためには、担任が1年生の科目を担当しているかどうかとも重要になると考える。さらに、学習支援クラス時には、学生から相談されることや教員から気になる学生に声をかけることもあり、教員と学生が定期的に会える場、コミュニケーションをとる機会となった。

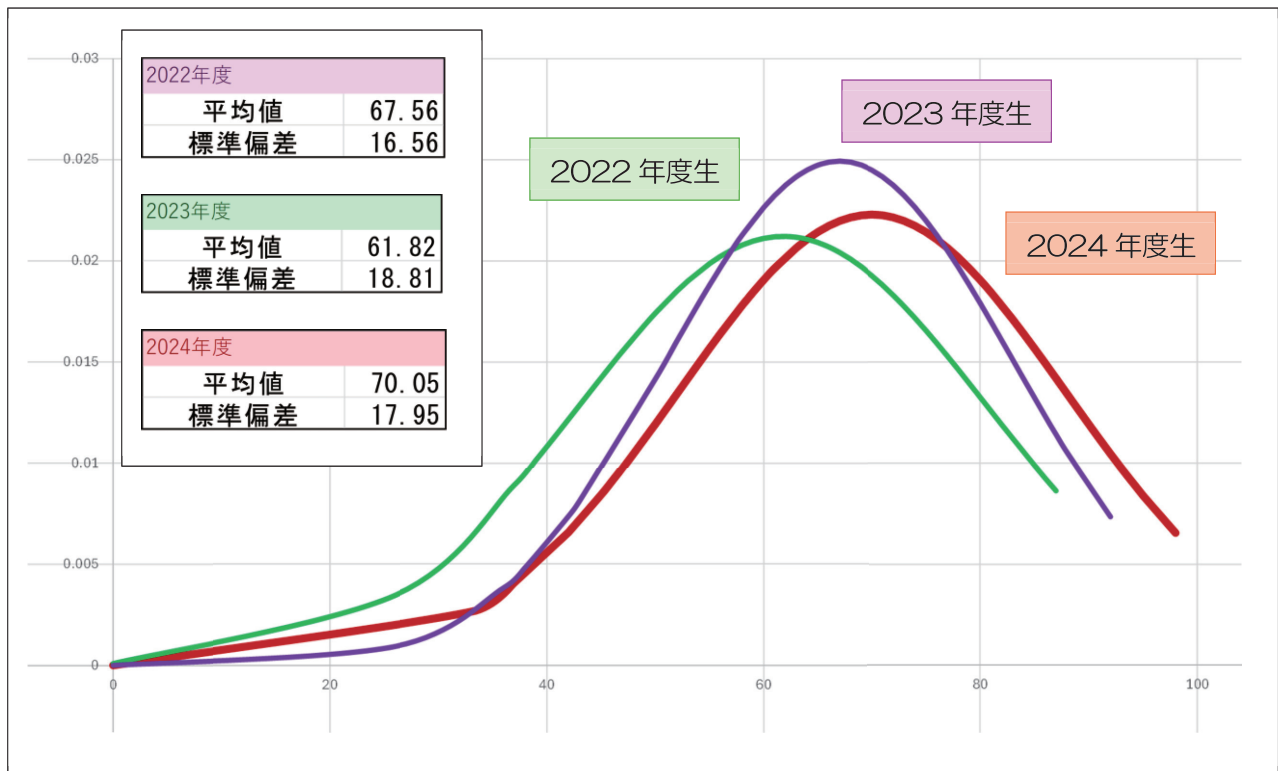
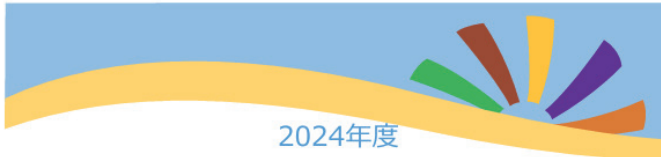


図 1.1 年生実力テスト成績の比較



2024年度 1年生学習支援について

大学に入学されて2か月経ちました。学生生活はいかがですか？
勉強の仕方が分からない、テスト対策の方法が分からない、レポートを書くのが苦手、という方もいるのではないのでしょうか。
社会人になる前の最後の学生生活をより有意義にできるよう、学習の面でサポートする時間のご案内です。

＊ 前期

月曜日2限・C001 (6/17、7/8、7/15、7/22) ・ **A303 (7/29)**

後期

英語ⅡB対象者…木曜日2限・B202 (9/26～) とA303 (11/7～)
英語ⅡA対象者…木曜日4限・B202

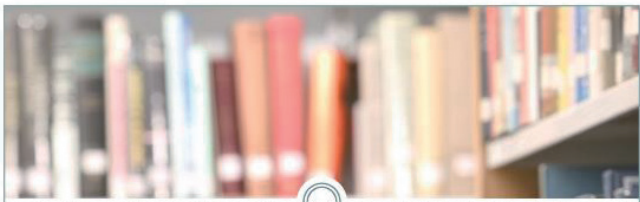
対象者

実力テスト成績低迷者＋参加希望者

- ◆第1回実力テスト：6/10 (月) 2限
- ◆第2回実力テスト：9月の後期ガイダンス頃
- ◆第3回実力テスト：1月頃
- ◆春休み前再テスト：2月頃 (第3回実力テスト成績低迷者対象)

各回の予定 (毎回60分程度)

6/17：第1回実力テストの解説
7/8：「看護学概論」に関連する復習
7/15：「基礎看護学援助論Ⅰ」「解剖生理学Ⅰ」に関連する復習
7/22・7/29：自習 (それぞれ基礎看護学援助論Ⅰの技術試験・定期試験の日です)



1年生後期学習支援について

夏休み明け実力テスト、お疲れさまでした。いよいよ後期の講義が始まります。前期に学習したこと的应用内容になったりより専門的になりますので、計画的に予習・復習していきましょう。

勉強の仕方に困っている、分からないところがある等の場合は、早めに担当教員に質問に行きましょう。また、どのように質問していいかわからない場合は、担任に声をかけてくださって構いません。4階の研究室を訪ねてくれるのですが、不在のこともありますので、manabaの2024年度入学生のコースの個別コレクションで、「〇〇先生アポイントメントのお願い」とタイトルを入れて連絡してください。

＊日時・場所	＊スケジュール
木曜日2限：B202	10/3 第2回実力テストの解説①
11/21～A303	10/10 第2回実力テストの解説②
木曜日4限：B202	10/17 第2回実力テストの解説③
＊対象者	10/24、10/31、11/7、11/14、11/21、 11/28、12/5、12/12、12/19、復習授業
・学習支援参加選抜者 (manabaで連絡のあった人)	1/9 第3回実力テストの解説①
・参加希望者	1/16 第3回実力テストの解説②
	1/23 第3回実力テストの解説③

今後の予定

12/20 (金) 2限 第3回実力テスト (全員)

2月下旬か3月上旬 第4回実力テスト (第3回実力テストの成績低迷者対象)

3. 学生の反応

1) 学生支援

スムーズな学生支援のためには学生が自分の担当教員を把握することが重要であるため、入学時のガイダンスで紹介し、4月中に各担当教員が担任面談を行った。学生への調査では、**94.6%**の学生が自分の担当教員を理解しており（図 4）、「誰に聞いたらよいかわからないというのがなくて、相談しやすくてよい」「一人一人の状況を知りやすくてよいと思う」という意見があった。学生が担当教員を探して声をかけたり、担当教員が不在の場合は「担当は〇〇先生なんだけど」という前置きをしてから学年担任教員に声をかけたりすることが多くみられた。一方で、「先生が多くて覚えられない」「担任の先生と関わる機会がほとんどないので気軽に相談しにくい」「いざという時にどのくらい頼りにしていいのかが分からない」という意見もあり、担任役割や相談する方法のさらなる説明が必要であるとする。学生全員を対象とした面談は、入学時の4月でよかったという意見が**77%**であり（図 5）適切であったが、夏休み後の全局面談があると後期の学習のスタートがスムーズになる効果も期待されるため、検討が必要である。また、担当教員への連絡方法は入学時のガイダンスで **manaba** 個別指導（コレクション）の使い方を説明し、4月の面談の日程調整で教員とメールのやり取りをする練習をし、後期ガイダンスの時にも説明したが、連絡方法を知っていると回答した学生は74名中15名であったことから（図 5）、周知の方法により工夫が必要であるとする。

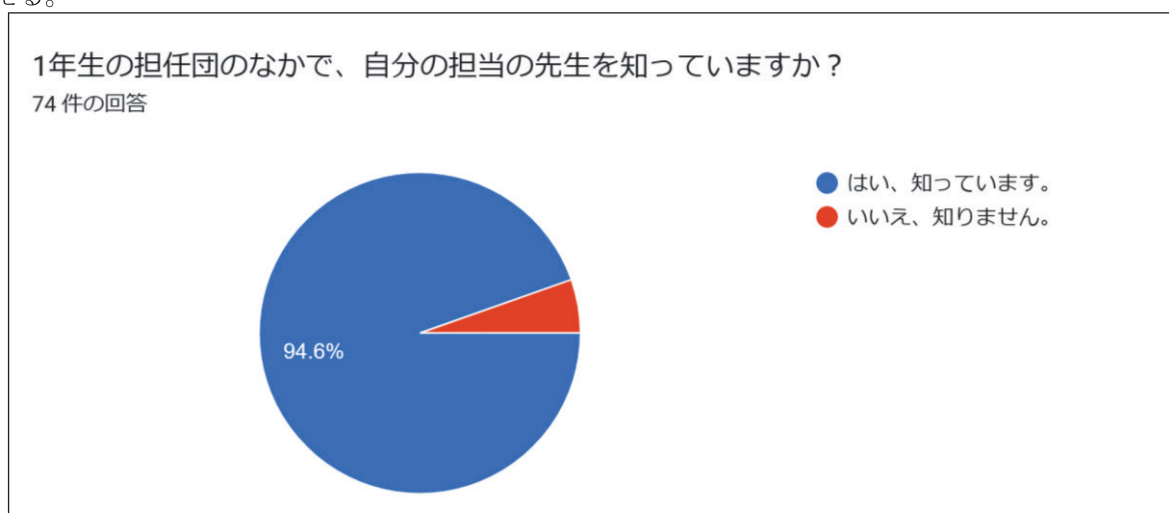


図 4.学生の担当教員把握状況

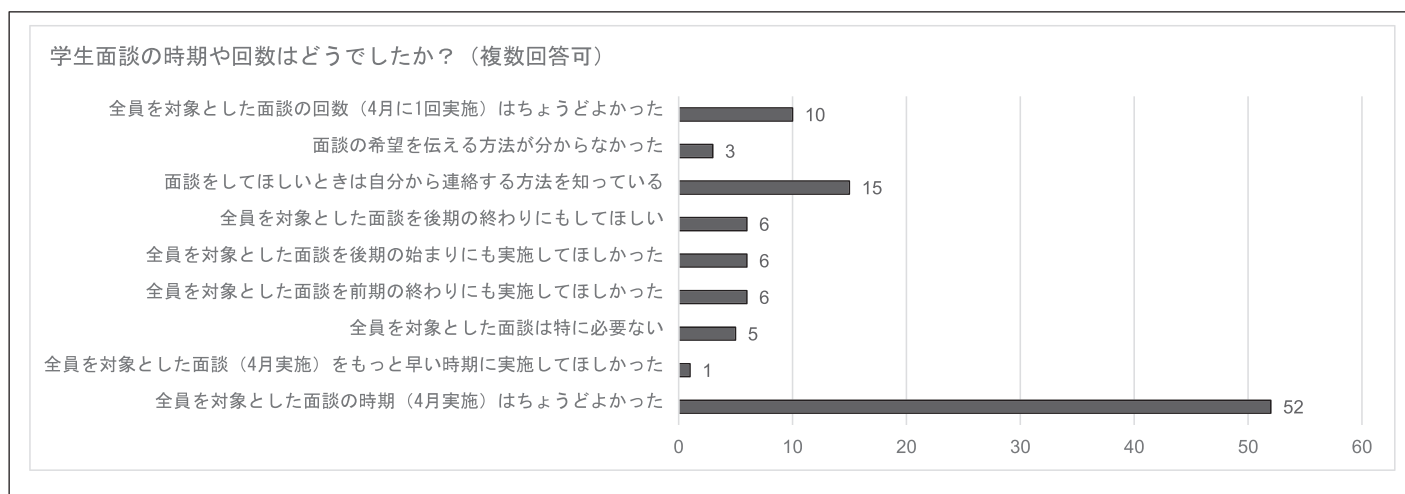


図 5.学生面談の時期や回数に対する学生の考え

2) 学習支援

学習支援クラスに参加したことがある学生は、55.4%であった。今年度は、成績下位層を主なターゲットとしていたなかで、学年の約半数の学生が参加したことがあるという結果から、学習支援が学生に周知されていたと考える。学生の学習支援クラスの出席状況は、実力テストの解説会は多く、学生からは「少ない人数で受けられるのでわかりやすかった」「定期的に復習の機会が設けられていることはよいことだと思う」「中間や期末試験までの間に勉強するきっかけになる」「国試対策のような感じがして助かる」などの意見があった。学習ポイントや復習方法の習得、国家試験を見据えた勉強をすることなど、看護学科の学生としての学習基盤確立には効果があったと考える。好意的な意見の一方で「行くのが面倒くさい」「強制的に呼び出されるのは嫌だった」という意見もあった。学生からは「対策プリントを配ってほしい」「解説だけでなく勉強方法も教えてほしい」「学習支援に参加すると帰る時間が遅くなるので空コマにしてほしい」という意見もあり、今後の検討課題である。学生からは「担任の先生と関わることが少ないから、関わるきっかけがほしい」という意見もあり、今後は学習支援クラスをきっかけの1つとしてもらいたいことをアナウンスに加えることも考えられる。

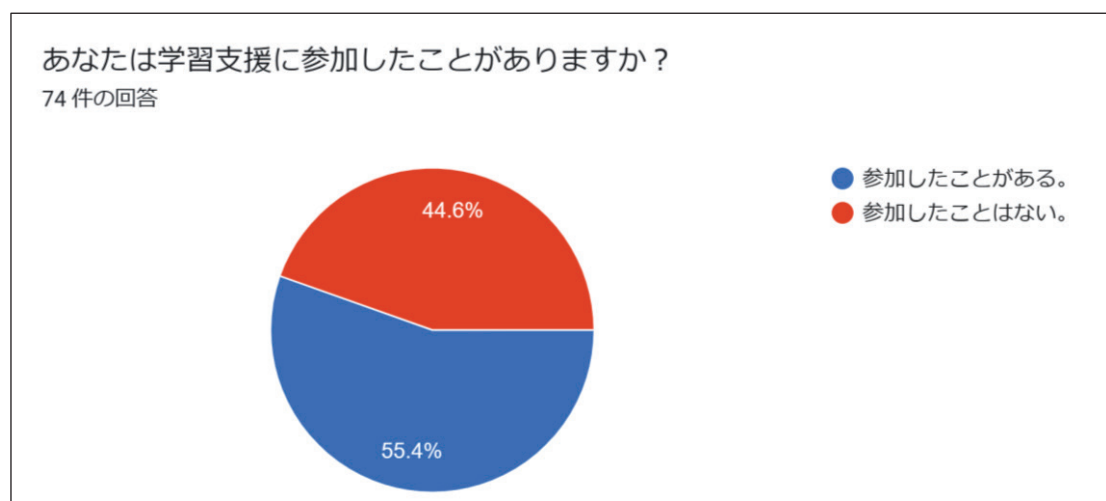


図 6.学生の学習支援参加状況

表 2.前期学習支援クラス参加状況（学習支援参加選抜者：31 名）

	1 回目	2 回目	3 回目
選抜者の出席(名)	30	28	25
自主的な出席(名)	14	9	6
選抜者の出席率(%)	96	90	80

※第 4 回、第 5 回は 4 年生統合実習中のため自習

表 3.後期学習支援クラス参加状況（学習支援参加選抜者：48 名）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
選抜者の出席(名)	26	24	17	10	20	17	5	5	4	14	7	3
自主的な出席(名)	3	2	3	3	3	4	0	0	2	3	0	0
選抜者の出席率(%)	89	82	58	34	68	58	17	17	8	29	14	6

※学習支援参加選抜者 48 名中 14 名は選択科目と重複のため後期前半は参加できず

4. まとめ

1) 担任教員の連携

担任教員それぞれが担当する科目で把握した学生状況を共有し、担当科目時に分担して学生に声をかけるなどの連携ができたことは、スムーズな学生対応、教員 6 名での学年全体の把握、一体感を持った担任業務の取り組みに繋がった。また、Slack とスプレッドシートを用いた情報共有により、素早く共有でき担当教員が不在時にも学生の様子を把握でき、保護者からの問い合わせなどにスムーズに対応することができた。担任業務についてはマニュアル等がなくその年ごとに工夫して対応しているが、面談項目の統一や面談記録のテンプレート化などにより丁寧で効率よく支援できる体制の構築を検討したい。

2) 他の教員や職員との連携

1 年生担当科目の担任教員との学生様子の共有、学生支援グループと連携し成績や経済状況のこまめな共有をしたことにより、多方面からのスムーズな対応が行えた。また、複数の教員での面談が必要な時には教授陣の迅速なサポートがあり円滑な面談実施ができた。

3) 学習支援内容の検討

学習支援クラスを通して医療系の大学生としての学習方法やスケジュール管理についての情報提供、暗記の仕方や根拠も含めた解説、質問対応は行えたが、今後はさらに工夫が必要である。上級生と一緒に学ぶ機会を持ったり、1 年生の科目を担当していない教員を招いての先取り学習をしたり、**deep learning** や学生の自律に繋がるような支援をしたり等の案があるが、方法の検討が必要である。

4) 今後の課題

現在の看護学科 1 年生担任教員は学生相談と教務相談の対応をしており、それぞれ学生相談室や学生支援センターにつないでいる。しかし 1 割程度の学生は相談でき支援してもらえる大人が身近に存在せず、学生の成績が安定するためには生活基盤の確立や精神的な成長が欠かせない状況にある。古川 (2022) は個別相談では来談した学生がいかに問題を解決するか成長するかという観点をもってオーダーメイドに応じていくことが必要だと述べており、今後は成績だけでなく学習基盤確立を基としつつ、学生の抱えた問題について学生自身が解決に向けて行動できる支援、学生自身が自分の強みや弱みを認識して自己成長できる支援、学生が主体的に学び課題を解決できる能力を育成する支援など総合的な人材育成を見通した担任教員の関わりの検討が必要である。

5. 引用文献

- 土井原千穂, 岸本智美, 上村紀子, 伴野梨沙, 飯塚明雄, 栗原明日香, 圓谷弘美, 小田原俊成(2024). 横浜市立大学学生における COVID-19 感染症パンデミック前後のメンタルヘルススクリーニングの推移. 横浜医学, 75, 541-549.
- 半田智久(2012). 学修支援の情報やシステムに関する大学生のニーズ調査報告. 高等教育と学生支援, 3, 66-83.
- 槇野葉月(2008). 大学生に対するメンタルヘルス支援体制に関する研究(1)-教職員対象の調査結果から-. 人文学報, 394, 31-52.
- 大塚秀実(2024). 大学生を支援するとは何か. 帝京大学学生カウンセリング研究, 12, 11-16.
- 高松直紀, 掛谷純子, 坂本理郎(2023). 両親の期待が女子大学生のライフコースに与える影響. ビジネス実務論集, 41, 1-11.
- 上田直人, 長谷川豊祐(2008). わが国の大学図書館におけるラーニング・コモンズの事例研究. 名古屋大学附属図書館研究年報, 7, 47-62.

和田竜太(2022).一学生相談カウンセラーから見た新型コロナウイルス感染拡大をめぐる動向について-国内外の動きと本学・カウンセリングルームの対応を振り返って- (第3報).京都大学学生総合支援機構紀要,1,31-42.

古川裕之(2022).京都大学における学生相談のさらなる充実に向けた試論.京都大学学生総合支援機構紀要,1,71-82.

古川裕之(2024).京都大学におけるピアサポート活動の導入とその意義.京都大学学生総合支援機構紀要,3,19-29.

Aino de まちトレ
— Health and smile exercise —
からだの調子はどうですか？からだをきたえて健幸生活

理学療法学科
梶本浩之，前田智香子，後藤昌弘

地域連携プロジェクトとして、茨木市在住の中高年者を対象に、運動の大切さの啓発と習慣化を目指し、自重トレーニングを中心としたトレーニングの紹介と指導およびプロジェクト前後における身体機能・運動機能評価をおこないました。実施時期は、第1期プロジェクトが令和5年9月から令和6年3月まで、第2期プロジェクトが令和6年9月から令和7年3月まで（予定）であり、年をまたいだ活動ですが、令和6年の活動について、第1期プロジェクトの後半1～3月の取り組み結果を振り返りながら、実施中の第2期プロジェクトの前半9月～12月の取り組みについて報告いたします。

1. はじめに

厚生労働省¹⁾が2000年に立ち上げた「健康日本21」は2024年で第3次に突入し、「全ての国民が健やかで心豊かに生活できる持続可能な社会の実現」がビジョンとして打ち出されています。また、その実現のために①健康寿命の延伸と健康格差の縮小，②個人の行動と健康状態の改善，③社会環境の質の向上，④ライフコースアプローチを踏まえた健康づくりの4つ目標が示されており，運動を用いた身体活動量の向上といった健康づくりが推進されています。

本学では、令和5年度より地域住民の生活支援をより強化するため、地域連携プロジェクトを推進することとなり、プロジェクトが募集されました。そこで、我々も地域住民の健康寿命延長を支援することで、「こころ」と「からだ」を健やかに保ち、笑顔ある生活を送っていただくことで、より地域社会に貢献したいとの思いから、『Aino de まちトレ-Health and smile with exercise-』と銘打ったプロジェクトで応募し助成金を2年連続で得ることができました。

プロジェクトの対象は、茨木市在住の中高年者としています。プロジェクトの主たる目的は、1) 本学での交流を通じて、茨木市民に運動の大切さを伝え、健康への関心を向けてもらい、運動を指導し習慣化してもらうことで、健康維持・増進をおこなうことでしたが、さらに、2) 本学施設内で市民と交流することで、本学を地域にアピールすること、3) 本学の在校生にアシスタントとして参加してもらうことで学生に社会とのつながりの場を提供すること、も狙いとしてあります。

2. 実施内容

まちトレの参加応募資格は、茨木市在住の循環器系、呼吸器系などの基礎疾患がなく、日常生活に支障のない中高年者としています。実施場所は、地域住民に学内の雰囲気を知っていただき、本学を身近に感じていただくために、本学のB棟1階B107教室を中心に、E棟のトレーニングルームも使用しています。

プロジェクトは、準備や広報の段取りもあり、9月からスタートしています。スケジュールと各回の内容はおおむね表1の通りです。9月から3月の期間に月1回（平日）の頻度で合計7回実施している

ため、令和 6 年の取り組みとしては、第 1 期プロジェクトの後半 1～3 月の取り組みと、第 2 期プロジェクトの前半 9 月～12 月の取り組みということになります。

表 1 第 1 期 まちトレスケジュール
(第 2 回と第 4 回は異なるトレーニング内容)

回	日付	内容
第1回	9月	■測定会 1) In Body 2) 膝伸展筋力 3) 10m歩行 4) 片脚立位 5) 椅子からの立ち上がり
第2回	10月	■運動指導 1) 自重トレーニング 2) セラバンドトレーニング
第3回	11月	■運動指導 1) 前回の復習 2) 自分の姿勢をチェック！
第4回	12月	■運動指導 1) 自重トレーニング 2) セラバンドトレーニング
第5回	1月	■運動指導 1) 前回の復習 2) 質問コーナー
第6回	2月	■運動指導 今までのトレーニングの復習
第7回	3月	■測定会 9月と同様の測定項目



図 1 測定会の様子

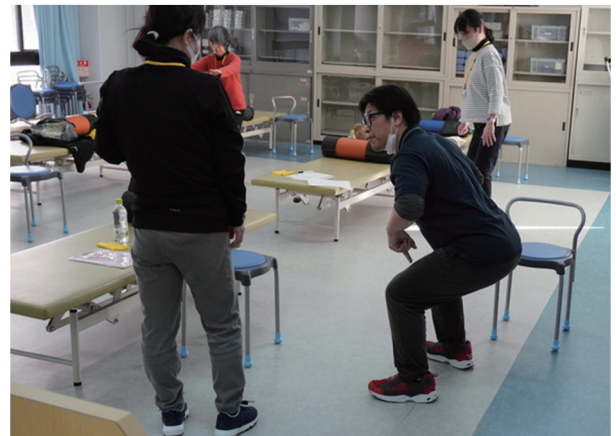


図 2 運動（スクワット）指導の様子

初回と最終回には、運動継続への意欲を高め維持するために、対象者に自身の身体機能や運動機能を把握してもらうことを目的として、「測定会」を開催しています（図 1）。測定する項目は、医療機関などにおけるいわゆる健康診断では実施されないような身体機能や運動機能を中心としたものになっています。測定項目は、令和 5 年度は①体脂肪率、②四肢筋肉量、③膝伸展筋力、④片脚立位時間、⑤10m歩行時間、⑥椅子からの立ち座り時間の 6 項目でした。これに加えて令和 6 年度は、⑦唾液アミラーゼ（ストレス評価）、⑧ロータリースタビリティを加えました。測定結果は、対象者にご自身の現在の状態を把握してもらいやすいように、かつ、初回と最終回の測定結果を比較してもらいやすいように、図表を用いて可視化する工夫をしています。参加者からは「普段の健康診断では、測らないような内容なので、自身の健康維持・増進に役立てることができる」と大変好評をいただいています。

各回のまちトレの流れは、体調管理として最初に当日の体調に関するアンケートと血圧測定をおこない、ウォーミングアップ後に、自重トレーニングとセラバンドトレーニングの運動指導、最後にクールダウンと血圧測定となっています。

実施しているトレーニングは、加齢とともに弱化しやすい下肢・体幹の運動を中心に、自分の体重を負荷として用いて安全に実施できる自重トレーニングと、座位・臥位でおこなうセラバンドトレーニン

グの2種類です。使用するセラバンドの色（色によって負荷量が異なる）は、ご本人の身体機能・運動機能に合わせられるよう、こちらが運動機能を評価してお渡ししました。

トレーニング内容は、自重トレーニング4種類、セラバンドを用いたトレーニング6種類です。これらについて方法や実施時のポイントなどを実演し、正しい運動ができるように個別に指導しています（図2）。加えて、まちトレで紹介したトレーニングについての写真入りの紙面やセラバンドを配布し、自宅でもトレーニングが継続しやすいように工夫しています。また、自宅トレーニングとして特に推奨したスクワットについては、運動が生活リズムの一部となるように、運動実施のタイミングとしてトイレ後におこなうように指導しています。なお、トレーニング内容やレベル選択の際には、自宅で安全に簡単に継続して実施できることを重要視しています。

表2 第1期まちトレ介入前後の運動機能の変化（ $n=6$ ）

	初回		最終		t 値	自由度	p 値
	平均	SD	平均	SD			
10m歩行（sec）	9.76	2.65	8.23	1.71	3.39	5	$p<0.05^*$
椅子からの立ち座り（sec）	15.24	4.03	11.15	3.76	11.56	5	$p<0.001^{**}$
片脚立位（sec）	右側	24.85	28.34	31.43	31.3	5	0.339
	左側	23.8	24.24	32.33	30.36	5	0.13
膝伸展筋力（N）	252	92.33	341.5	140.9	-1.96	5	0.108

$^*p<0.05$ $^{**}p<0.001$

表3 第1期まちトレ教室終了時アンケート結果（ $n=6$ ）

	Yes	No
楽しかったですか	6	0
運動は習慣づきましたか	6*	0
また参加したいですか	6	0

*内3名は運動する機会が増えたと回答

第1期プロジェクトの最終回には、対象者の満足度を把握し第2期プロジェクトに活かすために、終了時アンケートを実施し、第2期プロジェクトの計画の参考にしました。

3. 第1期プロジェクトの結果

令和5年度の当初の参加者数は7名で最終回まで継続した参加者は6名（男性1名、女性5名：継続率85.7%、68.42±8.6歳）でした。

第1期プロジェクトの結果、参加者の膝伸展筋力に有意な変化は認められなかったものの、10m歩行速度（ $p<0.05$ ）と椅子からの立ち上がり速度（ $p<0.001$ ）で有意に動作速度の向上がみられました（表2）。また、終了時アンケートにおいても高い満足度が得られました（表3）。月1回開催という頻度が決して高いとはいえない運動指導でも、参加者の運動機能を改善させる可能性が示唆されました。

終了時アンケートの結果（表3）、参加した全員が「楽しかった」、「運動が習慣づいた」、「また参加したい」と回答してくださり、なかには、「歩行速度が速くなった」、「日常生活における動作が容易になった」など運動機能の向上を実感したとのコメントもあり、嬉しい限りでした。

本プロジェクトでは、自宅トレーニングとして、特にスクワットを優先して実施するよう推奨し、運動実施のタイミングとしてトイレ後におこなっていただきました。中野ら（2015）²⁴が運動継続を支援

するためには、「運動を生活パターンに組み込む」ことが運動を認識し運動継続に重要であると述べています。まちトレで紹介した種目全てのなかからトレーニング種目を選択するという認知負荷を軽減させ、トイレ後という生活パターンに組み込んでもらえたことが、自宅での運動を継続できた要因の一つになったと考えられます。加えて、初回と最終回に測定会を実施したことで、参加者の運動継続への意欲を維持しやすかったのも要因の一つであったと考えられます。

本プロジェクトの目的 3)の「学生に社会とのつながりの場を提供すること」についても、おおむね達成できたと考えます。アシスタントとして参加した学生数は、令和 5 年 1～3 月は 3 年生が延べ 11 名でした。プロジェクトの開催日が平日のため、授業との日程調整が難しく、決して充分といえる状況ではありませんでしたが、複数回参加した学生は参加者へのコミュニケーションの取り方に成長が認められ、「一般市民と対人関係を取りながら身体機能や運動機能の測定したり、トレーニングの補助をさせていただいたことは貴重な経験になった」と手応えを感じている様子でした。

4. 第 2 期プロジェクトの状況

第 2 期プロジェクトの参加者数は 9 名（73.11±8.74 歳）であり、第 1 期プロジェクトよりも増加し、うち 4 名が第 1 期プロジェクトから継続して参加しておられます。第 1 期プロジェクトにおいて運動継続の必要性が伝えられた成果だと嬉しく思っています。参加者の皆様が笑顔で雑談する場面も徐々に増え、お互いに励まし合うことも自宅トレーニングの励みになっておられる様子です。また、自身の努力の成果がみえる 3 月の測定会を楽しみにしてくださっています。

在校生のアシスタント数は、9～12 月は授業との日程調整が難しかったため、測定会のみ参加となっており、3 年生 6 名でしたが、自ら参加者に話しかける様子も多くみられ、「学内の実技試験の後で不安だったが、臨床実習に向けて自信がもてた」と笑顔で話してくれていたことが印象的でした。

5. 今後の課題

継続課題としては、運動の習慣化や健康維持のための効果的な手段や方法の確立が必要であると考えています。参加者の 1 週間の運動頻度（運動実施率）について把握していくことも有効かもしれません。また、参加条件として基礎疾患のない方と提示していますが、ご自身の身体の状態について把握されていない方もおられ、対応に苦慮した場面もありました。本学の事業として、また理学療法士として安全に健康増進事業を進めるには、募集方法やリクス管理のありようについて考える必要性も感じています。加えて、在校生がアシスタントの経験を積める頻度を増加させることも課題だと考えています。

謝辞

本プロジェクトの参加者を募集するにあたり、ご協力を賜りました太田地区福祉委員会ぶらっとフォーム「RanRan（らんらん）」のスタッフの皆様、茨木市社会福祉協議会、太田地区の自治会の皆様に御礼申し上げます。

参考文献

[1]厚生労働省. 健康日本 21（第三次）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryoku/kenkou/kenkounippon21_00006.html.

[2]中野聡子，奥野純子，深作貴子，他：介護予防教室参加者における運動の継続に関連する要因，理学療法学，第 42 巻，第 6 号，511-518（2015）

2024 年度 作業療法学科教員による地域貢献活動

作業療法学科 塚越千尋

- 目次：(1) 子育て支援カフェ “おやこ de-Aino かふえ”
 (2) 不登校支援イベント
 (3) 太田中学校福祉体験授業
 (4) ナリコマエンタープライズ 企業における就労支援の取り組み
 (5) 太田地区「元気はつらつ体操」教室

作業療法学科では教員の様々な専門性を活かし、幼児期から児童・青年期～高齢期まで各ライフステージにある太田地区の地域住民に関わっている。目次に沿って、参加教員と活動内容を紹介する。

(1) 子育て支援カフェ “おやこ de-Aino かふえ” (塚越千尋 (主催)、尾藤祥子、高畑修平)

茨木市社会福祉協議会、太田地区福祉・民生委員との共催による「いきいき子育てサロン」は、作業療法学科の教員が太田地区との窓口になって開催してきたが、2020 年より看護・理学療法・臨床工学科の教員と活動を進めてきた。子育てサロンは、未就園児とその親が、地域の中で活動を通じて子育てを楽しみながら仲間を作り互いに支え合う場である。太田地区では、藍野大学に、こどもと親、地区スタッフ、教員・学生が集い、こどもと遊び、教員による講話を聴く機会を作ってきた (表 1)。

表 1. 近年の「いきいき子育てサロン」の講話内容と講師

日時	講話内容	講師
2023 年 3 月 2 日	子どもの理解から始める感覚統合遊び	高畑脩平 (作業療法学科)
2022 年 11 月 11 日	冬に多い子どもの病気	若宮英司 (看護学科)
	子どもの発達と遊びへのかかわり	尾藤祥子 (作業療法学科)
2022 年 7 月 14 日	2 歳児の運動発達と遊び	阪上奈巳 (理学療法学科)
	乳幼児健康診査のあれこれ	古澤朗子 (看護学科)
	熱中症に気をつけて	阿部宏史 (看護学科)



サロンのみでは親同士がつながりにくいという課題に対して、より定期的に親・こどもが集い、肩の力を抜いてゆるやかにつながることができる場として、子育て支援カフェを開催することとした。令和 5 年度の地域連携プロジェクト助成を受けて令和 6 年の 1～3 月までは試験的に実施し、4 月からは毎月第 3 木曜に実施した (左図、令和 6 年下半期ポスター)。延べ参加人数は 84 人であった。参加者の「こんな情報が欲しい」という相談に応じて、公式 LINE で教員が書いたコラムを掲載し、また「子育てサロン」に相当する、令和 6 年度の地域連携プロジェクト助成を受けた看護学科主催の「さんすい学園」コラボ実践講座で教員が講義をした。今後も、「子育て支援カフェ」を横軸、「子育てサロン」を縦軸として、「子育て世代を孤立させない」という太田地区の福祉・民生委員が大切にしてきた想いに貢献できれば幸いである。



※この活動は、以下藍野大学教員の協力のもと行われた。

看護学科：西田千夏、古澤朗子、阿部宏史、宮岡裕香、吉川美和子、黄波戸航

理学療法学科：阪上奈巳、臨床工学学科：畑中由佳（敬称略）

※上記、本学教員の他に、茨木市の保健師・社会福祉士、コミュニティソーシャルワーカー、茨木市委託のつどいの広場で東太田地区にある“るんびに広場”スタッフ、藍野大学学生ボランティアが協力してくれた。また、藍野大学入試・広報課が大学 HP でカフェのちらし、活動内容を掲載してくれた。感謝申し上げる。

（2）不登校支援イベント（林部美紀（主催）、尾藤祥子、真下いずみ）

令和 6 年度の藍野大学地域連携プロジェクト助成で採用となった活動である。3 つのイベントを企画し、現在そのうちの 2 つが終了している（表 2）。

表 2. 令和 6 年度 不登校支援イベントの概要 *講師（）内は外部から招待した講師

	日時	開催形式	講師	参加人数
第 1 回	9 月 29 日（日） 13：30－15：30	講演会 「引きこもり・不登校支援の実際」	真下いずみ、尾藤祥子、 （田中暁）*	30 名
第 2 回	12 月 22 日（日） 13：00－15：30	保護者カフェ	司会：林部美紀	9 名
第 3 回	2 月 15 日（土） 9：30－12：00	講演会 「児童の発達支援・方法」	尾藤祥子、高畑修平、 （中川瑛三）*	実施予定



10 月 21 日には、尾藤・林部・塚越が西河原小学校区健康福祉セーフティネット会議に出席し、太田中学校や三島中学校の校長、太田・西河原の地域包括支援センターや東保健福祉センターのスタッフ、地域の民生・児童委員に本活動を紹介した。そもそも、この会議はコミュニティソーシャルワーカーが取りまとめており、地域課題の一つである“不登校児を支援につなぐためにどうしたらいい

か”に、作業療法士も参画して欲しいという依頼から出席する運びとなった。現在、全国の小中学校で約 30 万人の不登校児がいるという調査があり、その親の 2 割は退職を余儀なくされ、社会的にも大きな問題となっている。作業療法士が、この問題に関わっていくことができる職種であることを地域住民に認知してもらえる貴重な機会となった。不登校支援イベントの詳細は、地域プロジェクト助成の報告書を読みたい。

（3）太田中学校福祉体験授業（作業療法学科 3 回生 36 名、尾藤祥子、塚越千尋）

前年度に引き続き、太田中学校の 2 年生（3 クラス 120 人）に対して車椅子・アイマスク体験を指導・実習した。10 月 30 日に各教室でデモンストレーションを行い、11 月 1 日に実習を手伝う、という構成であった。福祉用具である車椅子、白杖の使い方を中学生に分かりやすく教えることは、学生にとって刺激的で楽しい経験となっている。同時に中学生に作業療法の説明を入れて、作業療法士を将来の仕事として意識してもらう機会としている。毎年、学生は中学校の生徒に大人気であり、学生は緊張しつつも達成感を感じて帰ってくるが、この経験はきっと臨床で役立つはずである。



（4）ナリコマエンタープライズ 企業での就労支援の取り組み（宮本年也、塚越千尋）

茨木市にある株式会社ナリコマエンタープライズ（以下、ナリコマ）は、高齢者施設等に介護食を製造・配送する企業である。本社は大阪にあるが、北は仙台、南は鹿児島まで 30 ヶ所におよぶ事業拠点を持つ。2020 年より障害者雇用促進に向けた部が設けられ、現在は 30 名弱の手帳所持メンバー

（以下、メンバー）を支援している。手帳種別人数は、療育手帳が半数以上で次に精神保健福祉手帳が多い。メンバーが安定して就労を継続し、仕事の幅を広げキャリアアップを図る支援を、インクルージョン推進室のスタッフが行っている。今回、インクルージョン推進室より「地域学生が障害者雇用企業で就労支援サポートをする取り組み」を検討するなかで、同じ茨木市にある医療系の大学生に参加してほしい（共生社会を目指した地域作りをめざしたい）という意図から藍野大学に声がかかった。

話が逸れるが、作業療法学科の学生は 3 年次に、国立府営の大阪障害者職業能力開発校の特別委託施設である、摂津市障害者職業能力開発センター「せつつくすのき」へ実習に行く。くすのきの訓練生は、身体障害・知的障害・自閉スペクトラム・注意欠如多動症・限局性学習障害などを持つ。実習では、訓練生と大学生が、見学・レクリエーションを通して“がんばる気持ちや楽しい感情は同じである”と、お互いの個性や違いを認め合うインクルーシブな学びを得る機会となっている。



*写真は、くすのきの母体である摂津宥和会のスポーツフェスタ（摂津市味舌体育館）の様子

次の展開として、学生がナリコマで就労定着支援を見学あるいは参画する機会を持つことは、“障害を持つ方が地域で暮らす・働く”一連の流れをイメージできる絶好の機会であると考えている。現在は立ち上げの段階であり、R6年度は、教員の顔をメンバーに知ってもらい、メンバーの困りごとを知り、メンバーの働く環境の一部として作業療法士あるいは学生が機能しそうな方法を探るために、2度の打ち合わせを実施した。産福学連携の試みの一つになることを期待して活動を進めたい。

（５）太田地区「元気はつらつ体操」教室（塚越千尋、津田勇人、宮本年也、白井雅子）

東太田地区は茨木市で一番人口が多い。そして高齢者も多い。元気はつらつ体操は、太田地区の福祉委員が主催しており、月1回の頻度で、1回の参加者は40名近くになる。年齢層は80～90歳代が多く、70歳代は“若い人”と認識される。90分のうち、我々が担当しているのは「頭の体操」を取り入れた運動である。講話の会もある。基本的には「笑顔」になるようなレクリエーションの中に、前頭葉機能を刺激するようなことを取り入れるが、参加者とのやり取りやかけ声・野次で、より笑顔になる雰囲気を重視している。

週に1回は外出していること、家族以外の誰かと会話していること、を地域で支える重要な「通いの場」の一環として、同じ地域にある藍野大学の関わりを今後も続けたいと考えている。ぜひ学生にも参加してほしいが、高齢者に合わせた時間帯（13時半～15時）なので、授業と重なっていて今のところは難しい。



終わりに

作業療法の新しい時代を創る未来人材である学生たちが、学生の間から地域貢献活動に関わり、“地域の様々な課題に作業療法士がコミットできる”という感覚をつかむ機会を持つことは有意義だと考える。今後、学生がより主体的にこのような活動に取り組めるようにどうすればよいか、展開の工夫が課題である。

学年暦・学生の状況

2024（令和6）年度 学年暦

事 項	2024 年度
始業	4 月 1 日（月）
入学式	4 月 3 日（水）
前期各種ガイダンス	4 月 1 日（月）～ 4 月 5 日（金）
前期授業開講	4 月 8 日（月）
履修登録締切（新入生） 履修登録締切（在校生）	4 月 5 日（金） 3 月 22 日（金）
創立記念日	5 月 1 日（水）
前期履修中止申請期間	① 4 月 24 日（水）～ 4 月 25 日（木） ② 6 月 26 日（水）～ 6 月 27 日（木）後半科目のみ
補講 試験日を含む	5 月 11 日（土）、6 月 1 日（土）、 6 月 22 日（土）、7 月 6 日（土）、7 月 20 日（土） 8 月 5 日（月）～ 8 月 9 日（金）
前期授業終了 試験日を含む	8 月 2 日（金）
夏期休暇	8 月 10 日（土）～ 9 月 20 日（金）
後期履修ガイダンス	9 月 24 日（火）
後期授業開講	9 月 25 日（水）
後期履修登録修正期間	9 月 10 日（火）～ 9 月 12 日（木）
あいの祭	10 月 19 日（土）～10 月 20 日（日）
後期履修中止申請期間	① 10 月 9 日（水）～10 月 10 日（木） ② 12 月 18 日（水）～12 月 19 日（木）後半科目のみ
冬期休業	12 月 27 日（金）～ 1 月 7 日（火）
後期授業再開	1 月 8 日（水）
補講 試験日を含む	10 月 12 日（土）、11 月 2 日（土）、 12 月 7 日（土）、 1 月 31 日（木）～ 2 月 1 日（土） 2 月 4 日（月）～ 2 月 14 日（金）
後期授業終了 試験日を含む	2 月 3 日（月）
学位記授与式	3 月 11 日（火）
春期休業	3 月 14 日（金）～ 3 月 31 日（月）
終業	3 月 31 日（月）

収容定員および在学する学生数等（藍野大学ホームページより）

（1）収容定員および在籍学生数（2024 年 5 月 1 日現在）

医療保健学部

学部・学科等	入学定員	編入定員	収容定員	学年別在籍者数				在籍者数	収容定員 充足率
				1 年	2 年	3 年	4 年		
看護学科	115	2 (3 年次)	464	126	127	119	128 (8)	500	1.08
理学療法学科	100	－	400	102	113	112	116 (13)	443	1.11
作業療法学科	40	－	160	24	44	37	41 (9)	146	0.91
臨床工学科	40	－	160	28	22	27	61 (14)	138	0.86
医療保健学部	295	2	1,184	280	306	295	314	1,227	1.04

※4 年次の（ ）は、留年者内数。1～3 年次における留年制度を設けていないため 4 年次までは自動的に進級し、必要な必修科目の単位を修得していないと 4 年次で留年となる。

看護学研究科

学部・学科等	入学定員	編入定員	収容定員	学年別在籍者数		在籍者数	収容定員 充足率
				1 年	2 年		
看護学研究科	6	－	12	4	13 (5)	17	1.4

健康科学研究科

学部・学科等	入学定員	編入定員	収容定員	学年別在籍者数		在籍者数	収容定員 充足率
				1 年	2 年		
健康科学研究科	6	－	12	6	－	6	0.5

※2 年次の（ ）は、留年者内数。1 年次における留年制度を設けていないため 2 年次までは自動的に進級し、必要な必修科目の単位を修得していないと 2 年次で留年となる。

（2）退学者数および除籍者数

退学者数

年度	学科	1 年	2 年	3 年	4 年	合計
2021 (令和 3)	看護	5	2	2	4	13
	理学療法	4	4	1	1	10
	作業療法	1	0	0	2	3
	臨床工学	0	1	4	2	7
	合計	10	7	7	9	33

学年暦・学生の状況

2022 (令和 4)	看護	2	0	0	5	7
	理学療法	2	7	3	1	13
	作業療法	0	4	1	5	10
	臨床工学	2	2	2	2	8
	合計	6	13	6	13	38
2023 (令和 5)	看護	2	2	2	0	6
	理学療法	4	4	5	0	13
	作業療法	1	3	0	0	4
	臨床工学	0	3	4	2	9
	合計	7	12	11	2	32

退学の理由（複数回答あり）

年度	学科	就学意 欲の低 下	進路変 更（他 学校）	進路変 更（就 職等）	経済的 困難	学力不 足	身体疾 患	心身衰 弱	海外留 学	その他
2021 (令和 3)	看護	2	6	1	1	0	1	1	0	1
	理学療法	3	4	0	0	2	0	0	0	1
	作業療法	0	2	1	0	0	0	0	0	0
	臨床工学	1	4	1	0	0	0	1	0	0
	合計	6	16	3	1	2	1	2	0	2
2022 (令和 4)	看護	2	3	1	1	0	0	0	0	0
	理学療法	4	5	1	0	3	0	0	0	0
	作業療法	3	7	0	0	0	0	0	0	0
	臨床工学	2	3	1	1	1	0	0	0	0
	合計	11	18	3	2	4	0	0	0	0
2023 (令和 5)	看護	3	3	0	0	0	0	0	0	0
	理学療法	3	7	0	0	2	0	1	0	0
	作業療法	3	1	0	0	0	0	0	0	0
	臨床工学	1	3	3	0	1	0	1	0	0
	合計	10	14	3	0	3	0	2	0	0

除籍者数

年度	学科	1 年	2 年	3 年	4 年	合計
2021 (令和 3)	看護	0	1	0	0	1
	理学療法	0	0	0	0	0
	作業療法	0	0	0	0	0
	臨床工学	0	0	0	0	0
	合計	0	1	0	0	1

学年暦・学生の状況

2022 (令和 4)	看護	1	0	0	0	1
	理学療法	0	1	0	0	1
	作業療法	0	0	0	0	0
	臨床工学	0	1	0	0	1
	合計	1	2	0	0	3
2023 (令和 5)	看護	0	0	0	0	0
	理学療法	0	0	0	0	0
	作業療法	0	0	0	0	0
	臨床工学	1	1	0	0	2
	合計	1	1	0	0	2

除籍の理由

年度	学科	就学意 欲の低 下	進路変 更（他 学校）	進路変 更（就 職等）	経済的 困難	学力不 足	身体疾 患	心身衰 弱	海外留 学	その他
2021 (令和 3)	看護	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	理学療法	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	作業療法	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	臨床工学	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	0	0	0	0	0	0	0	0	1
2022 (令和 4)	看護	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	理学療法	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	作業療法	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	臨床工学	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	合計	0	0	0	0	0	0	0	0	3
2023 (令和 5)	看護	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	理学療法	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	作業療法	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	臨床工学	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	合計	0	0	0	0	0	0	0	0	2

看護学研究科

退学者数

年度	研究科	1 年	2 年	合計
2021 (令和 3)	看護学	0	0	0
2022 (令和 4)	看護学	0	0	0

2023 (令和 5)	看護学	0	1	1
----------------	-----	---	---	---

除籍者数

年度	研究科	1 年	2 年	合計
2021 (令和 3)	看護学	0	0	0
2022 (令和 4)	看護学	0	1	1
2023 (令和 5)	看護学	0	0	0

(3) 社会人学生数 (2024 年 5 月 1 日現在)

学科	社会人学生数
看護	3
理学療法	1
作業療法	0
臨床工	0
学科合計	4
看護学研究科	17
健康科学研究科	6

※ここでの社会人学生とは、25 歳以上の者、または職に就いている者。

卒業生数および国家試験の状況 (藍野大学ホームページより)

看護学科

学科	年度	卒業生数	看護師国家試験			保健師国家試験		
			受験者数	合格者数	不合格者数	受験者数	合格者数	不合格者数
看護	2021 (令和 3)	92	92	92	0	20	19	1
	2022 (令和 4)	93	92	92	0	20	20	0
	2023 (令和 5)	108	107	101	6	17	16	1

※編入生含。保健師国家試験は選択制。

理学療法学科

学科	年度	卒業生数	理学療法士国家試験		
			受験者数	合格者数	不合格者数
理学療法	2021 (令和 3)	89	89	83	6

理学療法	2022 (令和 4)	88	88	88	0
	2023 (令和 5)	90	90	89	1

作業療法学科

学科	年度	卒業者数	作業療法士国家試験		
			受験者数	合格者数	不合格者数
作業療法	2021 (令和 3)	41	41	27	14
	2022 (令和 4)	36	36	36	0
	2023 (令和 5)	44	44	43	1

臨床工学科

学科	年度	卒業者数	作業療法士国家試験		
			受験者数	合格者数	不合格者数
臨床工	2021 (令和 3)	26	26	25	1
	2022 (令和 4)	35	35	34	1
	2023 (令和 5)	26	26	23	3

看護学研究科

研究科	年度	修了者数
看護学	2021 (令和 3)	3
	2022 (令和 4)	5
	2023 (令和 5)	4

研究業績と社会貢献

科学研究費助成事業について(2024 年度)

※研究代表者。研究種目別、学科別、研究代表者五十音順

◎基盤研究(B)

看護学科

課題番号	研究課題	研究代表者
24K00386	往還するネパール人:家族の生存戦略と教育課題	榎井 縁

◎基盤研究(C)

看護学科

課題番号	研究課題	研究代表者
22K11077	学校で働く看護師のコンピテンシーモデルに基づく教育プログラムの構築	岩佐 美香
22K10889	1型糖尿病患者の療養と社会生活の両立を支援するソーシャルサポートの開発と評価	梅田 英子
23K10277	アルコール関連問題をもつ対象者への訪問看護・介護職によるケアガイドラインの開発	河野 由理
21K10900	妊婦の会陰部裂傷と産後の QOL に対する会陰部マッサージの効果検証と手技の確立	齋藤 祥乃
21K11068	病院勤務の看護師の防災リテラシーの実態と向上	西上 あゆみ
24K14103	日本における病院看護部の備えと看護師の防災リテラシーの進展	西上 あゆみ
24K14130	ダブルケアの負担軽減への支援を可能にするダブルケアアセスメント尺度の開発	堀川 尚子
20K11146	認知症の高齢者に対するカラーテープを用いた転倒予防策の実用化の検証	本多 容子
24K14211	カラーテープを用いた「いつでも・どこでも・誰にでも」できる高齢者の転倒予防対策	本多 容子
19K11265	舌苔を有する高齢者に対し効果的で心地よい舌苔除去方法の検証	米澤 知恵

理学療法学科

課題番号	研究課題	研究代表者
24K15854	「いつ、どこでも、ひとりで」骨盤介助型歩行練習車の基盤技術構築	青山 宏樹
22K11328	超音波画像診断装置を用いた中間広筋の効果的なトレーニング方法の検討	熊部 翔
23K10573	地域在住高齢者の転倒に及ぼす筋量・筋力の複合影響についての追跡研究	高田 昌寛
22K11515	日本人アスリートのスポーツ損傷における発症頻度の個人差に遺伝子多型が及ぼす影響	福山 友見

作業療法学科

課題番号	研究課題	研究代表者
24K06182	書字困難児支援のための ICT を用いた質的評価・支援プログラムの開発研究	高畑 脩平
20K11224	高齢者の握み損ないを科学する 一握る力と腕の力の持続出力調整機能の研究一	津田 勇人
21K11232	脊髄損傷における新規電気刺激リハビリ方法開発へ向けた生化学的解析によるアプローチ	宮本 陳敏

臨床工学科

課題番号	研究課題	研究代表者
20K09722	宇宙環境における内耳前庭の発生維持とバイオメカニズム	田浦 晶子
24K12686	血液迷路関門(BLB)障害による平衡障害の病態解明と新規治療法の開発	田浦 晶子

中央研究施設客員研究員

課題番号	研究課題	研究代表者
21K07286	脊髄損傷の治療に向けた新しい移植細胞の開発	井出 千束

◎若手研究

看護学科

課題番号	研究課題	研究代表者
21K13430	医療・保健・福祉分野に従事する対人援助職の人材確保に関する研究	中井 良育
20K13961	発達障害児の両親支援に活用するペアレント・リフレクティブ・インタビューの指針作成	西田 千夏
23K12757	発達障害児の両親支援に向けたリフレクティブ・インタビュー実践プログラムの開発	西田 千夏

理学療法学科

課題番号	研究課題	研究代表者
23K16831	高齢者の抑うつ症状改善のためのナッジを活用した身体活動プログラムの開発と効果検証	安藤 卓
24K20454	NIRS バイオフィードバック抵抗運動が筋組織内酸素代謝に及ぼす影響と臨床への応用	後藤 昌弘
23K12805	アカデミック・ライティングにおける論証の「型」の特徴と可能性	杉山 芳生
21K17521	腸内環境のエース「短鎖脂肪酸」をいかに増やすか、運動処方の開発	森田 恵美子
22K17528	下肢に慢性的な痛みを有する高齢者の呼吸筋力増強のための水中運動プログラムの作成	山科 吉弘

作業療法学科

課題番号	研究課題	研究代表者
22K17644	脊髄損傷の再生医療における運動介入の効果に関する研究	塚越 千尋
23K16596	ひきこもり当事者の自宅内活動と主観的価値の解明	真下 いずみ

◎研究活動スタート支援

看護学科

課題番号	研究課題	研究代表者
23K19815	認知症患者の終末期における家族の準備と希望に関する混合研究	加藤 裕規

著書・教科書

著者，共著者	書名または章名	(左欄が章名るとき) In: 編者名, editors. 書名. 発行地：出版社；出版年. ページ (左欄が書名るとき) 発行地：出版社；出版年
栗原秀剛	泌尿器系	坂井建雄、川上速人 監訳、ジュンケイラ組織学第6版、東京；丸善；2024. 423-443
山田和子	5章 親子保健	平野かよ子、山田和子、守田孝恵、福田吉治(編著)、ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障②公衆衛生. 大阪市：メディカ出版；2025. 127-150
山田和子	4章 2 ハイリスクアプローチ，ポピュレーションアプローチとPDCAサイクル	平野かよ子、山田和子、守田孝恵、福田吉治(編著)、ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障②公衆衛生. 大阪市：メディカ出版；2025. 102-107
山田和子	4章 4 家庭訪問の意義と活用	平野かよ子、山田和子、守田孝恵、福田吉治(編著)、ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障②公衆衛生. 大阪市：メディカ出版；2025. 109-111
山田和子	4章 5 健康診査（健診）・検診の意義と活用	平野かよ子、山田和子、守田孝恵、福田吉治(編著)、ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障②公衆衛生. 大阪市：メディカ出版；2025. 111-114
山田和子	4章 8 ネットワークの意義と活用	平野かよ子、山田和子、守田孝恵、福田吉治(編著)、ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障②公衆衛生. 大阪市：メディカ出版；2025. 119-121
山田和子	4章 9 グループ・地域組織の育成・支援	平野かよ子、山田和子、守田孝恵、福田吉治(編著)、ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障②公衆衛生. 大阪市：メディカ出版；2025. 121-123
吉田卓司	世界の教育と社会-比較教育社会学へのいざない	大津：三学出版；2024. 1-55
編著：法橋尚宏、泉澤真紀、岩佐美香、岩本真紀、太田浩子、大山晴美、王志霞、岡本綾子、岡本洋一、垣東真衣、河合晴美、河津聖里奈、小出淳貴、小西一枝、佐藤由恵、杉原美音、鈴木智子、副島堯史、高木良重、竹内千夏、寺尾奈歩子、土岐弘美、戸高理恵、永友舞、永吉円、西元康世、伴野唯、平谷優子、平野延子、藤澤盛樹、藤原尚子、本田裕美、松本さくら、三木佳子、宮原真二、森口由佳子、森光優、矢島弘子、山田暢子、横山奈美、渡邊幹生、藁田希世和	看護師国家試験ラピッドスタディ2025	神奈川県：有限会社EDITEX；2024. 76-85
榎井緑	最新の知識 外国にルーツをもつ子ども	小児看護、第47巻第7号、通巻595号、へるす出版；2024. 796-802

榎井縁、倉石一郎、湯本浩之	第15分科会 国際連帯・多文化共生の教育	日本教職員組合編、日本の教育第73集、アドバンテージサーバー；2024. 209-220
榎井縁	外国人と共に歩む社会	兵庫人権ジャーナル「きずな」2025年1-2月号、公益財団法人兵庫人権啓発協会；2025. 8
平山朋子	ミネルバ大学の設計書 第4章	スティーヴン・M・ベン・コスリン、ベン・ルソン（編者）、松下佳代監訳、ミネルバ大学の設計書。東京：東信堂；2024. 69-86
岩村真樹	図解 理学療法技術ガイド 理学療法臨床の場で必ず役立つ実践の全て 第6章 9 サルコペニア	市橋則明編集主幹、図解 理学療法技術ガイド 理学療法臨床の場で必ず役立つ実践の全て。東京：文光堂；2024. 937-942
Z・マイク・ワン、ロビン・B・ゴールドバーグ（著）、 <u>杉山芳生</u> （訳）	第22章 経験学習—キャンパスとしての都市と人的ネットワーク—	In：スティーヴン・M・コスリン、ベン・ネルソン（編）、松下佳代（監訳）、ミネルバ大学の設計書。東京：東信堂；2024. 351-362
尾藤祥子	第3章	仲間知穂 友利幸之助編 学校作業療法ガイドブック。青海社；2024. 141-144
真下いずみ	第1章 精神科領域／コラム 目標の聞き取り～目標設定の工夫（精神科領域）	日本作業療法士協会 MTDLPを活用した作業療法参加型臨床実習実例集；2024.
真下いずみ	ひきこもりと訪問作業療法	In：仲間知穂、友利幸之介、学校作業療法ガイドブック。東京。青海社；2024.
<u>真下いずみ</u> 、山下祐司、松元雄太	ひきこもり	In：早坂友成、精神科作業療法と臨床推論。東京。青海社；2024.
扇田秀章、 <u>田浦晶子</u>	ENTONI No.300 [8月号] めまい—診断と鑑別のポイント—前庭神経炎	総編集：堤剛、東京：全日本病院出版会；2024. 17-27
<u>田浦晶子</u> 、青木光広	JOHNS 耳鼻咽喉科頭頸部外科のサブスペシャリティ めまい相談医制度	東京：東京医学社；2024. 1227-1229

学術論文(原著論文・総説等)

著者, 共著者	タイトル	雑誌名 出版年 ; 巻 (号) : ページ
Saito K, Yokawa S, Kurihara H et al.	FilGAP controls cell-extracellular matrix adhesion and process formation of kidney podocytes.	FASEB J 2024; ; 38(5) : e23504.
Nagase M, Ando H, Beppu Y, Kurihara H et al.	Glomerular Endothelial Cell Receptor ADGRF5 and the Integrity of the Glomerular Filtration Barrier.	JASN 2024 ; 35(10) : 1366 – 1380. selected for "Best of ASN Journals in 2024"
Shigeru Terada, Yoshihiro Yamashina, Masahiro Goto	Relationship between Muscle Stiffness Derived from fatigue and Estimated Muscle Mass.	Int J Physiother.2024; ; Vol11(2) : 20-23
西上あゆみ	看護実践モデルの構築・評価・改善—その方法とプロセス・9 自然災害に対する病院看護部の備えを促す尺度開発	看護研究、2024 ; 57(6) : 572-579
本多容子、福岡裕行、阿部宏史、三宅光代、高橋敏夫、鈴木太一、利根川圭一、菅沼美佐子、森本由美子、米澤知恵、中井良育、信岡研身	レビー小体型認知症に特化した認知症カフェの実践報告 レビー小体型サポートネットワーク大阪のとりくみ	藍野大学紀要、2024 ; 36 : 11-18
岩佐美香、中村亜紀、本多容子	養護教諭の行う健康相談活動の教授方法についての文献検討	京都女子大学養護・福祉教育学研究 2024 ; (2) : 33-37
米澤知恵、堀智子、本多容子	乾燥した舌苔を軟らかくするための効果的な方法に関する基礎研究 湿潤剤による違いはあるのか	日本健康医学会雑誌 2024 ; 33(2) : 188-193
前川麻記、齋藤祥乃	乳幼児を子育て中の共働き夫婦のワーク・ファミリー・コンフリクトに関連する要因—ソーシャル・キャピタルに着目して—	日本公衆衛生看護学会誌 13(1)、2-12
中野玲子、西上あゆみ、真鍋由希	統合看護学実習における病院移転体験による学生の看護マネジメントの学び	藍野大学紀要 2024 ; 36 : 35-43
中村亜紀、岩佐美香、福井昌則	学校教育時代における強い精神的葛藤の経験とレジリエンスの支援に関する予備的調査	京都女子大学教職支援センター研究紀要 2024 ; 153-159
清水一、岩佐美香	学校看護師の看護技術の実践力の規定要因--特別支援学校の看護師を対象とした質問紙調査--	大阪経大論集 2024 ; 75(1)、211-222.
堀智子、松本七十子	在宅療養を送る重症心身ときょうだい児を育てる母親のニーズに関する研究	日本看護福祉学会誌(1344-4875)29巻2号、123-129 : 日本看護福祉学会誌
堀智子、松本七十子、前川麻記	就学後から成人期までの在宅療養重症心身障害児を養育する母親の障害受け入れに関する心理状態	日本健康医学会雑誌(1343-0025)33巻3号、348-349
堀智子、三浦紀夫	看護基礎教育における仏教的視座を講義内に鳥れる教育効果に関する研究	日本仏教看護・ビハール. 第19号、60-72
堀川尚子、廣澤有香、山本純子、加藤亜妃子	定住外国人高齢者に関わった介護職員のEOLCにおける要因分析	日本地域共生ヘルスケア学会誌 2024 ; 1(2) : 11-19

<u>Ando S, Iwamura M, Yamato Y, Shinbo K, Nanikawa W, Higuchi Y</u>	Exploring the Profile of Community Day House Attendees: An Investigation of Older Adults in Ibaraki City, Japan	Japanese Journal of Community-based Comprehensive Physical Therapy (地域理学療法学) 2024.3 : 86-95
<u>Ando S, Yamashina Y, Iwamura M, Yamato Y, Morita E</u>	Influence of Depressive Symptoms on Afternoon Physical Activity Levels of Older Adults Residing in a Care Facility: A Preliminary Study	International Journal of Biomedical Soft Computing and Human 2024 ; 29(1) : 29-36
<u>Ando S, Iwamura M, Yamato Y, Shinbo K, Nanikawa W</u>	Association between decreased walking speed and higher-level functional capacity in community-dwelling older women	Geriatric Care 2024, 10(1), https://doi.org/10.4081/gc.2024.12670
榎井縁	外国人の子どもの教育格差	都市問題、後藤・安田記念東京都市研究所 2024 ; vol115 : 62-72
榎井縁	自己実現のこばを育むためにー大阪桜校のとりくみからー	国際教育 日本国際教育学会紀要 第30号 : 75-78
王一瓊、榎井縁	言語マイノリティの生徒に対する教育のあり方の新たな可能性ー人権教育を基礎とした公立S高校の多文化教育を例にして (査読有)	ことばと社会 多言語社会研究 三元社 ; 26号 : 240-263
松下佳代, 平山朋子, 他	汎用的/分野横断的な能力は育成可能かー 学士課程カリキュラムの比較を通してー	大学教育学会誌 2024 ; 46(2) : 86-91
<u>Yoshihiro Yamashina, Sho Kumabe, Kazuyuki Tabira</u>	Sustained effects of underwater walking on respiratory muscle strength of the elderly	The Journal of Japanese Society of Balneology, Climatology and Physical Medicine. 87(2), 66-72, 2024.
<u>Yoshihiro Yamashina, Suguru Ando, Masaki Iwamura, Sho Kumabe, Emiko Morita, Kazuyuki Tabira</u>	The Effect of Aquatic Exercise on Respiratory Muscle Strength and Knee Extensor Muscle Strength in a Patient with Osteoarthritis of the Knee: A Case Report	The Journal of Japanese Society of Balneology, Climatology and Physical Medicine. 2024. In Press.
辻岡哲夫、関本翔、新名岬、渡辺一志、松浦義昌、横山久代、川端悠、山科吉弘	吹き戻し棒を用いた肺年齢推算の試み〜電子化吹き戻し棒の試作と内圧測定による状態把握〜	信学技報 123 : 20-25 : 2024
関本翔、新名岬、辻岡哲夫、渡辺一志、松浦義昌、横山久代、川端悠、山科吉弘	吹き戻し棒を用いた肺年齢推算の試み〜肺年齢推算式の導出と検証 (1)〜	信学技報 123 : 26-31 : 2024
<u>Iwamura M, Okamoto Y, Oshio Y, Nakano A, Shigekiyo T, Yamane K, Sugino M</u>	Effects of 3-4 weeks of multimodal complex treatment for Parkinson's disease on motor function and quality of life : a retrospective study	The Journal of Allied Health Sciences 2024; 15: 1-7
<u>Emiko Morita, Yumi Fukuyama, Yui Kikuchi, Sho Kumabe, Yoshihiro Yamashina</u>	Daily Brisk Walking Is Associated with the Abundance of Eubacterium of Butyrate-Producing Bacteria	International Journal of Biomedical Soft Computing and Human Sciences (IJBSCHS). 2024, 29(1): 11-20
<u>Emiko Morita, Suguru Ando, Yumi Fukuyama, Yui Kikuchi, Sho Kumabe, Yoshihiro Yamashina</u>	Daily brisk walking increases intestinal acetic acid in short-chain fatty adults in healthy young adults: A randomized controlled trial	BioSocial Health J. 2024;1(3): 136-145

佐藤亮、平山朋子、中野渡達哉、田中貴広、三宮克彦&坪田朋子	理学療法学専攻学生に対する災害理学療法学の授業構成に関する教育効果の検証	理学療法教育 2024 ; 4(2) : 2_37-2_44.
高田昌寛	二重エネルギーX線検査で測定した下肢除脂肪量と体幹除脂肪量の比は、日本人地域在住高齢男性における5年後の転倒を予測する：藤原京スタディ骨粗鬆症前向きコホート研究	藍野大学紀要 2024 ; 36 : 90
高田昌寛、阪上奈巳、熊部翔、青山宏樹、塚越千尋、山科吉弘	キャンパス内における障がい者の働く場所と学生がつながる仕組みの創出	地域理学療法学 2024 ; 3 : 126-133
Yumi Fukuyama, Haruka Murakami, Motoyuki Iemitsu	Single Nucleotide Polymorphisms and Tendon/Ligament Injuries in Athletes: A Systematic Review and Meta-analysis	in press
宮本年也、林部美紀、塚越千尋	出題形式と合格率の関係 -作業療法士国家試験の場合-	リハビリテーション教育研究 2024 ; 30 : 43-48
真下いずみ、干飯純子、四本かやの、橋本健志	生活行為向上マネジメントを用いた訪問支援を利用した統合失調症圏・気分障害圏の人々の生活行為と時間使用の変化	作業療法 2024 ; 43(2) : 213-221
真下いずみ	地域で生活する当事者のリハビリに寄与する精神科作業療法の視点 作業療法士による精神科訪問支援 介入内容とリハビリに与える影響	精神神経学雑誌 2024; 2024特別号 : S514-S514
真下いずみ	MTDLPを用いた精神科事例学習に対する作業療法学生の理解度の変化	作業療法ジャーナル 2024 ; 58(12) : 1217-1221
真下いずみ	ひきこもり、未治療者、医療中断者へのアウトリーチ	作業療法ジャーナル 2024 ; 58(13) : 1263-1264
宮本陳敏、池田望	中国における作業療法士養成教育の現況について	大阪作業療法ジャーナル 2024.7 ; Vol.38(1) : 78-86
林部美紀、井口知也、石田眞由、足立一	作業療法士が企画・実施した就労に向けての身だしなみ講座の実践報告	作業療法ジャーナル 2025 ; 59 (1) : 88-91
五十嵐朗	日常生活下における光電容積脈波のウェアラブル計測	日本AME学会誌 2023 ; 31(4) : 504-509
楯谷智子、岡野高之、西村幸司、暁久美子、吉澤亮、山崎博司、濱口清海、扇田秀章、田浦晶子、山本典生、三浦誠、内藤泰、大森孝一	めまいを主訴とする初診患者の外来診療実態調査の試み	Equilibrium Research,2024,VOL83,479-489
Tsutomu Tajikawa, Shimpei Kohri, Taiki Mouri, Takaichi Fujimi, Hiromasa Yamaguchi, and Kenkichi Ohba	Development of Miniaturised Fibre-Optic Laser Doppler Velocimetry for Opaque Liquid: Measurement of the Velocity Profile in the Engine Oil Flow of a Lubrication System	Photonics 2024; 11(9); 892; https://doi.org/10.3390/photonics11090892
畑中由佳、鈴木郁斗、内藤尚、北島信治、坂井宣彦、岩田恭宜、小川充洋、田中志信	近赤外LEDを光源とした簡易光学式透析排液尿素モニタシステムの開発ー FT-IR分光器による透析排液尿素濃度推定の基礎的検討ー	医療機器学2024 ; 94 (5) : 504-513

Kento Harachi, <u>Yusuke Yamamoto</u> , Ayumi Muramatsu, Hajime Nagahara, Noriko Takemura, Shinji Shimojo, Daisuke Furihata & Yuko Mizuno Matsumoto	Channel and model selection for multi-channel EEG input to neural networks	SICE Journal of Control, Measurement, and System Integration, 2024; 17(1), 2385579 : pp.1-10
坂口雄哉、村松歩、 <u>山本祐輔</u> 、奥谷研、平上尚吾、水野（松本）由子	ヘッドマウントディスプレイを使用した運動イメージ時の脳波の機能的結合性の評価	作業療法 2024 ; 43(5) : 265-271
関谷まり、村松歩、 <u>山本祐輔</u> 、原地絢斗、田邊晃史、水野（松本）由子	ストレッチと手浴を組み合わせたケアの自律神経機能評価	日本福祉工学会 2024 ; 26(1) : 4-11

学会発表等(含座長)

発表者, 共同発表者	タイトル	学術集会名・会議名, 場所, 日程, 雑誌名等 (雑誌名は任意)
吉田麻美、中嶋素子、宮河小百合、永田浩志、山本直宗、佐々木恵雲	2型糖尿病の治療におけるリグリチドとエンパグリフロジンの有用性の比較検討	第67回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京, 東京商工会議所, 2024.5.19
佐々木恵雲	ランチョンセミナー：日本人の死生観とケア－医師・僧侶の視点から－	一般社団法人日本災害看護学会第26回年次大会, 大阪, 2024.8.31
栗原秀剛	ポドサイトスリット膜の分子基盤	生理研研究会"上皮イオン環境とその変化が支える細胞機能" (国立生理学研究所, 岡崎) (2024.8.8)
西上あゆみ	大会長講演：災害に強く, そして備えを－病院における防災に取り組んで－	日本災害看護学会第26回年次大会, 大阪, 8.31-9.1、日本災害看護学会誌26 (1)
宗廣謡子、 <u>西上あゆみ</u>	近年の災害時の血液透析に関する調査研究の動向について	日本災害看護学会第26回年次大会, 大阪, 8.31-9.1、日本災害看護学会誌26 (1)
井村享子、 <u>西上あゆみ</u>	大阪府の災害拠点病院に勤務する外来看護師の災害に対する認識	日本災害看護学会第26回年次大会, 大阪, 8.31-9.1、日本災害看護学会誌26 (1)
塚原幸世、 <u>西上あゆみ</u>	急性期病院に勤務する看護師の災害に関する関心と参集の意志との関連性	日本災害看護学会第26回年次大会, 大阪, 8.31-9.1、日本災害看護学会誌26 (1)
渡辺史子、 <u>西上あゆみ</u>	災害看護学履修による看護学生の防災意識と防災行動の実態	日本災害看護学会第26回年次大会, 大阪, 8.31-9.1、日本災害看護学会誌26 (1)
井村享子、 <u>西上あゆみ</u>	災害拠点病院に勤務する外来看護師の災害に対する意識調査	第55回日本看護学会学術集会、熊本、9.27-29
塚原幸世、 <u>西上あゆみ</u>	地震時の看護師の参集に影響を及ぼしている要因－A県下の急性期病院尾看護師を対象として－	第55回日本看護学会学術集会、熊本、9.27-29
三宅光代、阿部宏史、本多容子	「レビー小体型認知症カフェ」での実践報告	日本看護研究学会第50回学術集会、奈良、2024.8.24-25
阿部宏史、三宅光代、本多容子	独居高齢者の支援を行う地域包括支援センターの看護職の支援方法に関する文献レビュー	日本看護研究学会第50回学術集会、奈良、2024.8.24-25
松本晃子、西上あゆみ、宮岡裕香、天野美玖、三宅光代、真鍋由希、中野玲子、本多容子	就業前における教育的支援としての災害看護演習に関する考察 祝卒業フォローアップ研修アンケート調査から	日本災害看護学会誌(1345-0204)26巻1号 Page151(2024.08)、第26回日本災害看護学会年次大会、茨木市文化・子育て複合施設おにクル/茨木市役所南館, 2024.9.1
<u>本多容子</u> 、田丸朋子、 <u>三宅光代</u>	認知症高齢者の車椅子からの転倒転落防止にカラーテープの貼付は有効か	日本看護技術学会第22回学術集会、札幌、2024.10.26-27
田丸朋子、 <u>本多容子</u> 、卜部 紘子	移動援助動作アセスメントツールで比較した看護師の上方移動における環境・姿勢・動作の変化～2012年と2024年での比較～	日本看護技術学会第22回学術集会、札幌、2024.10.26-27
<u>本多容子</u> 、田丸朋子、 <u>三宅光代</u>	患者の個別性に合わせたカラーテープの貼付は転倒予防に活用できるか	日本看護科学学会第44回学術集会、熊本、2024.12.7-8
卜部紘子、田丸朋子、 <u>本多容子</u>	看護師の上方移動援助における腰部負担と自覚している腰痛との関係	日本看護科学学会第44回学術集会、熊本、2024.12.7-8

田丸朋子、本多容子	ベッド上臥床患者への採血時の学生が取る全身姿勢について～看護師との比較～	日本看護科学学会第44回学術集会、熊本、2024.12.7-8
松本晃子、宮岡裕香、三宅光代、阿部宏史、本多容子、大森智美	嚥下障害をもつ長期療養患者と家族を対象とした食事体験がもたらす影響－インクルーシブフードを用いて－	第32回日本慢性期医療学会、横浜、2024.11.14-15
本多容子	市民公開講座2「災害を知って備える－能登半島地震から学ぶ－」座長	日本災害看護学会第26回年次大会、茨木市、2024.9.1
本多容子	ランチョンセミナー「人々の心を灯すBuy One Give One®活動～災害時の「灯り」の大切さ～令和6年能登半島地震被災地への支援について」座長	日本災害看護学会第26回年次大会、茨木市、2024.9.1
Kawano Yuri, Fujimoto Etsuko, Takemoto Keisuke, Kitajima Kengo	School nurses' intervention skills for mental health problems among high school students in Japan	第5回国際ケアリング学会学術集会、2024.3.1-31
Kawano Yuri, Fujimoto Etsuko, Kitajima Kengo	Support for high school students with mental health problems and their families in Japan	第5回国際ケアリング学会学術集会、2024.3.1-31
H. Yokoyama, A. Morishita, S. Sakaguchi, T. Nakano, Y. Nakada	Analysis of the amikacin resistance factor of carbapenem-resistant Escherichia coli AUH-256	The 97th Annual Meeting of Japanese Society for Bacteriology, Sapporo, Aug. 7-9, 2024, Abstract. P.72 P2-181
発表者：前川麻記 共同発表者：齋藤祥乃、川端慶子	乳幼児を持つ共働き夫婦の地域活動に関する実態調査	第65回 日本母性衛生学会総会・学術集会、宮崎市シーガイアコンベンションセンター、2024.10.18
天野美玖、松本晃子、西上あゆみ、中野玲子、真鍋由希、宮岡裕香	5類感染症移行後のCOVID-19感染予防対策の変化がもたらす看護師の負担感に関する実態調査	第26回日本災害看護学会年次大会、茨木市文化・子育て複合施設おにクル/茨木市役所南館、2024.9.1
松本晃子、西上あゆみ、本多容子、真鍋由希、三宅光代、中野玲子、天野美玖	就業前における教育的支援としての看護技術演習に関する考察-祝卒業フォローアップ研修アンケート調査から-	第44回日本看護科学学会学術集会、熊本城ホール、2024.12.7
谷野多見子、矢出装子、山田和子、森岡郁晴	男性労働者が認識する休養がとれている状態の検討	第35回日本医学看護学教育学会学術集会、岡山、2025.3.8
岩佐美香、川崎裕美、植田陽子	特別支援学校で勤務する看護師の看護技術に関する認識	第44回日本看護科学学会学術集会、熊本、熊本城ホール、2024.12.7
和田恵美子、三島瑞穂、藤原奈佳子	医療と看護と介護の連携に活かされるホームヘルパーの観察項目の研究	第44回 日本看護科学学会学術集会、熊本、2024.12.7-8
HORI Tomoko	Involvement from Buddhist Perspectives as Inter-personal Support Profession in the Basic Nursing Education	第5回国際ケアリング学会学術集会、2024.3.1-31
堀智子、米澤知恵	寺を基盤とした認知症カフェに集った学生ボランティアの学業等に及ぼす影響	仏教看護・ビハーラ学会 第20回年次大会、京都、2024.6.22-23
堀智子	ダブルケア経験者の負担感と必要な支援についての検討	第6回在宅医療連合学会大会、千葉、2024.7.22-23
堀智子、千葉晃一	看護基礎教育における多職種連携をゲームフィクションで学ぶ意義－コミュニティコーピングボード®ゲームを教育に用いて－ 第1報	第31回日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会淡路大会、2024.10.28-29

堀智子、松本七子、前川麻記	就学後から成人期までの在宅療養重症心身障害児を養育する母親の障害受け入れに関する心理状態	第33回日本健康医学会総会、東京農業大学、2024.11.9
<u>Naoko Horikawa</u> , Yukiko Akai	Stress Coping Affecting the Burden Perceived by Double Caregivers.	27th East Asia Forum of Nursing Scholars (EAFONS2024), The University of Hong Kong, Pokfulam, Hong Kong, 6-7. Mar.2024.
Kyoko Hosako, <u>Naoko Horikawa</u> , Misa Marushima, Yukiko Akai, Masanobu Yamakawa	Differences in social development items to be noted whether the mother is working.	27th East Asia Forum of Nursing Scholars (EAFONS2024), The University of Hong Kong, Pokfulam, Hong Kong, 6-7. Mar.2024.
Misa Marushima, <u>Naoko Horikawa</u> , Kyoko Hosako, Yukiko Akai	A Study on the Influence of Body Size Perception on Weight Loss in the First Postpartum Month.	27th East Asia Forum of Nursing Scholars (EAFONS2024), The University of Hong Kong, Pokfulam, Hong Kong, 6-7. Mar.2024.
Yuka Hirose, <u>Naoko Horikawa</u> , Junko Yamamoto	An analysis of the care provided by nursing home staff involved in the EOL of foreign elderly.	27th East Asia Forum of Nursing Scholars (EAFONS2024), The University of Hong Kong, Pokfulam, Hong Kong, 6-7. Mar.2024.
Megumi Otani, Keiho Ko, Junko Yamamoto, Takami Yano, Keiko Kumatani, Kozue Yamauchi, Yuka Hirose, Ryotaro Tsuchiya, <u>Naoko Horikawa</u>	The learning effects of volunteering for Japanese nursing students.	27th East Asia Forum of Nursing Scholars (EAFONS2024), The University of Hong Kong, Pokfulam, Hong Kong, 6-7. Mar.2024.
高橋えり、森尾博昭	加齢への態度と生きがい感に対する未来時間展望の媒介効果	日本心理学会第88回大会、熊本城ホール、2024.9.6-8
Fumika Yokoyama, Sanae Matsunaga, <u>Tomoko Yamanaka</u>	Nurses' Skills in Responding to Sudden Changes at Short-Term Facilities for the Elderly in Japan	27th East Asian Forum Of Nursing Scholars, Hong Kong, China, March 5-7, 2024. Poster
<u>山中知子</u> 、錦織史子、日吉和子	尼崎市ユース保健室の実践報告	第43回思春期学会学術集会、神戸市、2024.8.24-25
日吉和子、錦織史子、 <u>山中知子</u>	先進諸外国のユースクリニックを目指した「あまがさきユース保健室」の取り組み	第43回思春期学会学術集会、神戸市、2024.8.24-25
日吉和子、錦織史子、 <u>山中知子</u>	あまがさきユース保健室で子ども若者の命と健康を守るには-フランスのユースクリニックを基に-	第44回日本看護科学学会学術集会、熊本市、2024.12.7-8
Miku Amano, Yuki Manabe, Ayumi Nishigami, Akiko Matsumoto, Yuka Miyaoka, Reiko Nakano	The Sense of Burden Factors for Japanese Ward Nurses after COVID-19 the Transition to Class V Infectious Diseases	The 8th International Research Conference of World Society of Disaster Nursing, Kobe City College of Nursing, Friday, November 29 – Sunday, December 1, 2024
三宅光代、阿部宏史、本多容子	「専門職」が関わる認知症カフェの特徴に関する文献検討	日本看護研究学会第37回近畿・北陸地方会学術集会、福井県、2024.3.16
安藤卓、山科吉弘、岩村真樹、大和洋輔、森田恵美子、何川渉、菊池唯、熊部翔、梶本浩之	地域在住高齢女性における高次生活機能と身体活動との関連	第26回日本骨粗鬆症学会、石川、2024.10.11-13
安藤卓、山科吉弘、岩村真樹、大和洋輔、森田恵美子、何川渉、菊池唯、熊部翔	居住形態の違いによる高齢者の座位行動時間の時間帯別変化	第11回日本地域理学療法学術大会、大阪、2024.11.16-17

安藤卓	口述演題15「介護予防2」座長	第11回日本地域理学療法学会学術大会、大阪、2024.11.16-17
榎井縁	大阪における多文化共生実践の蓄積と継承—『集住地域』の一例として—	プロジェクト研究「多文化・多民族共生を目指す社会教育の挑戦」2024年度日本社会教育学会六月集会、立教大学、2024.6.1-2
榎井縁	外国にルーツをもつ子どもたちが安心して生きられる社会を構築するために	日本小児看護学会第34回学術集会・シンポジウム、大阪国際会議場、2024.7.6-7
ハヤシザキカズヒコ、シム・チュン・キャット、山之内裕子、榎井縁	往還するネパール人と教育	第97回日本社会学会大会、京都産業大学、2024.11.9-10
松下佳代、 <u>平山朋子</u> 、他	汎用的/分野横断的な能力は育成可能か— 学士課程カリキュラムの比較を通して —	大学教育学会第46回大会ラウンドテーブル(テーブル8)、関西国際大学神戸山手キャンパス、2024.6.8
山科吉弘、熊部翔	膝伸展筋力の強弱が水中歩行プログラム後の呼吸筋力改善率に与える影響	第89回日本温泉気候物理医学会総会・学術集会、和歌山、2024.6.2
Yoshihiro Yamashina, Wataru Nanikawa, Masaki Iwamura, Suguru Ando, Hiroki Aoyama, Emiko Morita, Sho Kumabe, Tomoko Hirayama, Kazuyuki Tabira	The effect of the knee extensor muscle strength on expiratory muscle strength improvement after a 12-week underwater walking program	AWP-ACPT CONGRESS 2024 in Bali, Sep 26, 2024.
山科吉弘	座長（一般演題 多面的介入）	第34回日本呼吸ケアリハビリテーション学会、愛知、2024.11.15
新名岬、関本翔、辻岡哲夫、田窪明仁、渡辺一志、松浦義昌、横山久代、川端悠、 <u>山科吉弘</u>	電子化した吹き戻し棒のためのトレーニングデータ収集システムの構築と省電力化のための高信頼再送方式の検討	The 47th Symposium on Information Theory and its Applications, Fukui, Japan. Dec.10-13. 2024.
関本翔、新名岬、辻岡哲夫、田窪明仁、渡辺一志、松浦義昌、横山久代、川端悠、 <u>山科吉弘</u>	電子化された吹き戻し棒を用いた肺年齢推算式の導出～1秒率及び1秒量の回帰式に基づく肺年齢の推算と比較～	The 47th Symposium on Information Theory and its Applications, Fukui, Japan. Dec.10-13. 2024.
Hiroki Aoyama, Daijiro Tsutsumi, Katsushi Ogawa, Seonghee Jeong	The Effectiveness of Pelvic Assistance During Gait with a Walker	WORLD PHYSIOTHERAPY ASIA WESTERN PACIFIC REGION CONGRESS 2024, Aston Denpasar, Bali. September 26-28, 2024.
Akifumi Sugimoto, Syunpei Iwamoto, Hirofumi Hori, Mitsunori Matsushita	EXPLORING METHODS FOR ANALYZING ABNORMAL GAIT USING PORTABLE DEVICES	Asia Western Pacific Region Congress 2024 Bari, Indonesia 26-28 September 2024
<u>杉山芳生</u> 、 <u>平山朋子</u> 、斎藤有吾	学生のPC活用状況と学習行動に関するIR調査—医療系私立大学の事例—	第30回大学教育研究フォーラム、web、2024.3.13-14
田中貴広	口述演題 23 [症例研究] 下肢（THA）	第12回日本運動器理学療法学会学術大会、横浜、2024.9.14-15
<u>何川涉</u> 、淵岡聡	超音波画像による胸腰筋膜厚測定の検者内信頼性	第11回日本筋骨格系徒手理学療法研究会学術大会、大阪 2024.2.11-12
<u>何川涉</u> 、淵岡聡	超音波画像による若年者の胸腰筋膜厚とBMIの相関について	第12回日本筋骨格系徒手理学療法研究会学術大会、神奈川、2024.11.23-24
熊部翔、瓜谷大輔	表面筋電図で評価した筋疲労と超音波画像診断装置で評価した筋浮腫の関係	第12回日本筋骨格系徒手理学療法研究会学術大会、神奈川、2024.11.23-24
近森聡	藍野大学と茨木市の共同事業「森林浴とリラクゼーション」について	日本森林保健学会第14回学術総会、つくば市、2024.7.6

Yumi Fukuyama, Haruka Murakami, and Motoyuki Iemitsu	A genetic association study of tendon and ligament injuries in athletes: A systematic review and meta-analysis	The 29th Annual Congress of the European College of Sport Science. Glasgow 2024 2024.7.1-7
浅野陽菜、田中貴広、福山友晃	女子バスケットボール経験者における体幹筋の持久性トレーニングが静的バランスに与える影響	第36回大阪府理学療法学会、2024.7.28
Toshiya MIYAMOTO, Miki HAYASHIBE, Chihiro TSUKAGOSHI	Relationship between National Occupational Therapist Examination Pass/Fail and Japanese-Language Proficiency Test N1 of the Questions : Discussion from the Japanese Proficiency Test in reading and writing Grade 3	The 8th Asia Pacific Occupational Therapy Congress 2024, Sapporo Convention Center SAPPORO JAPAN, November 6-9, 2024
尾藤祥子	第38回大阪府作業療法学会基調講演	第38回大阪府作業療法学会、藍野大学、2024.12.1
高畑脩平	視機能とDCD	第7回 日本DCD学会、高槻城公園芸術文化劇場、2024.4.21 座長
高畑脩平	思考過程の中にエビデンスを組み込む療育現場でのクリニカルリーズニング	第44回近畿作業療法学会、グランキューブ大阪、2024.6.30 座長
Satoe Takashima, Kazuyo Nakaoka, <u>Shuhei Takahata</u> , Shun Harada, Riku Matsumoto, Sayaka Iwakami	A report on the effectiveness of a collaborative effort between children and occupational therapists for sleep disorder.	the 8th Asia Pacific Occupational Therapy Congress 2024 (APOTC2024), November 6-9(JST), 2024
川本絢未、友澤優衣、高畑脩平	漢字書字に困難を示す児童への視覚情報処理機能に焦点を当てた一事例	第58回日本作業療法学会、札幌コンベンションセンター、2024.11.9
松本竜久、畑本亜希、高畑脩平	視覚関連機能への直接評価により学校での板書活動に改善がみられた事例	第58回日本作業療法学会、札幌コンベンションセンター、2024.11.9
高畑脩平	視機能と学習・生活・運動	第38回大阪府作業療法学会、藍野大学、2024.12.1 座長
Chihiro Tsukagoshi, Kenji Kanekiyo, Norihiko Nakano, Miki Hayashibe, Chizuka Ide	Effects of increasing the duration and frequency of treadmill training on behavioral recovery and axonal reorganization in spinal cord injury model rats	The 47nd Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society, Fukuoka, 2024.7.24-7.27, 1P-363
Chihiro Tsukagoshi, Kenji Kanekiyo, Norihiko Nakano, Miki Hayashibe	Effects of rehabilitative training on locomotor recovery and spinal axonal reorganization in a rat thoracic cord injury model - comparison between forced running and spontaneous locomotor activity -	8th Asia-Pacific Occupational Therapy Symposium (APOTC 2024) , Sapporo, Japan, 2024.11.6-11.9. P1-O-18.
Miki Hayashibe, Kenji Kanekiyo, Chihiro Tsukagoshi	Behavioral characteristic of rats with spinal cord injury walking freely on playground equipment	8th Asia-Pacific Occupational Therapy Symposium (APOTC 2024) , Sapporo, Japan, 2024.11.6-11.9. P3-M-12.

蜂谷敦子、江尻知穂、塚越千尋、納谷敦夫	hyperacusis（聴覚過敏）を訴えた後天性脳損傷患者の検討	第48回日本高次脳機能障害学会学術総会、東京、2024.11.8. 1P4-3
真下いずみ	作業療法士による精神科訪問支援：介入内容とリカバリーに与える影響	第120回日本精神神経学会学術総会、札幌、2024.6.21-23
真下いずみ、三好加菜、児島亮、小塩五月	ひきこもり状態にある人の生活の質	第38回 大阪府作業療法学会、大阪、2024.12.1
真下いずみ、芳賀大輔、中重衛	成人期発達障害者の地域での役割づくりに寄与する精神科作業療法	第38回 大阪府作業療法学会、大阪、2024.12.2
真下いずみ、三好加菜、山根伸吾	対人援助職として勤務するひきこもり経験者の回復過程	日本精神障害者リハビリテーション学会 第31回お台場大会、東京、2024.12.14-15
Chimi Miyamoto	Rehabilitation Strategies for Intellectual Disabilities	China-Japan Children Rehabilitation Academic Exchange Conference (in Chengdu China, 2024.1.8)
Chimi Miyamoto	Current Status and Challenges of Employment Support for Students with Developmental Disabilities in Japanese Higher Education	The 5th interdisciplinary Forum on Autism Spectrum. (in Chengdu China, 2024.4.1-2)
Chimi Miyamoto, Kenji Kanekiyo, Norihiko Nakano	Biochemical Analysis Approach for the Development of a Novel Electrical Stimulation Rehabilitation Method for Spinal Cord Injuries	The 8th Asia Pacific Occupational Therapy Congress 2024 (APOTC2024) (in Sapporo, Japan, 2024.11.6-9)
林部美紀、徳永紀実子、菊池美希、内藤真琴、山田隆人	看護師と協働して実施した不登校児への関わり～作業活動を介して他者と同じ空間を過ごし、コミュニケーションが広がったケース～	第44回近畿作業療法学会、グランキューブ大阪、6.29
林部美紀	司法における作業療法	第44回近畿作業療法学会、グランキューブ大阪、6.30 座長
Miki Hayashibe, Kenji Kanekiyo, Chihiro Tsukagoshi	Behavioral characteristics of rats with spinal cord injury walking freely on playground equipment	the 8th Asia Pacific Occupational Therapy Congress 2024 (APOTC2024), November 6-9(JST), 2024
Chihiro Tsukagoshi, Kenji Kanekiyo, Norihiko Nakano, Miki Hayashibe	Effects of rehabilitative training on locomotor recovery and spinal axonal reorganization in a rat thoracic cord injury model-comparison between forced running and spontaneous locomotor activity-	the 8th Asia Pacific Occupational Therapy Congress 2024 (APOTC2024), November 6-9(JST), 2024
林部美紀	口述発表 就労	第38回大阪府作業療法学会、12.1 座長
五十嵐朗、大倉望、福川佳奈、松永愛実、林拓世	ウェアラブル脈波計を用いた日常生活下における自律神経機能評価に関する検討	第63回日本生体医工学会、2024.5.23-25、口頭発表、日本生体医工学 2024
五十嵐朗、清水芳行	座長：一般演題「循環器6」	第63回日本生体医工学会、鹿児島、2024.5.23-25
田浦晶子、吉川弥生、扇田秀草、大森孝一、伊藤寿一	前庭血管ペリサイトと血管透過性についての検討	第83回日本めまい平衡医学会、名古屋、2024.11.14
吉川弥生、田浦晶子、木下淳、藤本千里	閉経後骨粗鬆症モデルマウスの作成とスタンション所投与による安全性の検討	第83回日本めまい平衡医学会、名古屋、2024.11.14

田浦晶子(座長)	【一般演題 口演 O01-6】第一群「基礎」	第83回日本めまい平衡医学会、名古屋、2024.11.14
若園吉裕、水谷陽二(座長)	副院長としての8年、院長としての8年の京都桂病院運営について	2024年度Kyoto 60 Medical Meeting. 京都、2024.12.28
畑中由佳(座長)	一般演題 その他	第34回日本臨床工学会、フェニックスプラザ ザ・グランユアーズフクイ、福井県織協ビル（福井）、2024.5.19
五十嵐朗、大倉望、福川佳奈、松永愛実、林拓世	ウェアラブル脈波計を用いた日常生活下における自律神経機能評価に関する検討	第63回日本生体医工学会大会、鹿児島、2024.5.23-25
山本祐輔、久山愛翔、村松歩、原地絢斗、田邊晃史、長原一、武村紀子、下條真司、水野（松本）由子、降旗大介、釜江和恵、篠崎和弘	うつ病群と無気力群における脳波の部位間関連性解析	第54回臨床神経生理学会、札幌、2024.10.24-26
田邊晃史、原地絢斗、山本祐輔、村松歩、長原一、武村紀子、水野（松本）由子、下條真司	theta帯域におけるtimelag解析を用いた軽度認知障害患者の脳波の各領域における特徴抽出	第54回臨床神経生理学会、札幌、2024.10.24-26
村松歩、山本祐輔、原地絢斗、田邊晃史、長原一、武村紀子、下條真司、水野（松本）由子、降旗大介	コヒーレンス時系列解析を用いた情動ストレス負荷時における脳波の相互相関係数	第54回臨床神経生理学会、札幌、2024.10.24-26
Yuya Sakaguchi, Yusuke Kawaguchi, Daiki Noguchi, Ayumi Muramatsu, Yusuke Yamamoto, Kento Harachi, Akifumi Tanabe, Ryuji Kobayashi, Shogo Hiragami, Ken Okutani, Kenta Hashimoto, Yuko Mizuno-Matsumoto	EEG spectral analysis of effects of action observation using head-mounted display on motor imagery	8th Asia Pacific Occupational Therapy Congress 2024, Sapporo, Nov.6 - 9, 2024
Akifumi Tanabe, Kyosuke Nakatani, Kento Harachi, Yusuke Yamamoto, Ayumi Muramatsu, Hajime Nagahara, Noriko Takemura, Shinji Shimojo, Daisuke Furihata, Yuko Mizuno-Matsumoto, Kazue Kamae-Shigenobu, Kazuhiro Shinosaki	Development of a model for discriminating electroencephalograms of patients with mild cognitive impairment and healthy individuals using a support vector machine	SCIS&ISIS2024, Himeji, Nov.9 - 12, 2024

社会貢献(1)講演等

講演者, 担当者, 役職者等の氏名	講演のタイトル, 内容等	講演会・組織等の名称, 開催場所, 日付等
佐々木恵雲	仏教特別講演会「健康と病気について」	常連寺、奈良、2024.3.17
佐々木恵雲	浄土真宗本願寺派岐阜教区黒野組研修部研修会講演「感染症をめぐる人権と差別, そして優生思想」	本願寺岐阜別院、岐阜、2024.10.4
西上あゆみ	認定看護管理者教育課程 セカンドレベル安全管理の実際「災害看護」	公益社団法人兵庫県看護協会、2024.7.9
西上あゆみ	認定看護管理者教育課程 セカンドレベル安全管理の実際「災害看護」	2022年度認定看護管理者教育課程、藍野大学 キャリア開発・研究センター、2024.8
西上あゆみ	災害時の看護を考える	公益社団法人滋賀県看護協会、2024.9.5
西上あゆみ	認定看護管理者教育課程 セカンドレベル安全管理の実際「災害看護」	公益社団法人広島県看護協会、2024.9.24
西上あゆみ	認定看護管理者教育課程 セカンドレベル安全管理の実際「災害看護」	公益社団法人滋賀県看護協会、2024.11.18
西上あゆみ	災害支援ナース育成研修	公益社団法人滋賀県看護協会、2024.12.23
西上あゆみ	災害時に向けた看護師の備えと支援のあり方	公益社団法人徳島県看護協会、2025.1.20
西上あゆみ	令和6年度看護基礎教育を考える会情報提供「看護学生の防災意識－看護教育の現場から－」	公益社団法人大阪府看護協会、2025.1.31
本多容子	認知症当事者下坂厚さん講演「認知症と社会参加について」、※聞き手	茨木市高齢者生活支援体制整備推進協議会総会、茨木市役所、2024.11.15
本多容子	認知症看護認定看護師によるレビー小体型認知症ケアのコツ ※コーディネーター	レビー小体型認知症サポートネットワーク大阪、藍野大学、2024.10.19
河野由理	看護学教育課程・精神看護学	愛知県専任教員養成講習会、愛知県看護研修センター、2024.7.12
河野由理	藍野大学中央研究施設シンポジウム	藍野大学中央研究施設、藍野大学、2024.3.4
齋藤祥乃、前川麻記、川端慶子	“自分を大切に”	性教育・滋賀県立八幡高等学校2年生、12.17
中野玲子	認定看護管理者教育課程セカンドレベル「統合演習」講師	藍野大学キャリア開発・研究センター、2024.7-9
中野玲子	認定看護管理者教育課程ファーストレベル「組織管理論Ⅰ」 「統合演習」講師	藍野大学キャリア開発・研究センター、2024.11_12
中野玲子	看護管理研修Ⅱ「組織分析と看護の質」	一般財団法人日本バプテスト連盟医療団、イマヌエルホール、2024.11.2
林周子	看護学授業 成人看護学 高大連携授業	大阪府立大冠高等学校、2024.6.21
林周子	看護学授業 成人看護学 高大連携授業	大阪府立茨木西高等学校、2024.7.5

林周子	認定看護管理者教育課程ファーストレベル 「組織管理論Ⅰ」 「コミュニケーション・ファシリテーション」	藍野大学キャリア開発・研究センター、2024.11.01
山田和子	地域母子保健学	山口県立大学別科助産学専攻、2024.11.19
吉田卓司	いじめ防止対策推進法の運用に関する文科省の近年の施策と対応	高槻市子ども未来館、高槻市小中学校生徒指導担当者連絡協議会、2024.12.13
吉田卓司	スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの連携（高槻市スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー連絡会）	高槻市教育会館、高槻市教育委員会、2024.12.23
植田陽子、岩佐美香、菅井裕行、宇野理沙、小篠史郎	3学期終了定例会	Nurse Fight ; Nurse@Scool研究会、Web、2024.3.23
植田陽子、岩佐美香、菅井裕行、宇野理沙、小篠史郎	夏季休暇前の定例会	Nurse Fight ; Nurse@Scool研究会、Web、2024.7.28
植田陽子、岩佐美香、菅井裕行、宇野理沙、小篠史郎	年度終わりの定例会	Nurse Fight ; Nurse@Scool研究会、Web、2024.12.21
堀智子	高砂コンサルタ（相談支援専門員の研修・学びの場）でのワークショップ コミュニティコーピングファシリテーター	高砂市障がい支援センター主催研修会、兵庫、2024.2.13
堀智子	「第8回スペシャルキッズサポーターの集い」実行委員支援スタッフ	第8回スペシャルキッズサポーターの集い、大阪、2024.3.16
堀智子	「介護保険の話～介護申請、タイミングなど～」	あかんのん安住荘主催 認知症と家族のためのカフェ「あかんのんカフェ&まちの保健室」、大阪、2024.4.14
堀智子	立命館大学産業社会学部「居住環境デザイン論」講義内でコミュニティコーピングのファシリテーター	コミュニティコーピング体験会、2024.6.7
堀智子	開明中学校・開明高等学校（大阪市城東区）でコミュニティコーピングのファシリテーター	コミュニティコーピング体験会、2024.7.22
堀智子	対人援助スタディグループ めめんと杜 コミュニティコーピング体験会	対人援助スタディグループ めめんと杜 コミュニティコーピングオンライン体会、2024.8.11
堀智子	超高齢社会体験ゲーム「コミュニティコーピング」	加西市障害者自立支援協議会事務局、コミュニティコーピング体験会、2024.10.11
真鍋由希	認定看護管理者教育課程セカンドレベル 「人材を育てるマネジメント」	藍野大学キャリア開発・研究センター、2024.8.8
真鍋由希	認定看護管理者教育課程ファーストレベル 「人材育成の基礎知識」	藍野大学キャリア開発・研究センター、2024.11.15
加藤裕規	2023年度 エンドオブライフにむけた意思表明プロセスを支援する実践セミナーファーストレベル講師	日本エンドオブライフケア学会、オンライン開催、2024.2.10、2024.6.22
天野美玖	職業講和「看護師の仕事とは」	枚方市立蹊跼中学校、2024.11.22
三宅光代	講演「レビー小体型認知症について-認知症見立て塾から考える-」座長	レビー小体型認知症サポートネットワーク大阪、藍野大学、2024.6.30
寺田茂	理学療法介入の意義と理学療法士の役割	公益社団法人日本理学療法士協会認定理学療法士講習会（運動器） 2024.10.5

榎井縁	公益財団法人とよなか国際交流協会・理事	公益法人とよなか国際交流協会
榎井縁	特定非営利活動法人IKUNO多文化ふらっと・代表理事	特定非営利活動法人IKUNO多文化ふらっと
榎井縁	大阪府立佐野高等学校・学校運営協議会委員	大阪府立佐野高等学校
榎井縁	大阪府立西成高等学校・学校運営協議会委員	大阪府立西成高等学校
榎井縁	大阪府立大阪わかば高等学校・学校運営協議会委員	大阪府立わかば高等学校
榎井縁	大阪弁護士会・人権賞選考委員会・委員長	大阪弁護士会
榎井縁	姫路市人権教育及び啓発実施計画審議会・委員	姫路市
榎井縁	大阪府適正就学委員会オブザーバー	大阪府教育庁小中学校課
榎井縁	守口市人権尊重のまちづくり審議会・委員長	守口市
榎井縁	大阪市姉妹都市交流推進事業補助金選考委員	大阪市経済戦略局国際担当
榎井縁	兵庫教育文化研究所協力研究員	兵庫教育文化研究所
榎井縁	日立財団グローバルサエティレビュー・編集委員	公益財団法人日立財団
榎井縁	外国人児童生徒等教育アドバイザー	文部科学省総合教育政策局国際教育課
榎井縁	JANPIA休眠預金活用の外国人支援事業・審査委員	認定特定非営利活動法人 日本都市計画家協会
榎井縁	文部科学省委託日本語能力評価方法の改善のための調査研究事業推進会議メンバー	東京外国語大学多言語多文化共生センター
榎井縁	地域国際化推進アドバイザー	一般財団法人自治体国際化協会
榎井縁	令和6年度東海北陸地区図書館地区研修司書等研修会講師「図書館の多文化サービス」	文部科学省・岐阜県教育委員会主催
榎井縁	日本語教育に係る指導者、教員、指導主事等の研修会講師	文部科学省・香川県教育委員会・高松市教育委員会主催
榎井縁	「大阪市識字・日本語教育基本方針」シンポジウムコメンター	文部科学省・大阪市教育委員会主催
榎井縁	京都市立高等学校生徒指導研究会総会講演	京都市教育委員会主催
平山朋子	医療の連携とリハビリテーション	交野女子学院、2024.12.9
山科吉弘	スタッフへの運動方法指導	社会福祉法人珠寿会ケアハウス池田（月1回）、2024

山科吉弘, 安藤卓, 森田恵美子, 梶本浩之, 大和洋輔, 菊池唯, 熊部翔	いばらぎ×立命館DAY2024出展. 体力測定会.	いばらぎ×立命館DAY、2024.5
山科吉弘	吸引の基本と実際－人工呼吸器を用いて－講演「人工呼吸器の概要」講師	奈良県理学療法士協会、2024.2
山科吉弘	教育講演「症例報告の書き方」講師	日本呼吸理学療法学会学術大会、新潟、2024.9
山科吉弘、安藤卓、岩村真樹、森田恵美子、何川渉、大和洋輔、菊池唯、熊部翔、梶本浩之、福山友見、寺田茂、塚越千尋、津田勇人	藍野大学×茨木市南保健福祉センター測定会および講義	茨木市南保健福祉センター、2024.8・2024.10
山科吉弘	ストレッチ体操	茨木市太田地区敬老会、2024.9
山科吉弘、安藤卓、大和洋輔、尾藤祥子	茨木市健康フェア2024に出展. 測定会実施	大阪府茨木市、2024.10.20
岩村真樹	2024年度 認定理学療法士 臨床認定カリキュラム（運動器）「発症予防, 重症化予防, 再発予防」	藍野大学キャリア開発・研究センター、藍野大学(オンライン講義)、2024.10.6
岩村真樹、安藤卓、菊池唯、何川渉、山科吉弘、大和洋輔	はつらつと生きるための健康測定講座vol. 3	はつらつと生きるための健康測定講座、茨木市立生涯学習センターきらめき、2024.2.22・29
岩村真樹、安藤卓、菊池唯、熊部翔、福山友美、山科吉弘、大和洋輔	はつらつと生きるための健康測定講座vol. 4	はつらつと生きるための健康測定講座、茨木市立生涯学習センターきらめき、2024.9.14・21
熊田 仁	職業説明会「理学療法士の仕事」講師	藍野大学市民公開講座、開催：藍野大学、2024.8.19
梶本浩之、前田智香子	Aino de まちトレ『体の調子はどうですか？－からだをきたえて健幸生活』2023年度第5回自重トレーニング&セラバンドトレーニング	藍野大学地域連携プロジェクト、藍野大学、2024.1.19
梶本浩之、前田智香子	Aino de まちトレ『体の調子はどうですか？－からだをきたえて健幸生活』2023年度第6回自重トレーニング&セラバンドトレーニング	藍野大学地域連携プロジェクト、藍野大学、2024.2.9
梶本浩之、前田智香子	Aino de まちトレ『体の調子はどうですか？－からだをきたえて健幸生活』2023年度第7回心身機能測定会	藍野大学地域連携プロジェクト、藍野大学、2024.3.15
梶本浩之、前田智香子	Aino de まちトレ『体の調子はどうですか？－からだをきたえて健幸生活』2024年度第1回心身機能測定会	藍野大学地域連携プロジェクト、藍野大学、2024.9.27
梶本浩之、前田智香子	Aino de まちトレ『体の調子はどうですか？－からだをきたえて健幸生活』2024年度第2回セラバンドトレーニング	藍野大学地域連携プロジェクト、藍野大学、2024.10.17
梶本浩之、前田智香子	Aino de まちトレ『体の調子はどうですか？－からだをきたえて健幸生活』2024年度第3回セラバンドトレーニング	藍野大学地域連携プロジェクト、藍野大学、2024.11.21

梶本浩之、前田智香子	Aino de まちトレ『体の調子はどうですか？—からだをきたえて健幸生活』2024年度第4回セラバンドトレーニング	藍野大学地域連携プロジェクト、藍野大学、2024.12.19
森田恵美子	痩せていても糖尿病？油断は禁物！	藍野大学×茨木市南保健福祉センター 共同研究、南いばらき保健福祉センター、2024.10.8
梶本浩之、前田智香子	Aino deまちトレ -Health and smile with exercise-『からだの調子はどうですか？—からだをきたえて健幸生活—』	R6年度地域連携プロジェクト 開催場所：藍野大学（B107教室、トレーニングルーム） 日付：9/27、10/17、11/21、12/19、1/16、2/13、3/14
山科吉弘、梶本浩之	藍野理学療法学科卒業後研修会 運営 研修会タイトル「呼吸リハビリテーションの基礎-血液ガス・酸素療法・人工呼吸器-」（全3回）	開催場所：zoom 講師：山科吉弘 日付：6/20、6/27、7/4
熊部翔、福山友見、梶本浩之	藍野理学療法学科卒業後研修会 運営 研修会タイトル「膝関節」（全2回）	藍野理学療法学科交流会 開催場所：zoom 講師：第1回）熊部翔、第2回）福山友見 日付：第1回）9月27日、第2回）11月7日
梶本浩之、山科吉弘	藍野理学療法学科交流大会 運営	藍野理学療法学科交流会 開催場所：藍野大学 A203教室 日付：12月8日（日） シンポジスト：小阪広大先生、向井重貴先生、吉田龍洋先生
杉山芳生	大学教育の現状と教学IR	藍野大学・びわこリハビリテーション専門職大学共催教学IRセミナー、Web、2024.9.20
田中貴広	正常な構造・機能と疾病の基礎	公益社団法人 日本理学療法士協会認定理学療法士制度カリキュラム、藍野大学、2024.10.5
田中貴広	姿勢・歩行の評価・分析と理学療法	公益社団法人 日本理学療法士協会認定理学療法士制度カリキュラム、藍野大学、2024.10.27
近森聡、阪上奈巳、菊池唯	藍野大学と茨木市の共同事業「森林浴とリラクゼーション」	茨木市里山センター、2024.6.1
近森聡、阪上奈巳、菊池唯	藍野大学と茨木市の共同事業「森林浴とリラクゼーション」	茨木市里山センター、2024.10.27
近森聡	学生の成長を促進し、守る「粹」	令和6年度阪和地区月曜懇談会「9月例会」、大阪、2024.9.9
近森聡	ストレスマネジメント ストレスを「ともだち」にしよう	藍野大学校友会協賛卒業生対象セミナー、大阪、2024.10.19
近森聡	こころと世界の関係とその多様性	滋賀県立八幡高等学校藍野大学高大連携講義、大阪、2024.12.16
福山友見	膝関節 -伸展制限について-	藍野大学卒業後研修会、2024.11.7 開催：zoomによるオンライン開催
尾藤祥子	正しい姿勢を身につけるために—姿勢が及ぼす心身への影響—	茨木市立中条小学校児童保健委員会研修、茨木市立中条小学校、3.4
尾藤祥子	合理的配慮の必要性和適切な合理的配慮の提供について	茨木市立茨木小学校校内研修会、茨木小学校、5.14

尾藤祥子	リーディングチーム研修	茨木市教育委員会 学校教育部 学校教育推進課、ローズWAM、5.23
尾藤祥子	UDを進める意義	茨木市立春日丘小学校校内研修会、春日丘小学校、6.18
尾藤祥子	知りたい！発達領域の地域の支援	第59回YOU地域連携のための研修会、特定非営利活動法人YOU医療保健福祉研究所、東里いたみホール、7.18
尾藤祥子	教室で行える合理的配慮について	茨木市立福井小学校校内研修会、福井小学校、7.29
尾藤祥子	学校でできる合理的配慮の基礎基本	茨木市立大池小学校校内研修会、大池小学校、7.31
尾藤祥子	茨木市地域子育て支援者研修「遊びながら体と手先をきたえよう」	茨木市立こども育成部子育て支援課、zoom開催、8.7
尾藤祥子	合理的配慮とUDー取り組む意図ー	茨木市立中条小学校教職員研修、茨木市立中条小学校、8.23
尾藤祥子	未熟児教室（らっこ教室）研修：遊びを通じたからだの育ちについて	高槻市子ども未来部子ども保健課、高槻市子ども未来館、9.2
尾藤祥子	引きこもり・不登校支援の実際	藍野大学者社会貢献委員会地域貢献プロジェクト、藍野大学、9.29
尾藤祥子	ICT化による子どもたちの変化や姿勢の実態と有効な取り組みについて	茨木市学校保健交流会研修、茨木市市民総合センター、10.29
尾藤祥子	リーディングチーム研修	茨木市教育委員会 学校教育部 学校教育推進課、茨木市市民総合センター(クリエイトセンター)、11.16
尾藤祥子	遊びながら手先と体をきたえよう	こどもの健やかな発育のための あそび・運動・健康の実践講座、社会福祉法人山善福祉会さんすい保育園、11.16
尾藤祥子	合理的配慮を取り入れた授業づくり	茨木市立畑田小学校校内研修会、畑田小学校、11.25
尾藤祥子	合理的配慮について	茨木市立玉櫛小学校校内研修会、玉櫛小学校、11.27
尾藤祥子	UDと合理的配慮	茨木市立天王小学校校内研修会、天王小学校、11.27
白井雅子	2024年度第2回現職者共通研修「実践のための作業療法研究」講師	大阪府作業療法士会、オンライン研修、2024.9.1
白井雅子	高槻市地域ケア会議OT助言者	高槻市、五領・上牧地域包括支援センター、2024.7.19
白井雅子	滋賀県立八幡高等学校、高大連携、模擬授業	滋賀県立八幡高等学校、2024.11.8・12.16
高畑脩平	子どもの特性理解とサポート ～作業療法の視点から～	久御山町療育教室スタッフ向け実践研修会、久御山町役場、①2024.1.11 ②2024.1.19, ③2024.6.6 ④2024.6.14
高畑脩平	感覚過敏・鈍麻に合わせた遊び・環境設定	はなぶさ保育園 保育士向け講演会、京都市、①2024.1.11 ②2024.5.1
高畑脩平	書字の問題の理解とサポート	奈良県難聴言語発達障害研究会主催講演会、奈良県教育研究所、2024.1.12

高畑脩平	子どもの発達と感覚統合	旭川市保育士会 保育士向け講演会、web、2024.1.17
高畑脩平	自閉スペクトラム症・注意欠如多動症の特性理解とサポート	奈良市子ども未来部主催 保育士向け講演会、奈良市役所、①2024.1.19 ②2024.7.26 ③2024.9.26
高畑脩平	子どもの特性理解とサポート ～感覚統合・作業療法の視点から～	府中市保育士会主催 保育士向け講演会、web、2024.1.20
高畑脩平	読み書き障害の評価と支援	日本LD学会 愛知県支部主催 講演会、2024.1.27
高畑脩平	読字障害の理解と支援	千葉県作業療法士会主催 講演会、web、2024.2.8
高畑脩平	子どもの行動理解とサポート ～作業療法の視点から～	こだま保育園主催 講演会、右京こだま保育園、2024.2.17
高畑脩平	発達障害の特性に合わせたサポート	三次市保育士会主催 講演会、web、①2024.2.29 ②2024.3.11
高畑脩平	子どもの行動理解とサポート ～感覚統合・作業療法の視点から～	久御山町保育士向け講演会、久御山町役場、2024.3.7
高畑脩平	作業療法の専門性	NPO法人オルケスタ主催研修会、河内長野市、2024.3.15
高畑脩平	子どもの行動理解とサポート ～作業療法の視点から～	茨木市子ども育成部主催 幼稚園教員向け講演会、2024.4.26
高畑脩平	子ども理解から始める感覚統合遊び	NARA感覚統合研究会主催研修会、奈良県コンベンションセンター、2024.6.1
高畑脩平	感覚過敏・鈍麻に合わせた遊び・環境設定	醍醐・山科・伏見の保育の質を高める研究会主催講演会、中山保育園、2024.6.14
高畑脩平	子どもの行動理解とサポート ～作業療法の視点から～	島本町公共サービスユニオン主催 学童保育指導員向け講演会、島本町立ふれあいセンター、2024.6.19
高畑脩平	読み書き障害の理解とサポート	高槻市特別支援研究部会主催講演会、高槻小学校、2024.6.19
高畑脩平	子どもの特性理解とサポート ～作業療法の視点から～	茨木市特別支援学校主催 夏季研修会、2024.7.22
高畑脩平	感覚過敏・鈍麻に合わせた遊び・環境設定	京田辺市幼稚園教育研究会主催 夏季研修会、京田辺市役所、2024.7.26
高畑脩平	子どもの特性理解とサポート ～感覚統合・作業療法の視点から～	北葛城郡保育協議会主催 講演会、さわやかホール、2024.7.27
高畑脩平	集団での体幹プログラムの効果	近畿地区肢体不自由教育研究大会、教育講演、2024.8.6
高畑脩平	子どもの特性理解とサポート ～感覚統合・作業療法の視点から～	山科区保育園連絡協議会主催 講演会、安井保育園、2024.8.21
高畑脩平	子どもの特性理解とサポート ～作業療法の視点から～	奈良養護学校 夏季研修会、2024.8.23
高畑脩平	子どもの特性理解とサポート ～感覚統合・作業療法の視点から～	茨木市りんでん幼稚園 園内研修会、2024.8.28
高畑脩平	子どもの特性理解とサポート ～作業療法の視点から～	御所市通級指導教室研究会主催講演会、web、2024.8.30

高畑脩平	発達障害の特性理解とサポート ～作業療法の視点から～	茨木市あけぼの学園主催、保護者向け研修会、ローズWAM、2024.9.2
高畑脩平	子どもの特性理解とサポート ～作業療法の視点から～	八尾市教育委員会主催 夏季研修会、八尾市教育研究センター
高畑脩平	子どもの特性理解とサポート ～感覚統合・作業療法の視点から～	楽只保育所 園内研修会、2024.10.16
高畑脩平	子どもの特性理解とサポート ～作業療法の視点から～	西日本私立小学校連合会半日研修会、光華小学校、2024.11.6
高畑脩平	感覚統合療法 実践講座	京都国際社会福祉センター主催 実践講座、2024.11.16-17
高畑脩平	書字への支援	DCD研修会、京都テルサ、2024.12.22
津田勇人、宮本年也、塚越千尋	茨木市介護予防事業 太田地区「元気はつらつ体操」教室	太田地区福祉委員会、2024.1.18・2.15・3.21・4.8・5.16・6.20・7.18・9.19・10.17・11.21
津田勇人、塚越千尋	藍野大学×茨木市南保健福祉センター「運動向上プログラム」認知症は運動で予防できる？	茨木市南保健福祉センター、2024.9.10
尾藤祥子、塚越千尋	福祉体験授業	茨木市立太田中学校、2024.10.30・11.1
塚越千尋、阿部宏史、阪上奈巳、畑中由佳、古澤朗子、宮岡裕香	子育て支援カフェ「おやこ de-Aino かふえ」	藍野大学MLC2F、2024.1～2024.12の毎月第3木曜
黄波戸航、西田千夏、古澤朗子、阿部宏史、吉川美和子、阪上奈巳、尾藤祥子、塚越千尋	こどもの健やかな発育のためのあそび・運動・健康の実践講座	さんすい学園、2024.11.16・2025.1.11
森元隆文、小川泰弘、 <u>真下いづみ</u> 、他	精神科作業療法における評価尺度の活用、運営	精神領域チーム研修、大阪府作業療法士会、web、2024.12.20
真下いづみ	発達のかたよりによる生きづらさがある人に作業療法ができること、講師	重点課題研修、日本作業療法士会、web、2024.12.21
林部美紀	「引きこもり・不登校支援の実際」企画運営担当者（社会貢献委員会 地域連携プロジェクト助成金）	藍野大学作業療法学科、藍野大学MLC棟アクティブコモンズ、9.29
林部美紀	「保護者カフェ」企画運営担当者（社会貢献委員会 地域連携プロジェクト助成金）	藍野大学作業療法学科、藍野大学MLC棟アクティブコモンズ、9.29
宮崎浩	主催者側責任者として、会場に医療機器についての展示ブースを設けることを決め、本学臨床工学科からホール内外に3ブース出して来場者への展示解説を実施した。	第9回「豊かで健康な人生のために」大阪市城東区医師会 市民公開講座 & 大阪府医師会フィルハーモニー ウィンターコンサート(大阪市立城東区民センター)、2024.12.14
菊池瞳	2024年第2回市民公開講座 中学生職業体験講座での実習担当	藍野大学市民公開部会、藍野大学、2024.8.9
畑中由佳	2023年度第2回生涯教育セミナー 「大学院へのすすめ」Webセミナー、運営	大阪府臨床工学技士会、Web、2024.1.27
畑中由佳	2024年度基礎教育セミナー ～ME機器操作を学びスキルアップしよう～、現地セミナー、運営	大阪府臨床工学技士会、大阪ハイテクノロジー専門学校、2024.4.21

畑中由佳	献血協力活動	大阪赤十字血液センター、大阪府臨床工学技士会、梅田HEP FIVE前、2024.8.25
畑中由佳	生命維持管理装置についての発表	高大連携授業（明浄学院高等学校看護メディカルコース2年生）2024.9.18
畑中由佳	臨床工学技士の紹介	高大連携授業（明浄学院高等学校総合キャリアコース2年生）2024.9.18
畑中由佳	2024年度学術教育セミナー 第7回学術教育セミナー心電図検定対策 (2, 3級程度) , 現地セミナー, 運営	大阪府臨床工学技士会、大阪ハイテクノロジー専門学校、2024.10.27
畑中由佳	臨床工学技士の紹介	高大連携授業（明浄学院高等学校総合キャリアコース2年生）、2024.11.6
畑中由佳	臨床工学技士の紹介	高大連携授業（明浄学院高等学校総合キャリアコース2年生）、2024.11.20
畑中由佳	臨床工学技士と生命維持管理装置	高大連携授業（滋賀県立八幡高等学校看護医療コース2年生）、2024.11.22
畑中由佳	臨床工学技士の紹介	高大連携授業（明浄学院高等学校総合キャリアコース2年生）、2024.11.27
畑中由佳	「大阪市城東区医師会市民公開講座 & 大阪府医師会フィルハーモニー・ウィンターコンサート」における医療機器展示および来場者説明	大阪コミュニティ協会城東区支部協議会、大阪市城東区医師会、大阪府医師会フィルハーモニー、大阪私立城東区民センター（城東スギタクレストホール）、2024.12.14

社会貢献(2)役員, 委員等

役職者等の氏名	役職・従事職務等	組織等の母体または名称, 日付等
佐々木恵雲	顧問	内分泌糖尿病心理行動研究会
佐々木恵雲	顧問	西本願寺 医師の会
佐々木恵雲	顧問	<身>の医療研究会
佐々木恵雲	評議員	日本自律神経学会
佐々木恵雲	客員研究員	一般財団法人同和教育振興会
佐々木恵雲	評議員	一般財団法人本願寺ビハーク医療福祉会
栗原秀剛	外部コンサルタント	JT(日本たばこ産業株式会社) 医薬総合研究所
栗原秀剛	評議員	日本臨床分子形態学会
栗原秀剛	代議員	公私立大学実験動物施設協議会
後藤昌弘	副理事長	保健医療学学会
後藤昌弘	評価委員	大学基準協会
西上あゆみ	先遣隊	日本災害看護学会、2013～継続
西上あゆみ	学会誌査読委員	日本災害看護学会、2009～継続
西上あゆみ	推薦理事	日本災害看護学会、2023～継続
西上あゆみ	年次大会長、査読委員、ランチョンセミナー座長	日本災害看護学会第26回年次大会、2024.9
西上あゆみ	和文誌専任査読委員	日本看護科学学会、2021.10.1～継続
西上あゆみ	評議員	日本災害医学会、2018.1.1～継続
西上あゆみ	学会誌査読委員	日本リウマチ看護学会、2021.9～継続
西上あゆみ	査読委員	日本リウマチ看護学会第5回学術集会、2024.4
西上あゆみ	災害連携委員	日本看護系大学協議会、2021.6～継続
西上あゆみ	災害支援対策委員	日本看護系大学協議会、2022.7～継続

西上あゆみ	防災・災害看護委員会	公益社団法人大阪府看護協会、2023～継続
西上あゆみ	倫理・利益相反委員会 外部委員	日本産業看護学会、2024.4～2027.3
本多容子	副代表	レビー小体外認知症サポートネットワーク大阪支部
本多容子	委員	大阪府地域福祉推進審議会
本多容子	会長	大阪府地域福祉推進審議会 福祉基金運営分科会
本多容子	会長	茨木市総合保健福祉審議会 高齢者施策推進分科会
本多容子	委員	茨木市地域包括支援センター協議会
本多容子	会長	茨木市社会福祉法人設立認可及び施設整備審査委員会
本多容子	委員	茨木市介護保険苦情調整委員会委員
本多容子	企画委員	日本災害看護学会第26回年次大会
本多容子	実行委員	日本看護技術学会第23回学術集会
本多容子	実行委員長	日本健康行動科学学会第24回学術集会
河野由理	日本精神保健看護学会誌査読委員	日本精神保健看護学会
河野由理	愛知アルコール連携医療研究会世話人	愛知アルコール連携医療研究会
河野由理	日本精神衛生学会誌査読者	日本精神衛生学会
河野由理	日本精神保健看護学会第34回学術集会 実行委員	日本精神保健看護学会第34回学術集会、2024. 6.1～6.2、千葉
齋藤祥乃	査読委員	滋賀母性衛生学会誌、2011～
中野玲子	日本赤十字学園評議員会評議員	学校法人日本赤十字学園、2020.4～
中野玲子	日本バプテスト連盟医療団看護管理部顧問	日本バプテスト連盟医療団、2023.11～
中野玲子	一般社団法人日本災害看護学会第26回 年次大会査読委員および実行委員	一般社団法人日本災害看護学会第26回年次大 会、2024.8.31～9.1
山田和子	大阪府子ども家庭審議会竿親審査専門部 会	大阪府、2024.4～
山田和子	大阪市妊産婦等生活援助事業委託事業者 選定会議委員	大阪市、2024.4～
吉田卓司	学校運営協議会委員	大阪府立千里星雲高等学校(1994.4～現在に至 る)

吉田卓司	評議員	あんず保育園(1994.4～現在に至る)
吉田卓司	副運営委員長	兵庫民主教育研究所(1994.4～現在に至る)
代表：植田陽子 事務局：岩佐美香	事務局	Nurse Fight ; Nurse@Scool研究会
岩佐美香	事務局	第26回日本災害看護学会、2024.8.31-9.1
和田恵美子	高槻市介護認定審査委員	高槻市 2024.4.1-2025.3.31 年間約20回、月曜日
和田恵美子	実行委員	一般社団法人日本災害看護学会第26回年次大会、2024.8.31-9.1
堀智子	ORGANIZING COMMITTEE	DEMENTIA WEBINAR 2022 Organizing Committee
真鍋由希	看護研究支援	京都桂病院
加藤裕規	ACPを推進するための実践・教育・研究委員会 委員	日本エンドオブライフケア学会
神田栄美子	在宅で看取りってどうなん!? Vol.4～理想の終末期を実現する～：世話人	PCPセンター 大東市提案公募型委託事業 場所：大東市民会館キラエホール 8.12（月）開催
神田栄美子	よくいきかふえ：世話人	あをによし祭 奈良県総合医療センター 場所：奈良県総合医療センター 9.28（土）開催
神田栄美子	がん征圧・患者支援チャリティイベント リレー・フォー・ライフ・ジャパン2024泉州かいづか：実行委員	リレー・フォー・ライフ・ジャパン泉州かいづか 場所：貝塚市役所前広場 10.26(土)～27(日)開催
神田栄美子	実行委員	リレー・フォー・ライフ・ジャパン泉州かいづか（2021.2～現在に至る）
神田栄美子	介護・施設整備ボランティア	ホームホスピス一般社団法人 あゆ実 （2024.2～現在に至る）
三宅光代	事務局	レビー小体型認知症サポートネットワーク大阪
寺田茂	JPTANEWS問題作成委員	公益社団法人日本理学療法士協会
寺田茂	近畿理学療法学会学術大会査読員	近畿理学療法学会学術大会
寺田茂	大阪府理学療法士会北支部症例発表会査読員	大阪府理学療法士会
安藤卓	第11回日本地域理学療法学会学術大会 演題査読者	日本理学療法学会連合 日本地域理学療法学会
安藤卓, 何川渉, 大和洋輔, 菊池唯, 熊部翔	第1275回臨床実習指導者講習会運営	公益財団法人日本理学療法士協会、藍野大学、2024.9.7-8
安藤卓, 岩村真樹, 大和洋輔, 山科吉弘, 福山由美, 菊池唯	太田地区住民のための健康測定会	藍野大学、2024.11.23

榎井縁	共生学会・理事・編集委員長	共生学会
榎井縁	異文化間教育学会・学会誌常任編集委員	異文化間教育学会
榎井縁	基礎教育保障学会・理事	基礎教育保障学会
平山朋子	理事	保健医療学学会
平山朋子	障がい支援区分市町村審査会委員	豊中市
平山朋子	講師	交野女子学院
平山朋子	代議員	日本医学教育学会
平山朋子	大阪地区理学療法士委員	理学療法士・作業療法士・言語聴覚士 養成施設教員等講習会
山科吉弘	日本呼吸理学療法学会学術大会 査読者	日本呼吸理学療法学会
山科吉弘	北支部新人症例発表会査読者	大阪府理学療法士協会
山科吉弘	近畿理学療法学術大会 査読者	大阪府理学療法士協会
山科吉弘	日本筋骨格系徒手理学療法学会学術大会 査読者	日本筋骨格系徒手理学療法学会
山科吉弘	日本呼吸理学療法学会 評議員	日本呼吸理学療法学会
山科吉弘	日本呼吸理学療法学会機関誌編集委員会事務局長	日本呼吸理学療法学会
山科吉弘	呼吸理学療法学 論文査読委員	日本呼吸理学療法学会
山科吉弘	日本呼吸理学療法学会学術大会2025準備委員（プログラム集作成部門責任者）	日本呼吸理学療法学会
山科吉弘	社会福祉法人珠寿会 評議員	社会福祉法人珠寿会
山科吉弘	The Journal BIOPHILIA Reviewer	International Biophilia Rehabilitation Academy
山科吉弘	Respiratory Investigation Reviewer	日本呼吸器学会
山科吉弘	創動運動実施技術を利用したリハ医療再構築に向けた機器開発委員会委員	バイオフィリア研究所
青山宏樹	大阪府理学療法士会・広報部長	大阪府理学療法士会

熊田仁	大阪府理学療法士会 茨木市理学療法士会 監事	公社)大阪府理学療法士会 2018.10～現職
熊田仁	第36回大阪府理学療法学会 査読委員	公社)大阪府理学療法士会
杉本明文	理事	大阪府理学療法士会
杉本明文	委員	大阪府理学療法士会 組織率向上・人材育成特別委員会
杉本明文	委員	大阪府理学療法士会 万博事業準備特別委員会
杉本明文	監事	日本理学療法推論学会
田中貴広	副準備委員長	第11回 日本筋骨格系徒手理学療法研究会 学術大会 準備委員
田中貴広	副大会長	第13回日本運動器理学療法学会学術大会
田中貴広	学術大会委員会 委員	一般社団法人 日本運動器理学療法学会
田中貴広	専門理学療法士(運動器) 口頭試問試験官	公益社団法人 日本理学療法士協会
田中貴広	機関誌調整委員	運動器理学療法学
田中貴広	運動器分野 作問委員	認定理学療法士 試験問題作成部会
大和洋輔	大阪府理学療法士会 広報部・副部長	大阪府理学療法士会
阪上奈巳	特別非常勤講師 (福祉医療)	大阪府立高槻特別支援学校
阪上奈巳	非常勤理学療法士	中村病院
新保健次	会長	近畿SCD・MSA友の会
新保健次	共同代表	全国SCD・MSA患者連絡協議会
高田昌寛	一般社団法人大阪府理学療法士会生涯学習センター 大阪府理学療法学会学術大会における応募演題の査読	一般社団法人大阪府理学療法士会生涯学習センター (令和5年 11 月 14 日から令和7年度定時総会の終結の時まで) ※任期満了後であっても、新たに選任された者が就任するまで任期伸長
津田勇人	第51回 (令和6年度) 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士 養成施設教員等講習会 大阪地区、大阪地区運営委員	【共催】厚生労働省 医療研修推進財団 【主管】日本リハビリテーション医学会 【運営】日本理学療法士協会・日本作業療法士協会・日本言語聴覚士協会 【協力】全国リハビリテーション学校協会 【会場】リポート 【期間】令和6年8月19日(月)～9月11日(水)

津田勇人	日本作業療法士協会 教育部 委員	一般社団法人日本作業療法士協会
津田勇人	第57回日本作業療法学会演題査読委員	一般社団法人日本作業療法士協会
宮本年也	大阪府作業療法士会学術局教育部老年期領域チーム・代表	大阪府作業療法士会
宮本年也	第44回近畿作業療法学会・査読者	近畿作業療法学会
宮本年也	第38回大阪府作業療法学会・事務局長	大阪府作業療法士会
宮本年也	レビー小体型認知症サポートネットワーク大阪・運営役員	レビー小体型認知症サポートネットワーク大阪
宮本年也	大阪市立大学共生社会研究会・理事	大阪市立大学共生社会研究会
尾藤祥子	特別教育相談員	茨木市教育センター
尾藤祥子	合理的配慮協力員	茨木市教育委員会学校教育推進課
尾藤祥子	支援を要する令和6年度新小1児童の見立てと指導 協力員	豊中市教育委員会児童生徒課
尾藤祥子	母子保健事業 高槻市長期療養児訪問リハビリ事業 派遣作業療法士（アドバイザー）	高槻市こども未来部
尾藤祥子	子ども発達サポートチーム チーム員	大阪府作業療法士会
尾藤祥子	子育て支援団体連絡会C地区担当者	茨木市こども支援センター
尾藤祥子	第38回大阪府作業療法学会学会長	大阪府作業療法士会
尾藤祥子	「医療的ケア児を健やかに育む共生社会の実現に向けての歩み」運営委員	非営利団体医療的ケアを必要とする児童に対する就学支援の拡充を目指す会、2024.11.23
白井雅子	大阪府作業療法士会学術局教育部新人教育チーム部員	一般社団法人 大阪府作業療法士会
高畑脩平	日本作業療法士協会 制度対策部員	日本作業療法士協会
高畑脩平	研究助成委員会 委員長	奈良県作業療法士会
高畑脩平	実行委員	第44回近畿作業療法学会
高畑脩平	実行委員長	第38回大阪府作業療法学会
高畑脩平	論文査読委員	臨床作業療法学会
高畑脩平	口述発表査読	第38回大阪府作業療法学会
高畑脩平	論文査読委員	三輪書店 作業療法ジャーナル

高畑脩平	校閲委員	医歯薬出版
高畑脩平	理事	NPO法人はびりす
塚越千尋	大阪府作業療法士会学術局 機関誌編集部門	一般社団法人 大阪府作業療法士会
塚越千尋	障害支援区分認定審査委員	茨木市
塚越千尋	日本作業療法学会第7期演題審査者	一般社団法人 日本作業療法士協会、2024～2026
塚越千尋	第44回近畿作業療法学会 演題査読者	第44回近畿作業療法学会事務局
塚越千尋	第44回近畿作業療法学会 座長	第44回近畿作業療法学会, 2024.6.30
塚越千尋	第38回大阪府作業療法学会 査読者	一般社団法人 大阪府作業療法士会、2024.9.12～10.15
塚越千尋	第38回大阪府作業療法学会 運営委員	一般社団法人 大阪府作業療法士会、2024.12.1
真下いづみ	学術誌作業療法 査読者	日本作業療法士協会
真下いづみ	日本作業療法士協会, 学術部委員	日本作業療法士協会
真下いづみ	大阪府作業療法士会, 学術局教育部 精神領域チーム	大阪府作業療法士会
真下いづみ	京都府作業療法士会, ひきこもり支援OTチーム	京都府作業療法士会
真下いづみ	京都府作業療法士会, ひきこもり支援OTチーム	京都府作業療法士会
真下いづみ	障害支援区分等認定審査会委員	茨木市
真下いづみ	障害支援区分等認定審査会委員	大阪市
真下いづみ	校閲委員	医歯薬出版
真下いづみ	第38回 大阪府作業療法学会, 実行委員	大阪府作業療法士会
真下いづみ	日本デイクア学会 第29回年次大会 兵庫大会, 運営委員	日本デイクア学会
真下いづみ	全国ひきこもり学会, 実行委員, 運営委員	ひきこもり支援OTチーム
真下いづみ	会員	南山城ひきこもり支援会
宮本陳敏	理事	中国リハビリテーションセラピスト協会、2019.8
宮本陳敏	研究員	神戸大学大学院2023.4

宮本陳敏	顧問	成都西南児童病院、成都西南児童リハビリテーション病院、2024.1.4
宮本陳敏	実行委員	第38 回大阪府作業療法学会、2024.12.1
小谷（林部）美紀	副会長	大阪府北摂地域里親の会、愛&夢
林部（小谷）美紀	理事	NPO法人日本学び協会
林部美紀	実行委員	第44回近畿作業療法学会
林部美紀	学術委員	第38回大阪府作業療法学会
林部美紀	論文査読	日本作業療法研究学会
林部美紀	口述発表査読	第38回大阪府作業療法学会
五十嵐朗	学会抄録査読者	46th Annual Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society, 2024.7.15-19
五十嵐朗	査読者	Physiological Measurement
五十嵐朗	学科代表者	一般社団法人 日本臨床工学技士教育施設協議会
五十嵐朗	養成施設代表者	Clinical Engineering
田浦晶子	学術委員会 委員長	日本耳鼻咽喉科学会京都府地方部会（2015.4.1-）
田浦晶子	めまい相談医制度運営委員会 担当理事	日本めまい平衡医学会（2023.10.28-）
田浦晶子	日本めまい平衡医学会査読委員	日本めまい平衡医学会（2017.12.17-）
田浦晶子	日耳鼻会報査読委員	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会（2022.8.22-）
田浦晶子	京都大学医学部耳鼻咽喉科頭頸部外科学教室同窓会幹事	京都大学医学部耳鼻咽喉科頭頸部外科学教室同窓会（2021-）
田浦晶子	一般社団法人日本めまい平衡医学会理事	日本めまい平衡医学会（2023.10.28-）
田浦晶子	めまい平衡医学会 専門会員資格審査委員会（医師講習会）担当理事	日本めまい平衡医学会（2023.10.28-）
田浦晶子	めまい平衡医学会 学会のあり方委員会担当理事	日本めまい平衡医学会（2023.10.28-）
水谷陽一	学術評議員	腎癌研究会
水谷陽一	クラス委員	京都大学医学部同窓会芝蘭会

水谷陽一	技術専門員	京都府立医科大学臨床研究審査委員会
水谷陽一	査読者	International Journal of Cance
水谷陽一	査読者	Scientific Reports
水谷陽一	査読者	Cancer Science
水谷陽一	査読者	Urology
水谷陽一	査読者	PLOS ONE
郡慎平	査読員	生体医工学シンポジウム2024
畑中由佳	学術委員	一般社団法人大阪府臨床工学技士会（2012年～現在に至る）
畑中由佳	代議員	一般社団法人大阪府臨床工学技士会（2018年～現在に至る）
畑中由佳	幹事	一般社団法人電解水透析研究会（2020年～現在に至る）
畑中由佳	理事	一般社団法人大阪府臨床工学技士あい（2024年～現在に至る）
林拓世	第2種ME技術実力検定試験・作問委員	生体医工学会
山本祐輔	試験監督	ME2種実力検定試験大阪会場stuff
山本祐輔	査読者	電気学会 電子・情報・システム部門
山本祐輔	入試作問者	藍野大学

専門的学術講演(企業, 研究施設, 病院, 班会議等)

著者, 共著者	タイトル	学術集会名・会議名, 場所, 日程
西上あゆみ	災害関連死を防ぐ備え方	大阪府内地域連携プラットフォーム公開講座、2024.9.9
西上あゆみ	令和6年度(46回)看護師卒後研修会「災害看護」	福岡県医師会、2024.9.10
西上あゆみ	大規模災害における病院が備えておくべきこと	一般社団法人京都地域医療学際研究所、2025.2.6
本多容子	看護研究について	社会福祉法人京都社会事業財団 京都桂病院職員研修会、2024.6.7

本多容子	大学入試における面接対策について	追手門学園高等学校 教員研修会、2024.8.21
本多容子	看護研究について	医療法人東和会 第一東和会病院 職員研修会、2024.12.17
河野由理	看護研修会講師	看護研究研修会、第一東和会病院、2024.12.17
中田裕二、横山雛子、板垣博之、福留むつみ、水野友美子	医療施設内および検体検査分離薬剤耐性菌の解析	藍野大学・藍野病院共同研究、2024年
中田裕二	メディカルサイエンスを支える分析技術－微生物と感染症－	住友グループ 第574回大阪一水会例会、大阪住友ビル、2024.4.3
前川麻記	はじめての看護研究 講義「研究発表の方法」	看護研究支援、京都桂病院、2024.6.14
山科吉弘	卒後勉強会「血液ガスってなに？」	藍野理学療法学科交流会、6月、2024.
山科吉弘	卒後勉強会「酸素療法の基礎」	藍野理学療法学科交流会、6月、2024.
山科吉弘	卒後勉強会「人工呼吸器の基礎」	藍野理学療法学科交流会、7月、2024.
熊田仁	第1108回 臨床実習指導者講習会 講義5「臨床実習における学生評価」講師	藍野大学主催：臨床実習指導者講習会、Web開催、2024.9.7-8
熊田仁	2024年度 認定理学療法士臨床認定カリキュラム（運動器分野）必須科目：3「医学的診断と治療介入」講師	藍野大学主催：認定理学療法士臨床認定カリキュラム（運動器分野）、Web開催、2024.10.5-6
熊田仁	2024年度 認定理学療法士臨床認定カリキュラム（運動器分野）必須科目：4「関節可動域制限の要因と治療手技」講師	藍野大学主催：認定理学療法士臨床認定カリキュラム（運動器分野）、Web開催、2024.10.5-6
熊田仁	2024年度 認定理学療法士臨床認定カリキュラム（運動器分野）選択（実技）科目：2「肩関節疾患の機能解剖と理学療法」講師	藍野大学主催：認定理学療法士臨床認定カリキュラム（運動器分野）選択（実技）科目2、対面開催、2024.10.27
熊田仁	蘇生会総合病院 リハスタッフ研修会「肩関節疾患の理学療法」講師	2024年度 医療法人蘇生会 蘇生会総合病院リハスタッフ研修会、対面実施、2024.11.12
寺田茂、熊田仁、田中貴広、安藤卓、前田智香子、大和洋輔	認定理学療法士臨床認定カリキュラム（運動器）、運営	認定理学療法士臨床認定カリキュラム（運動器）、藍野大学、2024.10.5
寺田茂、熊田仁、田中貴広、安藤卓、前田智香子、大和洋輔	認定理学療法士臨床認定カリキュラム（運動器）、運営	認定理学療法士臨床認定カリキュラム（運動器）、藍野大学、2024.10.6
寺田茂、熊田仁、田中貴広、安藤卓、前田智香子、大和洋輔	認定理学療法士臨床認定カリキュラム（運動器）、運営	認定理学療法士臨床認定カリキュラム（運動器）、藍野大学、2024.10.26
寺田茂、熊田仁、田中貴広、安藤卓、前田智香子、大和洋輔	認定理学療法士臨床認定カリキュラム（運動器）、運営	認定理学療法士臨床認定カリキュラム（運動器）、藍野大学、2024.10.27
田中貴広	整形外科疾患のQ&A	宇治おうばく病院 院内研修会、2024.8.6

田中貴広	股関節障害に対するリスク管理、評価、運動療法	医誠会グループ研修会，医誠会国際総合病院、2024.11.10
熊部翔	基礎知識を踏まえた膝関節屈曲可動域制限に対する評価について	2024年度藍野大学理学療法学科卒後研修会 第2弾 第1回基礎編、2024.9.27
新保健次	脊髄小脳変性症の病態と障害の理解	大阪電気通信大学特別講義、大阪電気通信大学四条畷キャンパス、2024.5.8
高田昌寛	自身の環境で最大限に職能を発揮するために必要なこと -理学療法と研究-	部門会、緑成会病院、2024.10.13
高田昌寛	脳卒中術後リハビリテーション指導・症例分析について	リハビリテーション臨床指導プロジェクト、General Hospital of Tisco（中国／太原市）、2024.12.28
尾藤祥子	教員と実習指導者のためのMTDLP教育法①「教育ツールとしてのMTDLP活用の実践例紹介 ③卒前～卒後教育の連携」□	日本作業療法士協会重点課題研修 MTDLP委員会、zoom開催、2025.1.26
尾藤祥子	教員と実習指導者のためのMTDLP教育法①「教育ツールとしてのMTDLP活用の実践例紹介 ③卒前～卒後教育の連携」□	日本作業療法士協会重点課題研修 MTDLP委員会、zoom開催、2024.10.6
高畑脩平	読み書きの土台と感覚・運動・身体	株式会社LITALICO主催 講演会、web、2024.3.3
高畑脩平	感覚統合療法のエビデンス	淀川キリスト教病院、2024.3.17
塚越千尋	脊髄損傷モデルラットにおけるリハビリテーション訓練の効果－強制歩行と意欲にもとづく自発運動が後肢行動回復と軸索再編成にどのような影響を及ぼすか－	2023年度中央研究施設シンポジウム、MLC2Fアクティブコモンズ、2024.3.4
塚越千尋	社会的行動障害のリハビリテーション－小脳性認知情動障害を主に－	公立甲賀病院、2024.10.2
真下いずみ、菊山有香	つまずいても大丈夫！－就職活動と就労継続の相談事例から－	京都文教大学就労セミナー、2024.11.27
宮本陳敏	日本の特殊教育におけるOTの役割	中国成都大学教育学部特殊教育学科、中国成都市、2024.1.4
宮本陳敏	発達障がい分野におけるOTのアプローチ研修会	厚朴国際リハビリテーション学術交流センター、中国西安市、2024.7.10
宮本陳敏	International Rehabilitation clinical Guidance project	General Hospital of Tisco、中国山西省太原市、2024.12.27
宮本陳敏	臨床アドバイザー	藍野病院、リハビリ科作業療法室、2024.4.1～2025.3.31
宮本陳敏	2025日本国際博覧会（EXPO2025大阪・関西万博）ホームページ翻訳（中国語）	2024.9
宮本陳敏	作業療法士	芦屋市障害福祉課機能訓練室、2024.4.1～2025.3.31

新聞、雑誌、放送等

該当者	見出し・題名	媒体、期日
佐々木恵雲	NEXT JAPAN～熱き求道者～「人生に寄り添う医療を学べる」	毎日放送、2024.12.14
西上あゆみ	第26回年次大会を終えて	日本災害看護学会ニュースレター、2024.12.1
山田和子、古澤朗子	動画「自分たちが暮らす市区町村について調べてみよう」	平野かよ子、山田和子、守田孝恵、福田吉治(編著)、ナースing・グラフィカ 健康支援と社会保障②公衆衛生、大阪市：メディカ出版；2025.1
邑本俊亮、細川彩	逃げ遅れ招く「認知バイアス」：楽観論振り払って、東日本大震災の被災者の語りから	北海道新聞 2024.1.23
近森聡	森の包容力に導かれて	森林技術（日本森林技術協会発行）、2025.1月号
高畑脩平	でこぼこボン！ 監修	NHK 教育テレビ Eテレ
宮崎浩	おしゃべり音楽マガジン「くらこれ！」	FM大阪、2024.6.23

あとがき

創立 20 周年の節目の年の年報をお送りでき歓びに耐えない。大学は来年度より新しい学部構成でスタートする。スタッフ一同、新しい気持ちで教育・研究・学生の育成に向かうことになる。

本年度は紀要やジャーナルの投稿数も倍増し、教員の諸活動にも拍車がかかっているように見える。大げさだが、新しい藍野大学のスタートとなる。

山田義博（藍野大学中央図書館長）

令和 7 年 2 月 26 日

【題字揮毫】

佐々木真美

2015 年 2016 年 2022 年 日展入選

2019 年 日本芸院展 大賞 受賞

2017 年 小野市展 小野市長賞 受賞

2018 年 三木市展 三木市長賞 受賞

藍野大学年報 2024

発行日 令和 7 年 4 月 1 日

編 集 藍野大学年報編集部会
藍野大学中央図書館事務センター

発 行 学校法人 藍野大学 藍野大学
〒 567-0012 大阪府茨木市東太田 4 丁目 5 番 4 号
電話 072-627-1711(代表) FAX 072-627-1753

印 刷 株式会社プリント大阪



学校法人 藍野大学 藍野大学

大阪府茨木市東太田4丁目5番4号

072-627-1711(代表) <https://univ.aino.ac.jp>